

YOKOHAMA
CITY
UNIVERSITY

横浜市立大学
総合履修ガイド



国際教養学部

国際商学部

理学部

データサイエンス学部

医学部

国際総合科学部

2026

目 次

(国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部・医学部・国際総合科学部)

2026年度 学事日程表

2026年度 学年暦予定表

全学生共通

I 横浜市立大学の方針	1
1. 大学の基本方針	1
2. 人材育成目標・学位授与方針(ディプロマポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラムポリシー)	2
3. カリキュラム体系の特色	8
II 卒業までのルール	10
1. 大学について	10
2. 卒業要件	10
3. 学 位	11
4. 単位制度	11
5. 単位認定	12
6. 学期制と授業時間	14
7. 授業(講義・演習・実験、実習等)、開講期、欠席	14
8. 休講・補講	18
9. 試 験	19
10. 成 績	22
11. 進級要件	24
12. ゼミ・研究室変更について	25
13. 身分異動(休学・復学、退学、留学、転学部、他大学受験、再入学試験)	25
III 履修案内	31
1. 履修申請～成績公開までのスケジュール	31
2. 履修申請手続き	32
3. 履修相談	38
IV 学務事務の窓口案内	40
1. 全体的な注意事項	40
2. 窓口受付時間	40
3. 業務案内	41
4. 窓口での約束事	42
5. 電子メールによる連絡	42
V 共通教養科目	43
1. 科目概要	43
i 問題提起科目群	43
ii 技法の修得科目群	44
iii 専門との連携科目群	49
2. 共通教養科目を履修するための前提科目	49
3. 「地域志向科目」について	50
4. 履修のしかた(1年次で履修する科目)	51
5. 実践科目の概略について	56
6. Guide to Practical English & Advanced Practical English	59
7. 情報関連科目(2023年度以降入学者)	63
8. 「基礎ゼミ」のクラス配属について	64
9. 基礎物理学実験・基礎化学実験・基礎生物学実験について	65
10. リメディアル講座について	66
11. 英語による授業の紹介	66
12. 初習外国語(中国語、韓国・朝鮮語、ドイツ語、フランス語、スペイン語)について	67

VI 国際教養学部における専門教育	75
1. 学部の特色	75
2. 学系紹介	75
3. 卒業必要単位一覧	76
4. 「演習（ゼミ）」について	80
5. 「プレゼミA」（必修科目）の配属方法について	80
6. 副演習について	80
7. 教員免許状の取得について	80
8. 卒業論文について	81
9. 大学院科目の早期履修制度	82
10. 履修モデル（一例）	83
11. 国際教養学部「国際英語プログラム」（※英語教員免許取得予定者は修了必須）	85
12. 教員一覧	90
VII 国際商学部における専門教育	93
1. 学部の特色	93
2. 卒業必要単位一覧	93
3. プレゼミAの配属について	95
4. ゼミ配属について	95
5. 前提科目について	95
6. 卒業論文について	96
7. 大学院科目の早期履修制度	97
8. 履修モデル	98
9. データサイエンス人材育成プログラム（国際商学部）	100
10. 教員一覧	101
VIII 理学部における専門教育	103
1. 学部の特色	103
2. 卒業必要単位一覧	103
3. 卒業までの履修の流れ	104
4. 卒業論文について	106
5. 理学部前提科目一覧	106
6. 大学院科目の早期履修制度	107
7. 履修モデル（一例）	108
8. 教員一覧	111
IX データサイエンス学部における専門教育	115
1. 教育の理念・目的	115
2. 学部の特色	115
3. 卒業に必要な単位数	116
4. 進級要件	117
5. 1年次の履修科目（必修）について	118
6. ゼミ配属のルール	119
7. 大学院科目の早期履修制度	119
8. 卒業論文について	120
9. データサイエンス人材育成プログラム	121
10. 教員一覧	123

X	領域横断型プログラムについて	124
	1. プログラム設置の趣旨	124
	2. プログラム概要	124
	3. プログラム修了までの流れ	125
	4. 修了証について	125
	5. 注意事項	125
	6. プログラム参加申請期間（予定）	125
	7. 各プログラムの紹介	126
XI	教員免許状の取得（国際教養学部・理学部）	141
	1. 教員免許状の種類・教科	141
	2. 基礎資格・必要単位数	141
	3. 履修の要領	141
	4. 介護等体験（中学校教諭免許状取得予定者は必須の実習）	142
	5. 履修カルテと教職実践演習	142
	6. 教育実習	142
	7. 免許状申請手続	143
	8. 教員免許状取得条件	143
	9. 憲法・体育等の科目の単位修得要件	144
	10. 教職専門科目の単位修得要件	144
	11. 各教科専門科目の単位修得要件	145
	12. 国際教養学部「国際英語プログラム」（※英語教員免許取得予定者は修了必須）	145
XII	医学部における専門教育	147
	1. 医学科	148
	2. 看護学科	152
XIII	科目一覧表	155
	1. 前提科目	155
	2. 共通教養科目	159
	3. 全学開放科目	189
	4. 専門科目	195
	5. 教職専門科目	208

令和8(2026)年度 金沢八景キャンパス 学事日程表

	月 日	学 事 日 程
前 期	4月1日(水)	学年開始
	4月1日(水)	} 春季休業
	4月4日(土)	
	4月6日(月)	入学式、新入生オリエンテーション
	4月7日(火)	新入生、2・3・4年次生オリエンテーション
	4月10日(金)	前期授業開始
	4月8日(水)	} 学生定期健康診断
	4月14日(火)	
	4月17日(金)	} 履修申請期間
	4月23日(木)	
	4月30日(木)	} 曜日調節日(休講)
	5月2日(土)	
	5月6日(水)	授業実施日(振替休日)
	6月1日(月)	創立記念日
	7月20日(月)	授業実施日(海の日)
	7月31日(金)	} 補講日
	8月6日(木)	
	8月7日(金)	} 夏季休業
9月21日(月)		
後 期	9月24日(木)	後期授業開始
	10月1日(木)	} 後期科目履修申請期間
	10月7日(水)	
	10月12日(月)	授業実施日(スポーツの日)
	10月29日(木)	曜日調節日(休講)
	10月30日(金)	} 大学祭(10月30日準備、10月31日～11月1日開催、11月2日後片付け)(金沢八景)
	11月2日(月)	
	11月3日(火)	授業実施日(文化の日)
	11月21日(土)	} Yokohama Medical Festival(11月20日準備、11月21日～22日開催)(福浦)
	11月22日(日)	
	11月23日(月)	授業実施日(勤労感謝の日)
	12月16日(水)	} 卒業論文提出期間(国際商学部)
	12月17日(木)	
	12月21日(月)	} 卒業論文提出期間(国際教養学部)
	12月22日(火)	
	12月28日(月)	} 冬季休業
	1月2日(土)	
	1月12日(火)	} 曜日調節日(休講)
	1月14日(木)	
	1月16日(土)	} 大学入学共通テスト
	1月17日(日)	
	1月25日(月)	} 卒業論文提出期間(理学部)
	1月29日(金)	
	1月28日(木)	} 卒業論文提出期間(データサイエンス学部)
1月29日(金)		
1月26日(火)	} 補講日	
2月1日(月)		
3月25日(木)	卒業式	

令和8(2026)年度 金沢八景キャンパス学年暦

	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	29	30	31	1	2	3	4
				春季休業開始 /TOEFL-ITP			春季休業終了
4月	5	6	7	8	9	10	11
		入学式 オリエンテーション	オリエンテーション	曜日調整日(休講)	曜日調整日(休講)	金①	土①
	12	13	14	15	16	17	18
	履修申請	月②履修申請	火②履修申請	水②履修申請	木②履修申請	金②履修申請	土②履修申請
5月	19	20	21	22	23	24	25
	履修申請	月③履修申請	火③履修申請	昭和の日	曜日調整日(休講)	曜日調整日(休講)	曜日調整日(休講)
	26	27	28	29	30	1	2
		月③	火③	昭和の日	曜日調整日(休講)	曜日調整日(休講)	曜日調整日(休講)
6月	3	4	5	6	7	8	9
	憲法記念日	みどりの日	こどもの日	水③/振替休日	木③	金④	土④
	10	11	12	13	14	15	16
		月④	火④	水④	木④	金⑤	土⑤
7月	17	18	19	20	21	22	23
		月⑤	火⑤	水⑤	木⑤	金⑥	土⑥
	24	25	26	27	28	29	30
		月⑥	火⑥	水⑥	木⑥	金⑦	土⑦
8月	31	1	2	3	4	5	6
		月⑦/創立記念日	火⑦	水⑦	木⑦	金⑧※1Q最終週	土⑧※1Q最終週
	7	8	9	10	11	12	13
		月⑧※1Q最終週	火⑧※1Q最終週	水⑧※1Q最終週	木⑧※1Q最終週	金⑨	土⑨
9月	14	15	16	17	18	19	20
		月⑨	火⑨	水⑨	木⑨	金⑩	土⑩
	21	22	23	24	25	26	27
		月⑩追試(1Q科目)	火⑩追試(1Q科目)	水⑩	木⑩	金⑪	土⑪/大学説明会
10月	28	29	30	1	2	3	4
		月⑪	火⑪	水⑪	木⑪	金⑫	土⑫
	5	6	7	8	9	10	11
		月⑫	火⑫	水⑫	木⑫	金⑬	土⑬
11月	12	13	14	15	16	17	18
		月⑬	火⑬	水⑬	木⑬	金⑭	土⑭
	19	20	21	22	23	24	25
		月⑭/海の日	火⑭	水⑭	木⑭	金⑮	土⑮/TOEFL-ITP
12月	26	27	28	29	30	31	1
		月⑮	火⑮	水⑮	木⑮	補講日	補講日
						※2Q最終週(7/31~8/6)	
	2	3	4	5	6	7	8
1月		補講日	補講日	補講日	補講日	補講日	補講日
					理・DSオープンキャンパス	夏季休業開始 国際教養・国際商オープン キャンパス	
	9	10	11	12	13	14	15
		窓口閉室日	山の日	窓口閉室日	窓口閉室日	窓口閉室日	窓口閉室日
2月	16	17	18	19	20	21	22
				追試(前期・2Q科目)	追試(前期・2Q科目)	医学オープンキャンパス	TOEFL-ITP
	23	24	25	26	27	28	29
3月	30	31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
4月	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
5月	27	28	29	30	1	2	3
	6	7	8	9	10	11	12
6月	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
7月	27	28	29	30	1	2	3
	6	7	8	9	10	11	12
8月	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
9月	27	28	29	30	1	2	3
	6	7	8	9	10	11	12
10月	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
11月	27	28	29	30	1	2	3
	6	7	8	9	10	11	12
12月	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
1月	27	28	29	30	31	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
2月	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
3月	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
4月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
5月	21	22	23	24	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6
6月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
7月	21	22	23	24	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6
8月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
9月	21	22	23	24	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6
10月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
11月	21	22	23	24	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6
12月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
1月	21	22	23	24	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6
2月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
3月	21	22	23	24	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6

①~⑮ : 授業回数 □ : 祝日開講日 □ : 休日・曜日調整日(休講)

※ 土曜・日曜・祝日(祝日開講日を除く)及び8/10~14・12/28~1/3は、金沢八景・鶴見・舞岡・みなとみらいサテライトの各キャンパス事務室は閉室となります。
 ※ 窓口閉室日のうち8/10を除く期間及び入試関連日は、構内への入構も原則できませんのでご注意ください。

全 学 生 共 通

- I. 横浜市立大学の方針
- II. 卒業までのルール
- III. 履修案内
- IV. 学務事務の窓口案内

I 横浜市立大学の方針

現在私たちが暮らしている現代社会を取り巻く課題は、複合的な要因を含み、ますます複雑になってきています。近年、科学技術は目覚ましい進展を遂げ、かつて経験したことのない急激なスピードでの情報化社会への変化の中で、大学が教育の質を維持し、責任を果たしていくためには、自ら課題を見つけ探求する姿勢と、さまざまな問題を解決する能力を備え、国際社会で活躍できる基礎となる幅広い教養と豊かな人間性・倫理観を育む教育を行うことが必要です。

一方、日本や世界の政治や経済の動向を見ると、今までの常識ややり方では対処できないような大規模で、根本を揺るがすような危機に見舞われていることがわかります。特に最近では新型コロナウイルスによる感染症(COVID-19)が世界的に大きな脅威をもたらし、社会全体に多大な影響を与え、様々な変化が起きました。

今まで体験したことのないような予測不可能な時代を生きるためには、専門分野の枠を超えたさまざまな知識を得て、多角的に物事を考える力と高い専門性を兼ね備えた、豊かな人間力を有することが必要です。

このような教育を実現するために、横浜市立大学の全体的な理念である「YCUミッション」のもと、以下のような基本方針を定めています。

YCUミッション

国際都市横浜と共に歩み、教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。

1. 大学の基本方針

(1) 横浜から世界へ羽ばたく人材育成

少子高齢化やグローバル化が進む厳しい時代において、みなさんが世界へ羽ばたくために“国際性”を意識していかなければなりません。横浜というフィールドで多様な教養と文化を学び、高い専門性と独自性を持ち、様々な人々と接し、世界の様々な分野で活躍する優れたリーダーを目指してください。

(2) 知の創生・発信

大学は新たな“知”を創生する場です。横浜市立大学での学びがみなさんの知的好奇心を世界をリードする研究へと誘います。ヨコハマのさらなる魅力や新たな医療の創出に取り組み、みなさんが生み出した新たな“知”を横浜から世界へ積極的に発信してください。

(3) 知的・医療資源の還元

横浜市立大学は横浜市が設立した大学として、横浜市民、そして広く世界から必要な大学とされることが存在意義となります。そのために市民・社会に対し、本学で生み出された知識、技術、医療を積極的に還元し、横浜市立大学の魅力を伝えるとともに、市民・社会へ貢献していきます。

2. 人材育成目標・学位授与方針(ディプロマポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラムポリシー)

学位授与方針 (ディプロマポリシー)

ディプロマポリシーとは、卒業認定・学位授与に関する方針のことです。本学では、以下のようなポリシーを定めています。

国際教養学部

(1) 知識・理解

社会・文化・人間を理解するうえで必要な専門的知見を修得するとともに、現代の社会や都市が直面する課題を解決するためのアプローチを身に付けている。なお、上記に加え、学系ごとに次の能力を身に付けている。

●教養学系

哲学・身体科学・心理学・文学・言語学・歴史学・社会学・法学・国際関係学・地域研究などの人文・社会科学を中心に、社会・文化・人間の活動の本質を理解するために必要な学問領域の基本的知識と豊かな教養を獲得している。

●都市学系

地域科学・都市計画学・空間学などに関する幅広い知識に基づき、世界規模の課題から都市・地域問題までのさまざまなレベルの課題にアプローチすることができる。

(2) 技能

英語をはじめとする外国語の運用能力、文化的背景に基づいた多様性への理解、理論を実践に応用する能力、そして共感を獲得し、課題を解決するためのコミュニケーション能力を身に付けている。

なお、上記に加え、学系ごとに次の能力を身に付けている。

●教養学系

多様な言語・宗教・民族・価値観の人々が共存する地域社会や、グローバル化する国際社会の複雑な課題を発見し、解決するために有効な技能を修得している。

●都市学系

確かな思考力に基づいた、理論を実践に応用する力、他分野の知識を融合する能力、高次のリテラシー、実践性の高い外国語運用能力、クリティカル・シンキング及び諸主体の連携をとりもつコーディネート機能を身に付けている。

(3) 態度・志向性

- 異なる価値観を持つ人々が協働し共生する社会を創り出そうとする志向性、都市・地域課題に積極果敢に取り組む態度、希望ある未来を切り開くフロンティア精神・起業マインドを獲得している。
- 豊かな人間性、高い倫理観、自文化と異文化への深い理解、多様な価値観や文化規範を尊重・活用するダイバーシティマネジメントの観点に立って物事に取り組むことができる。
- 生涯にわたって主体的・自発的に学び続け、課題に挑戦し続ける態度を身につけている。

国際商学部

(1) 知識・理解

- ビジネスの世界において、国際的に共通知識として身につけておかなければならない経営学・経済学の基礎的知識とコミュニケーション能力を修得している。
- 文理融合的視野と専門分野を融合し、社会の課題を解決する高度な実学素養を備えている。

(2) 技能

- 課題発見力と未来をデザインする応用力を発揮し、新たな事業を企画立案し、実現するスキルを身につけている。

(3) 態度・志向性

- 本学設立当初からの伝統である「人と進んで交わり共に資質を高める」態度を持ち、グローバルに広がる多様な価値観を理解し、科学の目をもって自らの視点を相対化できる。

理学部

(1) 知識・理解

- 自然科学分野の基礎について全般的に学ぶことで、理学を体系的に理解している。
- 共通教養や科学英語はもとより、研究倫理など社会的背景についての教養も身につけている。
- 自然現象を物質及び生命、両方の観点から多角的に捉えるための知識を身につけている。
- 医学・農学・工学などの応用分野、それらと連携した研究分野においても将来活躍することのできる課題発見能力や課題解決能力を身につけている。

(2) 技能

- 研究計画を立案でき、研究中に生じる様々な問題に適切に対応できる。また、実験結果を正しく解釈し、論理的に考察し、論文としてまとめることができる。
- 高度な実験技術や解析手法を修得しており、正確な実験結果を得ることができる。
- 聞き手に合わせて論理的な説明ができ、活発な議論を展開できる。

(3) 態度・志向性

- 応用分野あるいは諸外国の研究活動に常に意識を向け、それらと連携して新たな展開を生み出せる学際性と国際性を身につけている。
- 社会の要請を正しく把握し、未解明の課題に果敢に挑戦する意欲がある。さらに、解決に向かって粘り強く努力する姿勢を体得している。

データサイエンス学部

(1) 知識・理解

- ①現実の課題をデータとの関係性からとらえる能力、またはものごとの裏に潜む数理的な法則・関係を見抜く能力を獲得している。
- ②基礎から応用にわたる医療、経済社会、情報等に関するデータサイエンスにかかる課題を俯瞰し、これらの応用分野に適用できる課題発見・課題解決能力を獲得している。

(2) 技能

- ①各応用分野における課題を追究するための計画立案及び課題解決の手法を修得している。特に、統計学とアルゴリズムを基礎としたコンピュータサイエンス、データ解析に習熟し、適切な課題解決策を考案することができる。
- ②豊かな表現力で、国内外の様々な分野の人々と円滑にコミュニケーションを図ることができる。

(3) 態度・志向性

- ①常に人間や社会に対する興味や関心を持ち続け、各分野の課題をデータから数理的・分析的に考える基礎的能力を持ち、また、様々な人々と協同して課題解決を図る態度・志向性を有し、社会に貢献することへの高い意識を有している。
- ②総合的な知性と教養に基づいて国際社会、地域社会に貢献を図る旺盛なチャレンジ精神を持ち、より良い社会の実現に向け努力する姿勢を身につけている。

医学部

○医学科

(1) 知識・理解

基礎医学・地域医療から先端医療まで、幅広い分野で活躍する上での基本となる医学の知識・技術が身に付いている。

(2) 汎用的技能

基本的な観察・実験技能及び基本的診療技能が身に付いている。

(3) 態度・志向性

医学の担い手たる使命感・倫理観・責任感・コミュニケーション能力が身に付き、更に科学的探究心と創造性を修得している。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

生命科学・医学・医療の分野で活躍する臨床医、医学研究者となる能力が身に付いている。

○看護学科

(1) 知識・理解

豊かな人間性と高い倫理観を備え、看護専門職に必要な基礎的知識を身に付けている。高度先端医療を受ける人々から、地域社会で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献できる看護実践の基本となる知識を身に付けている。

(2) 汎用的技能

看護職が専門的な立場から責任を持って解決すべき事象を見抜く課題発見能力、広い視野で物事を判断する力、並びに課題解決能力など、科学的に思考する力を身に付けている。

全学共通の教養科目並びに専門科目等を通して、看護実践に必要な人間関係能力、多職種と協働する力を身に付けている。

(3) 態度・志向性

看護実践者として、生命の尊厳を基調とした高い倫理観を養い、人権を尊重する態度、加えて責任感、自律性、柔軟性を備え、地域社会の人々の健康と福祉に積極的に貢献する姿勢を身に付けている。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

主体的な学習態度を身に付けるとともに、異文化を理解し、変化する社会の中で国際的な視野をもち、看護専門職として自己研鑽し、社会に貢献できる人材となっている。

教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムポリシーとは、ディプロマポリシーを達成するために必要な教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について、基本的な考え方を示したものです。本学では以下のように定めています。

国際教養学部

本学の多様な全学開放科目や、Practical English Centerを活用し、幅広い知識、深い教養と国際性についての教育を行う。特に、演習や実習を通して、各分野の学問的専門性を養うとともに、他分野の知識を融合する力や、実践的課題の解決に応用するスキルを学修する。

なお、上記に加え、学系ごとに次のポリシーを定める。

●教養学系

社会・文化・人間の普遍的側面に関する学びを目的として、哲学・身体科学・心理学・文学・言語学・歴史学・社会学・法学・国際関係学・地域研究などの人文・社会科学を中心とする多様な領域の講義科目を置く。また、自文化と異文化に関する確かな理解や、多様な文化規範を尊重・活用する態度を養うため、充実した複数言語プログラム、日本文化、外国文化及び国際社会の研究に関する専門教育の科目を置く。

●都市学系

現代の都市・地域に関わる応用的分野の知識・理解を獲得するため、地域科学・都市計画学・空間学に関する講義科目を置く。

国際商学部

- 国際的に通用する経営学・経済学の基礎的知識を身に付け、企業経営や行政にかかる課題を発見し分析する科学的思考力を身につける教育を行う。
- 本学の多様な全学開放科目や、Practical English Centerを活用し、幅広い知識、深い教養と実業界で役立つ確かな英語力を学修する。
- 既成概念にとらわれない視点で未来をデザインする創造的思考力を学修する。そのために文理融合的視野を身に付ける教育を行う。
- 新しいコトを企画立案し、事業化する方法論を学修し、問題解決のプロセスや企画内容を明快に相手に説明し実現するコミュニケーション能力を高める教育を行う。
- 学問的な知識を土台に、学生が主体的に動くプロジェクト型演習や国内外の企業と連携したアクティブラーニングを積極的に取り入れ、実業界で必要となる現場力を養う教育を行う。
- 多様な価値観を理解し、科学の目をもって自らの視点を客観的に相対化でき、リーダーシップを適時適切に行使することができるグローバル人材としての素養を身に付ける教育を行う。

理学部

- 研究者や技術者の行動規範となる研究倫理を身につける。
- 語学教育科目、情報関連科目、ゼミ科目などの共通教養科目、人文・社会科学分野などの他学部開講科目を履修し、豊かな教養・コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会問題に対して自然科学の知識を活用して取り組む能力を身につける。
- 諸外国の研究活動を正確に理解するための科学英語を身につける。
- 物理学・化学・生物学・地学・数学分野の基礎を体系的に学修する。
- 物質科学や生命科学、またはそれらの融合領域における専門知識を学修する。
- 理学の理解に基づき、医学・農学・工学などの応用分野へ展開するための知識を身につける。
- 実験実習科目等を通し、高度な実験技術や解析技能を身につける。
- 卒業研究を通したアクティブラーニングを実施することにより、関連分野・諸外国の研究活動に目を向けつつ、課題発見能力や課題解決能力を身につける。

データサイエンス学部

- 本学の多様な全学開放科目や、Practical English Centerを活用し、幅広い知識、深い教養と国際性を身につける。
- 数理を基礎とし、体系的にデータサイエンスの専門分野を修得する。
- 計算機、オペレーティングシステムに習熟するための実習を行う。
- 実習・演習において、現場と結びついた課題解決型の教育・研究を通して実践力とコミュニケーション能力を養う。
- 現実の課題にアプローチする際に必要な統計学・アルゴリズム等を幅広く学ぶとともに、各応用分野におけるデータサイエンスの必要性や発展について学修する。
- 応用分野の基礎知識を学修し、多様な専門科目によりこれらの分野の問題に応じてデータサイエンスを活用、展開できる基本的な能力を養う。
- 応用分野へデータサイエンスを活用、展開するために、演習や実習を配置する。
- 学生の関心に応じ、統計学又はアルゴリズムに関連する知識を深く学ぶ科目や、数量分析に関する科目を配置する。
- 自然科学分野または社会科学分野の基礎知識を学ぶことができる科目を配置する。

医学部

○医学科

- 倫理観を養い、多角的な視点から物事を考える力や、学際的にさまざまな分野の知識を修得するため、共通教養科目並びに医学科基礎教育科目を配置し、将来医師になるための基本的な知識や問題解決能力が身に付く科目を配置する。
- 優れた医師や医学研究者として活躍するために必要な基礎医学の知識、論理的思考法及び判断能力を習得できる科目を配置する。
- 時代と社会の医療要請に応えることのできる優れた医師や医学研究者となるために、コアとなる臨床医学の知識とそれに基づいた検査・診断・治療の進め方を習得し、問題解決に向けて科学する心と基本的な臨床力を養う医学教育の知識を習得できる科目を配置する。
- 症候から、問題解決のための基礎あるいは臨床医学的知識を整理し、臨床推論に準じた思考過程を訓練する科目や科学的根拠に基づいた論理的思考と科学的検証により、問題を解決する能力が修得できる科目を配置する。加えて、臨床実習に必要な基本的診療技能を身に付け、医療チームの一員として、協調性と積極性並びに責任を発揮できる態度と技量が身に付く科目を配置する。
- 臨床現場での幅広い技能の習得を通じて、医師としての責任・義務及びマナーを理解し、患者や医療スタッフと良好な人間関係を構築する能力が身に付く科目を配置する。

○看護学科

- カリキュラムの中軸には、課題探求・教養と知識・創造力・問題発見能力・解決能力・倫理観を備えた総合的人間力を培う共通教養科目を配置する。その後、看護学が追究する人間の健康と生活と密に関連する専門支持科目、「健康生活」という考え方を基盤とした、「健康生活基礎・応用・統合」の3分野から構成された専門科目を体系的に配置する。
- 専門科目は、講義→演習→実習の順序性をもって配置すると共に、講義では概論→方法論の順序性を担保する。
- 健康生活基礎看護学は、健康生活応用看護学並びに健康生活統合看護学の基盤ともなることから、健康生活応用看護学並びに健康生活統合看護学に先行して配置する。
- 健康生活応用看護学は、発達に即した看護と発達を横断的に精神面から捉える看護学に加え、対象を個と集団との関係で捉えるのみならず、地域社会の健康生活と関わる仕組みを構築できる力を習得する看護学を配置する。
- 健康生活統合看護学は、専門性をより発揮させる視点で、看護実践活動の中から看護の特質を明らかにできる力を養成することを目指し、その動機付けとして入学初期の健康生活基礎看護学開始から4年間を通して段階的に学べるように配置する。

※学則や履修規程等については、大学のホームページに掲載されています。(アクセス方法は下記参照)

【学 則】



【通則、履修規程等】



3. カリキュラム体系の特色

本学では、自ら課題を見つけ探求する積極的な姿勢と幅広い知識に支えられた高い専門的能力を有するとともに、豊かな人間性と倫理観を備えた人間を育成します。

- ◆国際教養学部では、共通教養教育と専門教育を通じて、深い思考と柔軟な発想、理論に裏打ちされた実践力でグローバル時代の未来を切り開く人材を育成します。
- ◆国際商学部では、教養教育を土台に専門教育を通じ、経営学と経済学の専門性に裏付けられたマネジメントに関する高度な実践力（高度な実学能力）を涵養し、実業界に貢献するグローバルビジネス人材を育成します。
- ◆理学部では、物理学、化学、生物学、地学、数学分野の基礎教育と、それらを融合した高度な専門理学教育を通じ、著しく発展している科学技術に対応できる能力を備えた人材を育成します。
- ◆データサイエンス学部では、教養教育及び専門教育を通じ、種々の応用分野に展開できる基礎能力を保持し、各学生の特徴を生かしたデータサイエンス人材を育成します。
- ◆医学部では、高度な教養教育の概念を、医学及び看護学の専門教育に結びつけ、プライマリーケア（初期総合診療）から先端医療に対応しうる専門職を育成します。
- ◆大学院では、それぞれの専攻分野に即した高い実務能力を備えた専門家を養成します。

このような本学の教育目標を達成するための「カリキュラム体系の特色」を概観すれば、以下のようになります。

(1) 全学生に共通の教養教育（共通教養科目）

本学に入学する全ての学生は、「総合的人間力」を高めること、大学での学び方を身に付け学びの可能性を知ることを目的として、1年次に共通教養科目を履修します。

(2) 国際化の推進

常にグローバルな視点から世界を把握し、国際都市横浜から発信できる人材の育成を目指し、今や国際共通語となった英語によるコミュニケーション能力の獲得を大学における教育のスタートと位置付けます（Practical English）。さらに、さまざまな機会をとらえグローバルな活躍への可能性の拡大を図ります。

(3) 国際教養学部での専門教育

国際教養学部は、教養学系と都市学系の2学系で編成されています。教養学系では「国際社会」「国際文化」「人間科学」いずれかのクラスターを選択し専門の軸を固めるとともに、隣接学問領域との融合をはかります。都市学系では、「都市政策・まちづくり」クラスターの学びを中心に理論と実践の往復をしながら勉強を進めます。両学系とも、学びの集大成として卒業論文を作成します。

(4) 国際商学部での専門教育

国際商学部では、経営学と経済学を中心とした学問的な専門性に基づき、現実の国際的な社会経済活動に即し、既成概念にとらわれない課題発見力と企画立案力、そして実業界で役立つ確かな英語力を培います。そこで、海外インターンシップやフィールドワーク、海外大学とのサマープログラムなどの多彩な学外実習や、文理融合的な思考力を養い、数理的な理解力やデータ分析能力などを活かす特色ある教育を行います。

(5) 理学部での専門教育

理学部では、講義・実験・演習を通じて、物理・化学・生物といった自然科学の基礎全般を学修し、それぞれの専門分野を深化させるとともに、物質科学の概念を持ちながら細胞・個体スケールで起こっている生命現象を捉え、生命現象を原子・分子スケールで起こる物理・化学現象として捉えることができるような、高度に融合した専門分野へ展開できる能力を養います。

(6) データサイエンス学部での専門教育

データサイエンス学部では、現実の課題にアプローチする際に必要な統計学・アルゴリズム等を幅広く学ぶとともに、各応用分野におけるデータサイエンスの必要性や発展について学修します。また、種々の応用分野の基礎知識の学修により、多様な専門科目を通じ、これらの分野の問題に応じてデータサイエンスを活用、展開できる基本的な能力を養います。

(7) 医学部での専門教育

医学部では、医師及び看護師・保健師の専門教育カリキュラムが、1年次から福浦キャンパスにおいて実施されます。プライマリーケア（初期総合診療）と先端医療の進歩に対応できる専門的な知識と高度な技術を備え、高い倫理観を持った人材育成を主眼とするカリキュラムを提供します。

Ⅱ 卒業までのルール

1. 大学について

大学は、「勉強するところ」という意味では「高校までと同じだ」と、みなさんは思うかもしれませんが、勉学の内容や形態、勉学への取り組み方などの点で以下のように大きく違ってきます。

(1) 専門性

大学は、特定の学問分野について深く学び、体系的に専門的な知識を身に付ける場です。

(2) 幅広い視野と知識

限られた領域だけを深く学ばばいいというわけではありません。社会や自然界の諸現象は、相互に複雑にからまりあっています。そこで、ある特定の分野を研究する際も、より近い領域だけでなく、一見その分野とは離れているように見える領域の様々な幅広い知識が必要となってきます。専門性を深めるために、広い視野や広い知識が必要となってくるわけです。もちろん、その広い知識も、多かれ少なかれ専門的な知識となります。

(3) 自由な気風

大学は、自由度が大変高いところです。それは、大学での勉学の性格に係わっています。つまり、専門的に深く勉強したいことやなぜその領域を勉強したいかは、人それぞれ異なっています。また、勉強のペースややり方も人それぞれです。そこで、みなさんが自由に自分の可能性を追求できるように、カリキュラムが設計されています。しかし、逆にいえば、このことは、しっかりと自覚を持って計画的に勉学に取り組んでゆかねばならないということを意味しています。

みなさんが卒業までに必要な学生生活のルールは、「学則」に定められています。以下に卒業までに必要な最低限のルールを説明しますので、あわせて学則をよく読んでおいてください。

2. 卒業要件

(1) 大学を卒業するためには

大学に定められた期間（原則として4年間、医学部医学科は6年間）在学し、必要な授業科目を履修することが必要です。卒業に必要な授業科目の履修については、各学科で定められています。各授業科目には、内容に応じて単位数が設定されており、卒業に必要な科目を履修し、単位を修得していきます（「4. 単位制度」を参照）。

また、科目の履修には、あらかじめ修得すべき前提科目が設定されていることがあります。前提科目を各学部が指定した年次に修得できなかった場合は、所定の年限で卒業要件を満たすことができません（「11. 進級要件」を参照）。

(2) 卒業に必要な単位数

国際教養学部	124単位
国際商学部	124単位
理学部	124単位
データサイエンス学部	124単位
医学部看護学科	124単位
医学部医学科	201単位

○卒業と学費納入について

在籍期間と卒業必要単位数を満たしていても、学費が未納であると卒業できません。最終の学費納入期限を過ぎても未納である場合は、退学になります。また、学費未納期間に修得した単位は、認められません。

3. 学位

卒業の認定を得た者に与えられる称号を学位といい、学修した分野によって次のような学士の称号が与えられます。

学部・学科名	学位又は称号(日本語表記)	学位又は称号(英語表記)
国際教養学部	学士(学術)	Bachelor of Liberal Arts
国際商学部	学士(経営学) 学士(経済学)	Bachelor of Business Administration Bachelor of Economics
理学部	学士(理学)	Bachelor of Science
データサイエンス学部	学士(データサイエンス)	Bachelor of Data Science
医学部 医学科 看護学科	学士(医学) 学士(看護学)	Bachelor of Medicine Bachelor of Nursing

4. 単位制度

(1) 単位制について

単位制とは、一定の基準によって各授業科目に単位数が定められていて、その科目を履修し、所定の試験等に合格するとその科目の単位が修得できる制度のことです。各授業科目の単位数は、原則として1単位の学修を教室内及び教室外(予習や復習等)を合わせて45時間とし、講義・演習・及び実験・実習・実技のそれぞれに基準を設け、巻末の授業科目一覧表に示しています。

(2) 必修、選択、自由科目について

授業科目は履修上次のように分類されます。

必修科目	卒業要件として必ず履修しなければならない科目
選択科目	卒業要件として指定された科目の中から選択し、履修する科目
自由科目	単位認定はするが、卒業要件には含まれない科目(教職専門科目等)

5. 単位認定

(1) 本学入学前に他大学で修得した単位

本学又は他大学で修得した単位について、審査のうえで教育上有益と認められた場合、本学学則48条により30単位まで、本学で修得した単位として認定されることがあります。本学では、原則として共通教養科目のうち、基礎科学講義(リメディアル講座を除く)、初習外国語科目(日本語を除く)、情報関連基礎科目(「情報リテラシー」修得済が条件)、実践科目、並びに一部科目群を除く専門科目が既修得単位認定対象科目となります。

単位認定申請書に、成績証明書原本、授業時間数や内容がわかる講義要項(シラバス)等、必要な書類を添付し、教育推進課教務担当が指定する期限までに申請してください。

※申請方法や注意事項等はYCU-Board等で通知します。

●基礎物理学実験・基礎化学実験・基礎生物学実験の単位認定について

実験のグループ分けの都合上、原則として前期の単位認定申請期間に申請してください。ただし、認定されなかった場合の再申請等、追加申請を希望する者は、後期単位認定申請期間に申請を行うようにしてください。後期に単位認定の申請を考えている学生は、必ず4月中に教育推進課教務担当(医学科生は医学教育推進課)までご相談ください。

医学部医学科生は、3科目中2科目が選択必修となっています。他大学単位認定者の履修科目数は以下のとおりです。間違いのないように履修してください。

単位認定された科目数	履修必要科目数
3 科目	履修不要
2 科目	1 科目
1 科目	2 科目

(2) 「Practical English」の入学時単位認定について

新入生が入学前に次に挙げる基準のいずれかに達しており、指定期間に単位認定申請を行った場合、英語の必修科目「Practical English」の単位として認定されます。申請が認められるスコアは、実用英語技能検定を除き、試験日から2年未満のものに限ります。

英語能力試験	得点
TOEFL-ITP (団体特別試験) 本学で実施したものに限りです。	500点以上
TOEFL-iBT (インターネット版)	61点以上
IELTS (アカデミック・モジュールに限る)	5.0以上
TOEIC	600点以上
実用英語技能検定 (英検) / 英検 S-CBT	準1級以上

注(1) TOEIC-IP、GTEC、海外で受験したTOEIC、本学以外で受験したTOEFL-ITPのスコアは、単位認定申請ができません。また、TOEICスコアの場合、自身でプリントアウトしたデジタル認定証(写真つきのもの。デジタル認定証の発行がない場合はスコア原本のコピー)が必要です。

注(2) TOEFL-iBTについては、My Best Scores、Home Editionはいずれも申請不可です。

なお、入学後の「Practical English」の単位修得については、「V 共通教養科目 > 6. Guide to Practical English & Advanced Practical English」のページ及びYCU-Board等の掲示を参照してください。

(3) インターンシップ及びキャリア教育プログラムの参加に係る単位認定について

インターンシップ及びキャリア教育プログラムは、単位認定条件を満たすことで、参加の翌学期に履修登録をし、単位が認定されます。条件や単位認定の手続き方法等の詳細は、キャリア支援センターで配布する「インターンシップ・キャリア教育プログラムの手引き」にて確認してください。

〈インターンシップ対象科目〉

	科目名	単位数	対象学部	単位認定条件（※1）
共通教養科目	キャリア形成実習 (インターンシップ) (夏期) (冬・春期)	1	全学部	<ul style="list-style-type: none"> 実習期間が5日間以上かつ30時間以上であること。 実習日程が夏季／冬季／春季休業期間中、または2年次第2クォーター等、他の授業に支障がない期間であること。ほか
学部専門科目	インターンシップ実習 (国際商／全学開放)	2	国際商学部 国際教養学部 理学部 データサイエンス学部（※2）	<ul style="list-style-type: none"> 実習期間が10日間以上かつ60時間以上であること。 実習日程が夏季／冬季／春季休業期間中、または2年次第2クォーター等、他の授業に支障がない期間であること。ほか

〈キャリア教育プログラム対象科目〉

	科目名	単位数	対象学部	単位認定条件（※1）
共通教養科目	キャリア形成実習 (キャリア教育プログラム) (夏期) (冬・春期)	1	全学部	<ul style="list-style-type: none"> 実習期間が5日間以上かつ30時間以上であること。 実習日程が夏季／冬季／春季休業期間中、または2年次第2クォーター等、他の授業に支障がない期間であること。ほか

※1 その他、事前研修の参加、報告書の提出、報告会の参加等も条件となります。また、参加するインターンシップ及びキャリア教育プログラムの内容によっても条件は多少異なります。詳細は「インターンシップ・キャリア教育プログラムの手引き」にて確認してください。

※2 令和4(2022)年度までの入学者については「特講（海外インターンシップ）」となります。

〈履修申請時期〉

インターンシップ及びキャリア教育プログラムに参加した学期の翌学期（※）

※最終年次生のみ扱いが異なります。詳細は「インターンシップ・キャリア教育プログラムの手引き」にて確認してください。

(4) 横浜市内大学間単位互換制度にもとづき相手先大学で修得した単位

この制度で修得した単位は、国際教養学部・国際商学部・理学部及びデータサイエンス学部では全学開放科目の単位、医学部では共通教養科目の単位となります。なお、単位互換科目の履修登録単位数は各学期の履修上限単位数24単位に含まれますので注意してください。（医学部を除く）

本学の科目とは別に履修手続きをする必要があります。履修手続きについては、YCU-Board等で通知します。

詳細は教育推進課教務担当に問い合わせてください。

(5) 海外の大学で修得した単位

学則に定める留学中及び第2クォータープログラム等で修得した単位の取扱いや注意点等については、本章「13. 身分異動>(3) 留学」のページを参照してください。

6. 学期制と授業時間

(1) 学 期

国際教養学部、国際商学部、理学部、データサイエンス学部、医学部看護学科及び医学部医学科（1年次のみ）

前 期	4月1日～9月21日	後 期	9月22日～3月31日
-----	------------	-----	-------------

医学部医学科（2年次以降）

第1学期	4月1日～8月31日	第2学期	9月1日～12月31日	第3学期	1月1日～3月31日
------	------------	------	-------------	------	------------

(2) 授業時間

国際教養学部、国際商学部、理学部、データサイエンス学部、医学部看護学科及び医学部医学科（1年次のみ）

第1限	第2限	第3限	第4限	第5限
8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

（一部科目に限り第6限17:50～19:20・第7限19:30～21:00の授業時間を設けています）

医学部医学科（2年次以降）

第1限	第2限	第3限	第4限	第5限	第6限	第7限
8:50～ 9:50	10:00～ 11:00	11:10～ 12:10	13:10～ 14:10	14:20～ 15:20	15:30～ 16:30	16:40～ 17:40

7. 授業（講義・演習・実験、実習等）、開講期、欠席

授業は1コマ90分で実施され、1学期（セメスター）15コマで2単位の科目（講義、演習等）、1単位の科目（実験、実習等）などがあります。また、授業によっては、1週間に2コマ実施し、学期の半分の期間（クォーター）で完結する授業もあります。

なお、医学部の2年次以降について、医学科では医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿って学修することになります。詳細は、履修ガイド「Ⅺ 医学部における専門教育」のページを読んでください。

※単位を修得するためには、原則として3分の2以上の出席が必要です。

(1) 講義について

講義は、担当教員が講義のテーマに沿った話をし、学生はその話を聞くという形を取ります。100人を超える大教室での講義もあれば、数十人の講義もあります。

講義によっては、教科書や参考書が指定されています。教科書や参考書に関する情報やその他詳しい内容については、シラバスを参照してください。準備学習として教科書や参考文献を読んで、毎回の講義に臨んでください。そして、教科書の内容や先生の話について分からないときは、積極的に質問しましょう。また、板書や話の内容で重要な箇所はノートに記入し、復習の際に見直すと良いでしょう。

授業の実施方法については対面授業と遠隔授業があります。各授業を受講の際には実施方法に注意してください。

◆遠隔授業の受講方法について

初回授業については原則Teamsで実施します。必ず、大学のYCUメールアドレスのアカウントで授業に出席してください。2回目以降は、各科目担当教員の指示に従ってください。

なお、遠隔授業のアクセス方法や授業時間割表等は、下記URLを確認してください。

オンライン授業ガイド

<遠隔授業のアクセス方法、授業時間割表等>

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/students/onlineguide.html>



◆遠隔授業受講上の注意事項について

必ず騒音などのない環境で受講して、対面授業と同様に緊張感を持って授業に臨みましょう。また、マイクとカメラの準備をした上で、授業開始時間前に入室してください。

(2) 演習（ゼミ）について

演習（ゼミ）は、指導教員（ゼミを担当する先生）と学生との直接的かつ双方向のコミュニケーションを通じた指導の下に、自分が関心をもつ専門をとことん突き詰めるものです。

(3) 実験について

実験は、講義で得た知識を、学生が実際に自分の目で確認したり、仮説を立証したりするために行いますが、実験・測定などの技法そのものの習得を目指す場合もあります。

(4) 実習について

実習は、講義などで学んだ知識を、現実の地域社会の中で経験し体得することがその目的です。学生一人ひとりの主体的でかつ能動的な取り組みが求められます。

(5) 授業スタイルの2類型

本学の授業は、以下の2つのスタイルのものがあります。

【類型1】 講義中心アクティブラーニング

講義における意見交換、作品作り、講義中の実験デモ、発表、体験学習など、コミュニケーションを通じて取り組む学び

【類型2】 学生主体アクティブラーニング

実験・実習、演習・ゼミなど、学生が主体となり取り組む学び

各科目がどちらのスタイルなのかは、シラバスに記載されています。

(6) 科目と開講期について

国際教養学部、国際商学部、理学部及びデータサイエンス学部の科目は、前期科目と後期科目に分かれています。

科目区分	開講時期	備 考
前期科目	前期	
	集中前期	履修上限は「前期」に含む。
	前期前半(第1クォーター)	2026年4月10日～2026年6月11日
	前期後半(第2クォーター)	2026年6月12日～2026年8月6日
後期科目	後期	
	集中後期	履修上限は「後期」に含む。
	後期前半(第3クォーター)	2026年9月24日～2026年11月23日
	後期後半(第4クォーター)	2026年11月24日～2027年2月1日

※クォーター科目の詳細については「Ⅲ 履修案内>1. 履修申請手続き>エ クォーター科目について」のページを参照してください。

(7) 欠席について

授業は出席が原則です。病気等による欠席について、大学へ特に連絡する必要はありません。

ただし、以下に該当する事由で授業を欠席する場合は、公欠として取扱い、出席したものとみなすことができるため、各キャンパス事務室に届出書及び証明書を提出してください。

公欠を認めている事由及び必要な証明書類は下記を参照してください。

※公欠事由であっても、実際に3分の2以上の授業に出席できない場合には、単位修得ができない場合があります。

公欠を認めている事由	必要な証明書類 (いずれも原本に限る)
(1) 天災、自宅の火災	火災証明、り災証明等
(2) 親族の危篤・死亡(2親等以内)	会葬御礼等の証明書
(3) 交通機関の遅延(30分以上)・ストライキ	遅延証明書
(4) 学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症(例:インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、おたふくかぜ、新型コロナウイルス感染症等)に感染した場合(ただし、症状により医師において感染させる恐れがないと認めたときを除く。)	「学校感染症」に関する証明書(大学様式)(又は出席の停止期間が記載された医師の診断書や療養が証明できるもの)
(5) 裁判員制度による裁判員(候補者)に選出されたことにより、裁判所に出頭した場合	裁判所より発行される証明書
(6) 教員免許状の取得にかかる教育実習・介護等体験等に参加した場合(オリエンテーション等含む)	
(7) その他、学部長が認めた場合	公欠内容を確認できる書類

※(2)の場合の注意事項:

公欠として取り扱うことができる日数は以下のとおりです。

- ・1親等及び配偶者の場合は、連続する7日(土・日・祝日を含む。)の範囲内の期間
 - ・2親等の場合は、連続する5日(土・日・祝日を含む。)の範囲内の期間
- なお、葬儀のための遠隔地に赴く場合にあっては、往復に要する日数も含まれます。

※(3)の場合の注意事項：

- 降車駅で発行されている遅延証明書を必ず持参してください。
- 遅延による公欠の申請期間は1か月です。1か月を経過したものは認められません。
- 遅延証明書に遅延時間未記入など不備がある場合は、別途各鉄道会社のHPより遅延時間記載の遅延証明書を印刷して添えてください。
- 遅延証明書は1路線で30分以上の遅延に限り、2路線合計で30分以上の遅延は認められません。
- 路線バスの場合は原則として公欠の対象とはなりません。(路線バス会社の発行する遅延証明書を持参した場合を除く。)
- 交通機関による遅延の申請は学生証裏面に記載の住所最寄駅から大学最寄駅に限ります。

※(4)の場合の注意事項：

- インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症と医療機関で診断された場合、指定のFormsで報告してください。(すみやかな報告がない場合は、公欠を認められない場合があります。)なお、それ以外の感染症は医師の診断後すみやかに各キャンパス保健室に電話で報告してください。
- 手続きの詳細は大学ホームページ中の保健管理センターWebサイト(<https://www.yokohama-cu.ac.jp/health/>)をよく確認し、Web上より「『学校感染症』に関する証明書(大学様式)」をダウンロードし医師に記入を依頼してください。
- 完治後は、「『学校感染症』に関する証明書(大学様式)」を各キャンパス保健室に提出し、各キャンパス事務室で手続きをしてください。
- 保健管理センターWebサイトに「出席停止となる学校感染症の一覧」も掲載されていますので、必要に応じて参照してください。

〔(4)の場合の公欠手続き手順〕

インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症と診断された場合

- ①指定のFormsで報告
- ②療養(=出席停止期間終了まで)
- ③各キャンパス保健室へ「『学校感染症』に関する証明書」を提出
- ④各キャンパス保健室より「欠席届」を受領(即日発行)
- ⑤各キャンパス事務室へ「欠席届」を提出⇒金沢八景キャンパスは教務担当へ
- ⑥承認後、欠席期間中の授業科目分の「欠席届」を受領
- ⑦各授業担当教員へ「欠席届」を提出<公欠手続き、完了>

それ以外の感染症と診断された場合は、電話連絡してください。連絡先はキャンパス毎に異なります。保健管理センターWebサイトを確認してください。

※(6)の場合の注意事項：

- 大学院早期履修科目は公欠として取り扱わず、欠席したものとみなします。
- 事前説明会やオリエンテーション等は「出校確認票」を提出した場合、公欠として取り扱います。

※(7)の場合の注意事項：

- (7)の事由により公欠の申請をする場合は、事前に手続きが必要です。授業を欠席する日の2か月前までに教育推進課教務担当窓口にご相談してください。(2か月を過ぎてから相談があった場合は公欠として取扱いできない場合がありますので、注意してください。)

※Practical Englishについては上記の事由に該当しても同様の扱いとならないことがあります。

詳しくは、「V 共通教養科目>6. Guide to Practical English & Advanced Practical English」のページのAttendance Policyを確認してください。

8. 休講・補講

(1) 休 講

※下記は原則です。下記以外にも休講とする場合があるのでYCU-Board等の掲示に注意してください。

① 大学側あるいは授業の担当教員の都合でやむを得ず授業を休講とする場合

前もってYCU-Board等でお知らせします。

※休講の指示がなく、授業開始時刻を30分以上経過しても担当教員から連絡がない場合は、自然休講となります。不明な場合は、各キャンパス教務窓口へ問い合わせてください。

② 災害等が発生した場合

学生の安全を確保するために臨時で休講することがあります。その場合は、大学ホームページ、YCU-Board等でお知らせします。

③ 気象庁の「暴風警報」、「暴風雪警報」又は「大雪警報」が発令された場合

台風接近等の気象条件により神奈川県全域又は神奈川県東部全域（川崎・横浜・湘南・三浦半島）に気象庁の暴風警報、暴風雪警報又は大雪警報が発令された場合は、原則として以下の休講措置をとります。

A. 午前6時までに上記警報が解除された場合	:	1時限目から授業実施
午前6時を過ぎても上記警報が解除されない場合	:	午前（1-2時限）休講
B. 午前10時までに上記警報が解除された場合	:	3時限目から授業実施
午前10時を過ぎても上記警報が解除されない場合	:	午後（3-5時限）休講
C. 午後3時までに上記警報が解除された場合	:	6時限目から授業実施
午後3時を過ぎても上記警報が解除されない場合	:	午後（6-7時限）休講

※医学部医学科2年次以上では1時限あたりの時間が異なるため、区切りの時限が変わります。

④ 交通機関の運行が停止した場合

下表に基づき、休講措置を行います。

○交通機関の不通による休講

	〈1-2時限目〔午前〕の休講〉	〈3-5時限目〔午後〕の休講〉	〈6-7時限目〔午後〕の休講〉
	午前6時時点で、以下の何れかに該当した場合	午前10時時点で、以下の何れかに該当した場合	午後3時時点で、以下の何れかに該当した場合
金沢八景 キャンパス	① 京急線（品川－三崎口の全区間）が不通の場合 ② 東横線（渋谷－横浜の全区間）、相鉄線（横浜－大和の全区間）の2線が不通の場合 ③ JR東海道本線（東京－熱海の全区間）、JR京浜東北線・根岸線（東京－大船の全区間）、JR横浜線（八王子－東神奈川の全区間）、JR横須賀線（東京－久里浜の全区間）、横浜市営地下鉄（ブルーライン全線）のうち3線以上が不通の場合 ④ 上記②の1線及び③の2線が不通の場合		
福 浦 キャンパス	① シーサイドライン（全線）が不通の場合 ② JR京浜東北線・根岸線（東京－大船の全区間）及び京急線（品川－三崎口の全区間）の2線が不通の場合 ③ JR東海道本線（東京－熱海の全区間）、JR横浜線（八王子－東神奈川の全区間）、JR横須賀線（東京－久里浜の全区間）、東横線（渋谷－横浜の全区間）、相鉄線（横浜－大和の全区間）、横浜市営地下鉄（ブルーライン全線）のうち3線以上が不通の場合 ④ 上記②の1線及び③の2線が不通の場合		
鶴 見 キャンパス	① JR京浜東北線・根岸線（東京－大船の全区間）及び京急線（品川－三崎口の全区間）の2線が不通の場合 ② JR東海道本線（東京－熱海の全区間）、JR横浜線（八王子－東神奈川の全区間）、JR横須賀線（東京－久里浜の全区間）、東横線（渋谷－横浜の全区間）、相鉄線（横浜－大和の全区間）、横浜市営地下鉄（ブルーライン全線）のうち3線以上が不通の場合		

※看護学科は実習要項共通版参照

	〈1-2時限目〔午前〕の休講〉 午前6時時点で、 以下の何れかに該当した場合	〈3-5時限目〔午後〕の休講〉 午前10時時点で、 以下の何れかに該当した場合	〈6-7時限目〔午後〕の休講〉 午後3時時点で、 以下の何れかに該当した場合
舞岡 キャンパス	① 横浜市営地下鉄（ブルーライン全線）が不通の場合 ② 東横線（渋谷－横浜の全区間）、相鉄線（横浜－大和の全区間）の2線が不通の場合 ③ JR東海道本線（東京－熱海の全区間）、JR京浜東北線・根岸線（東京－大船の全区間）、JR横浜線（八王子－東神奈川の全区間）、JR横須賀線（東京－久里浜の全区間）、京急線（品川－三崎口の全区間）のうち3線以上が不通の場合 ④ 上記②の1線及び③の2線が不通の場合		
みなとみらい サテライト キャンパス	① JR京浜東北線・根岸線（東京－大船の全区間）、みなとみらい線（横浜－元町・中華街の全区間）及び横浜市営地下鉄（ブルーライン全線）の3線が不通の場合 ② JR東海道本線（東京－熱海の全区間）、JR横浜線（八王子－東神奈川の全区間）、JR横須賀線（東京－久里浜の全区間）、京急線（品川－三崎口の全区間）、東横線（渋谷－横浜の全区間）、相鉄線（横浜－大和の全区間）、横浜市営地下鉄（ブルーライン全線）のうち3線以上が不通の場合		

(2) 補 講

補講は原則として、オンデマンドで実施します。対面やリアルタイムのオンラインで実施する場合、休講した週又は翌週の授業のない時間帯（6時限目、土曜日など）に行いますが、日程の調整が見つからない場合は、その他教員の指定日、各学期の定められた補講日に行います。

9. 試 験

(1) 試験について

大学における試験は、

- ア 各学期末に行う試験
- イ 上記以外に授業担当者が不定期で行う試験（実技・実習を含む）
- ウ 論文（レポート）その他による考査

などです。成績評価はそれらを総合的に判断し行います。すべての試験は厳正・厳格に行われます。

なお、受験に際しては3分の2以上の当該講義への出席（ただし、科目担当教員が別途指定している場合はその要件）が必要です。

(2) 追試験について

追試験は、定められた事由により各学期末に行う試験を受験できなかったものための制度です。受験するためには、申請と許可が必要です。

追試験の対象は上記(1)アのうち、科目担当教員が大学に届け出ている試験です。中間試験、小テスト、レポート、集中講義における試験は対象となりません。

〈申請と許可〉

- ア 追試験の受験を希望するものは、追試験申請書及び必要な証明書類を添付して、当該試験終了後原則1週間以内の17:00までに（1週間後にあたる日が窓口休業日の場合は、それ以前の開室日）、受験の申請をしなければなりません。やむを得ない理由で1週間以内に申請ができない場合は、締切前に教務担当に相談してください。
- イ 補講期間に期末試験を実施する場合、個別に申請期限を定める場合があります。申請手続の詳細はYCU-Boardのお知らせを参照してください。
- ウ 申請書を学部長が審査して、正当と認められたときには追試験受験を許可します。
- エ 追試験の日時変更、追試験における追試験申請はできません。

〈追試験制度にて申請を認めている事由及び申請時に必要な証明書類〉

詳細はYCU-Boardをご確認下さい。

申請を認めている事由	必要な証明書類（いずれも原本に限る）
天災・自宅の火災	火災証明、リ災証明等
親族の危篤・死亡（2親等以内）	会葬御礼等の証明書
交通機関の遅延（原則として30分以上）・ストライキ※	遅延証明書
本人の病気・ケガ	医師の診断書
裁判員制度による裁判員（候補者）に選出されたことによる裁判所出頭	裁判所より発行される証明書
教員免許状の取得にかかる教育実習及び介護等体験などへの参加（オリエンテーション等含む）	
横浜市内大学間単位互換先の試験との日程重複（申請は本学の学生に限る）	単位互換受入大学で履修許可された科目の試験日程が明示された書類

※交通機関の遅延（原則として30分以上）・ストライキの場合の注意事項

- ・交通機関による遅延の申請は学生証裏面に記載の住所最寄駅から大学最寄駅に限ります。
- ・TOEFL-ITPが期末試験の場合は、30分以内の遅延申請書であっても、追試験申請を可とします。

(3) 試験受験上の注意事項について

〈試験受験上の注意事項〉

① 不正行為の内容

[筆記試験における不正行為]

以下の場合、不正行為があったものと判断します。

- ア 許可された物以外の物を参照したとき。
- イ 本人に代わって他人が受験したとき。
- ウ 答案用紙を試験場外に持ち出したとき。
- エ 許可された以外のものを机上又は机の中等の手の届く範囲に置いたとき。
- オ その他、監督者による不正行為に関する具体的な注意に反したとき。

[オンライン試験における不正行為]

オンライン試験においては、筆記試験における不正行為に加え、次の各号のような状況があるときは不正行為があったものと判断します。

- ア グループ単位で実施される試験を除き、他人の力を借り、または、他人に力を貸したとき。
- イ 論述問題・論証問題などで文献やネット上の文書や解法を書き写した場合に、出典の明記がなかったとき。
- ウ アカウントを他人に使わせたり他人のアカウントを使用したとき。
- エ 不正防止対策として学生のカメラをオンにすることを求められた場合に、従わなかったとき。

【論文・レポートにおける不正行為】

以下の行為は、不正行為に該当します。

- ア 他者が作成した論文・レポートを盗作、剽窃して提出したとき（インターネット上からのコピー・アンド・ペーストを含む）。
また、論文・レポートを提供した側も不正行為に該当する場合があります。
- イ 出典を明記しないで引用したとき。
- ウ 引用箇所と自分の文章を区別せず引用したとき。

② 不正行為に対する処分

不正行為は絶対にしてはいけません。不正行為があったと認められた場合は、学則上の処分を受けるとともに、次のいずれかの教務上の措置を受け、学籍簿にも記入されます。

- ア 当該学年で履修した全ての科目を零点とします。
- イ 当該学期に履修した全ての科目を零点とします。
- ウ 演習科目、実験科目、実習科目を除く当該学期に履修した全ての科目を零点とします。
- エ 当該学期に履修した科目のうち全ての期末試験科目を零点とします。
- オ 当該科目を零点とします。

※不正行為をしたと判断された場合は、原則として上記「オ」かつ「ア～エ」のいずれかの処分を科します。

※医学科専門教育科目で不正行為があった際は「医学科専門教育科目の履修に関する規程」に定める教務上の措置を適用します。

③ 受験に際しての注意事項

- ア 授業出席時間数が、当該授業科目の全時間数の3分の2（担当教員が別途指示している場合はその要件）に満たない場合は、原則として受験は認められません。
- イ 試験に際しては、監督者の指示に従ってください。
- ウ その他、試験場では、次のことを順守しなければなりません。
 - ・受験資格のない者は試験開始前に速やかに退室してください。
 - ・隣席者とは間隔をおいて着席してください。
 - ・学生証は監督者に写真が見えるようにして、机の上に置いてください。
➡学生証を忘れた場合は、各キャンパス事務室で受験許可証の交付を申し出てください。
 - ・机の上には筆記用具及び許可されたもの以外は置かないでください。
 - ・机の中の物は全て除去してください。
 - ・携帯電話等はスイッチを切ってカバンに入れておいてください。
 - ・答案用紙は指定された枚数のみを受け取り、余分に受け取らないでください。
 - ・試験中に私語をしないでください。
 - ・試験中に物品の貸借を行わないでください。
 - ・試験開始後30分を経過しなければ退室できません。また、試験開始後30分を経過してから入室することはできません。なお、TOEFL-ITPは試験開始から終了まで入退室はできません。

④ レポート提出に際しての注意事項

レポートの提出は、担当教員の指示に従ってください。

(4) 学修における生成系AIの利用について

昨今、ChatGPT等に代表される生成系AI※は、新たな技術ツールとして世界中で利用が進んでいます。

横浜市立大学での学びは、「広い視野と知識から自らの専門性を切り拓く」ためのものであり、生成系AIは、そのための有用な相談・参照ツールとなりうることを踏まえ、本学では、その利用自体は制限するものではありません。何より「正しく」利用することが重要であることから、利用のための指針及び留意事項を示します。

※生成系AI…デジタルの画像や動画、音声や音楽、文章やプログラムコードなどのテキストを生成するAI。代表的なサービス・商品としてChatGPT、Copilot等。

学修における「ChatGPT」等の生成AIの利用について

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/students/edu/dr3e6400000246d4-att/dr3e64000002470y.pdf>



なお、今後指針の改定が行われる場合があります。

大学HP「学修における生成系AIの利用について」から最新の指針を確認するよう留意してください。

10. 成績

成績の評価は、試験の結果、授業時の成績、出席状況等を総合的に判断して行い、60点以上を合格とし、授業科目の所定の単位が与えられます。

(1) 成績評価とGPA制度

GPA制度は国際教養学部、国際商学部、理学部及びデータサイエンス学部の全在學生に適用されます。

成績評価と点数の関係は、次のとおりです。

「秀」「優」「良」「可」「不可」の成績評価に、次の通りグレードポイント（GP：Grade Point）を付します。

成績評価	点 数	GP
秀 (S A)	90点～100点	4.0
優 (A)	80点～ 89点	3.0
良 (B)	70点～ 79点	2.0
可 (C)	60点～ 69点	1.0
不可 (D)	59点以下	0.0

学修を効果的に進めてその質を高めるため、学生の成績の平均値（GPA：Grade Point Average）が確認できます。

学生は自らのGPAを確認することにより、自分自身で学修効果を把握することができます。各自のGPAを認識し、学修計画を立てることに役立ててください。

GPAは、YCU-Boardの成績メニューから閲覧できます。

① GPAの算出方法

履修した授業科目の単位数にグレードポイントを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出したものがGPAです。

$$\frac{\text{【(履修登録科目の単位数) × (科目のGP)】の総和}}{\text{(履修登録科目の単位数)の総和}}$$

GPAは、各自3種類算出されます。

- ① 当期（半期）GPA：前期又は後期のGPA
- ② 年間（通年）GPA：履修年度一年間のGPA
- ③ 全履修（累積）GPA：入学後すべてのGPA

② GPAが適用されない成績科目

- (1) 他大学で修得し本学で単位が認定された科目（「短期海外研修」等、YCU海外留学・研修プログラムに参加して認定された科目を含む。）
- (2) 教職専門科目
- (3) 学部4年次で履修する大学院科目（「Ⅲ 履修案内>3. 大学院科目の履修」ページ参照）
- (4) その他単位認定により単位認定することが、シラバス等に記載されている科目

③ その他

- (1) 証明書への表記について
成績証明書には、GPAは表記されません。

(2) 成績公開

成績は指定日にYCU-Boardで公開します。

ただし、集中講義科目（前期科目扱い）は、後期終了後に成績を開示します。

なお、成績は保証人にも開示します。

※成績公開日は31ページに記載しています。

※医学部の専門科目の試験結果発表及び単位認定結果発表の日程は教育要項に別途記載しています。

(3) 成績確認申立について

成績確認申立は、各学期に成績公開された科目について、採点の脱落、転記ミス、入力ミス等を科目担当教員に確認するための制度です。申請期間に、教務担当窓口で手続きができます。

なお、追加レポートや追試を依頼したり、教員の採点基準に異議を申し立てるものではありません。

※成績確認申立期間の日程は31ページに記載しています。

※教員が示した回数以上出席し、期末試験受験やレポート提出を行ったとしても、それらの内容によっては、不合格となることがあります。

※医学部医学科の専門科目の成績確認申立日程は教育要項に別途記載しています。

※クォーター科目の成績確認申立日程は、前半科目・後半科目ともに通常の半期科目と同日程になります。

（クォーター科目の詳細については「Ⅲ 履修案内>1. 履修申請手続き>エ クォーター科目について」のページを参照してください）

11. 進級要件

○国際教養学部・国際商学部・理学部

判定時の学年	進級要件
1年次から2年次への進級	<ul style="list-style-type: none"> 「教養ゼミ」と「基礎ゼミ」のどちらか1科目を修得していること 休学期間を除いて1年間在学していること
2年次から3年次への進級	<ul style="list-style-type: none"> 「Practical English」の単位を修得していること 休学期間を除いて2年間在学していること

※進級判定結果は成績公開日にYCU-Boardで発表します。各自必ず確認してください。

※進級できても、国際教養学部は1年次終了時点で、また、国際商学部は2年次前期終了時点で、ゼミ配属の条件を満たせない場合には4年間で卒業することはできないので、注意してください。

※理学部では、研究室配属のために3年前期終了時点で84単位以上、「卒業研究」履修のために3年後期終了時点で108単位以上の修得を条件としています。詳細については、「Ⅷ 理学部における専門教育>3. 卒業までの履修の流れ」のページを参照してください。

○データサイエンス学部

判定時の学年	進級要件
1年次から2年次への進級	<ul style="list-style-type: none"> 「教養ゼミ」「統計学Ⅰ／統計の数理Ⅰ」「PBL入門／コンピュータ演習」のうち、いずれか1科目を修得していること 休学期間を除いて1年間在学していること
2年次から3年次への進級	<ul style="list-style-type: none"> 「Practical English」の単位を修得していること 休学期間を除いて2年間在学していること

※進級判定結果は成績公開日にYCU-Boardで発表します。各自必ず確認してください。

○医学部

医学部医学科と看護学科の学生は2年次から福浦キャンパスへ移るため、原則として1年次に共通教養の必修科目の単位をすべて修得する必要があります。

ア 医学科（2018年度以降入学生 卒業要件）

医学科の学生は原則的にすべての必修科目の単位を取り、かつ1年次の必要単位数を修得しないと2年次（専門教育）に進級できません。また、「Advanced Practical English」は、指定されたクラスで4年次までに単位を取得しないと5年次に進級できません。

※進級判定結果は3月下旬（4年次生は1月下旬）に掲示にて発表します。各自必ず確認してください。

○2019年度以降入学生の変更点

2019年度入学生から、「Advanced Practical English I～Ⅶ」のいずれかが指定必修科目となっています。

イ 看護学科

<2022年度以降入学生>

判定時の学年	進級要件
全ての学年	<ul style="list-style-type: none"> 各年次で開講されるすべての必修科目と、必要な選択必修科目の単位を修得していること
1年次から2年次への進級	<ul style="list-style-type: none"> 1年次に「Practical English」3単位、又は「Essential Practical English」2単位を修得し、かつ語学を除く共通教養科目15単位を修得していること
2年次から3年次への進級	<ul style="list-style-type: none"> 1年次に「Essential Practical English」2単位を修得した学生は、2年次進級後「看護英語」1単位を修得していること

※1年次から共通教養科目と専門支持科目・専門科目を並行して履修することになりますので、しっかり確認した上で、履修登録を行ってください。

※進級判定結果は成績公開日にYCU-Boardで発表します。各自必ず確認してください。

12. ゼミ・研究室変更について

国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部では、基本的には配属されたゼミ・研究室の担当教員が開講する演習等に継続して配属されることになります。ただし、変更希望先のゼミ・研究室の定員に空きがある場合は、所定の手続を行った上で変更申請以降に履修するゼミ・研究室を変更することができます。

変更を希望する場合は、下記のとおり申請を行ってください。申請が認められた場合は、翌学期からゼミを変更することが可能です。ゼミ・研究室変更手続きについては、別途YCU-Boardでお知らせします。

(1) 申請条件

申請には、変更希望先のゼミ指導教員の確認が必要です。

(2) 対象学部・申請周知・受付時期

	後期からの変更 (国際教養学部・国際商学部)	前期からの変更 (国際教養学部・国際商学部・ 理学部・データサイエンス学部)
周知時期	6月中旬	12月上旬
受付期間	7月下旬	1月下旬
変更可否揭示	9月下旬	3月下旬

(3) 注意事項

- ① 4年次の年度途中での変更は原則として認めません。
- ② 変更希望先のゼミ指導教員の確認を受けても、審議の結果、変更不可となることがあります。
- ③ 上限人数に達しているゼミには、原則として転入できません。ただし、同時に転出者があった場合には、上限人数まで転入者を受け入れることができます。
- ④ 国際商学部は原則、演習Ⅰの変更申請はできません。

13. 身分異動(休学・復学、退学、留学、転学部、他大学受験、再入学試験)

以下に記載する身分異動は、大学生活に大きく関わる重要な事項です。

休学・復学、退学、留学、転学部、他大学受験、再入学試験を考えている場合は、必ず各教務窓口に相談してください。

(1) 休学・復学

① 休学

病気その他やむを得ない理由のため、3か月以上修学できない場合は、保証人連署及び指導教員の確認印のある休学願を提出することにより、休学を申請することができます。

休学願提出後に教授会で審議し、許可された場合は、休学許可証を送付します。願出書の提出から許可証発送までに概ね2～3か月程度を要します。

休学期間は、在学期間には算入されません。また、休学理由によっては、事実を証明する書類が必要となることがあります。

<休学に関する注意事項>

ア 1回の願い出につき、3か月以上1年以内の期間を申請可能です。また、学部生の通算での休学可能期間は、所属により異なります。

国際教養学部 国際商学部 理学部 データサイエンス学部 医学部看護学科	4年	医学部医学科	6年
---	----	--------	----

- イ 休学理由として不適当な事由は受付できません。(例：就活留年、他大学受験、旅行など)
なお、他大学へ入学する場合は、必ず本学退学手続きを行ってください。
 - ウ 海外渡航をする場合は、海外出発届をグローバル推進室にWebにて提出してください。
 - エ 休学期間中は、通学定期券の購入はできません。
 - オ 休学期間中は、証明書発行等一部の手続きを除いて、大学での手続きは行えません。
 - カ 休学期間中は、卒業見込証明書の発行はできません。
 - キ 休学期間中は、履修登録はできませんが、YCU-Boardで成績確認はできます。
 - ク 原則として1年次前期の休学はできません。
 - ケ 卒業予定の学期の休学はできません。
 - コ 留学身分の直前の学期の休学はできません。また、休学の場合、留学プログラムの申し込みはできません。
- ※ 休学の手続きは日数を要するので、余裕を持って相談・申請してください。

② 復学

休学許可期間の途中で復学する場合を除き、申請した休学期間満了翌日付で通常の在籍状態となります。また、休学理由によっては、復学時に事実を証明する書類が必要となることがあります。

休学期間満了前に、休学延長等の案内をYCU-Boardでお知らせします。

※復学後は当該学期の学費が全額発生します。

※復学のタイミングにより演習の履修順序が入れ替わる場合は、復学前に申請手続きが必要になります。

(国際教養学部・データサイエンス学部のみ)

(2) 退学

病気その他やむを得ない理由により退学する場合は、保証人連署及び指導教員の確認印のある退学願を提出する必要があります。

退学願提出後に教授会で審議し、許可された場合は、退学許可証を送付します。願出書の提出から許可証発送までに概ね2～3か月程度を要します。

退学願提出時には、あわせて学生証も返却してください。

退学の手続きは日数を要するので、余裕を持って相談・申請してください。

○休学・復学・退学と学費について

- ① 1期分(半年分)でも未納の学費がある(何らかの事情で遡及的に学費未納状態になった場合も含む)と休学・退学はできません。また、学費が2期分(1年分)未納になると学則により退学処分となり、以降在籍することができなくなります。学費納入については、保証人ともよく相談し、確認するようにしてください。
- ② 下記期間全日の休学が承認された場合、当該期の学費が免除になります。ただし、休学願・退学願の提出が各学期最終日(前期:9月21日/後期:3月31日)を過ぎた場合や、学期途中の休学・退学・復学など、その学期に1日でも在学した場合は、当該学期の学費が全額発生します。
- ③ 本学の学費は、次のとおり2期に分けて納付していただきます。納入期限は、第1期:5月上旬(4月中旬案内発送)、第2期10月下旬(10月上旬案内発送)の予定です。

第1期対象期間	第2期対象期間
4月1日～9月21日	9月22日～3月31日

(3) 留 学

本学では、多様なプログラムを用意して、学生の海外渡航を支援しています。そのうち、3か月を超える大学公式海外留学プログラムの参加者については、留学中の身分が「在学」から、学則に定める「留学」に異動します。この身分異動に伴う、単位の取扱いや注意点、関連科目等については以下のとおりです。

なお、身分異動のため、出発前に「留学届」を、帰国時に「帰国届」を提出する必要があります。

また、最新の留学プログラムは下記詳細手続き概要等を参照ください。

① 学則に定める留学プログラム (2026年4月1日時点)

種類	国	留学先大学等・プログラム名	プログラム言語	詳細手続き概要等
交換留学	イギリス	ド・モントフォート大学	英語	https://www.yokohama-cu.ac.jp/ytog/global/overseas_study/index.html 【市大生の海外留学支援】 
	イギリス	リーズ・トリニティ大学	英語	
	イギリス	キール大学	英語	
	イギリス	アベリストウィス大学	英語	
	イギリス	グラスゴー・カレドニアン大学	英語	
	イギリス	ポーツマス大学	英語	
	イタリア	ベネチア大学	英語	
	フランス	リヨン第3大学	英語/フランス語	
	フランス	ケッジビジネススクール	英語/フランス語	
	ベルギー	ルーヴァンカトリック大学	英語/フランス語	
	ドイツ	ゲーテ大学	英語/ドイツ語	
	ドイツ	ヴュルツブルク大学	英語/ドイツ語	
	オーストリア	ウィーン大学	英語/ドイツ語	
	スペイン	ナバラ大学	英語/スペイン語	
	スペイン	サンティアゴ・デ・コンポステラ大学	スペイン語	
	スペイン	マドリード・コンプルテンセ大学	スペイン語	
	オランダ	トゥウェンテ大学	英語	
	スウェーデン	オレブロ大学	英語	
	スウェーデン	ハルムスタード大学	英語	
	フィンランド	オウル大学	英語	
	ハンガリー	エトヴェシュ・ローランド大学	英語	
	ポーランド	ヤゲウォー大学	英語	
	トルコ	中東工科大学	英語	
	米国	ウィーバー大学	英語	
	米国	サンディエゴ州立大学	英語	
	米国	サザン・メイン大学	英語	
	米国	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	英語	
	米国	サウスカロライナ・エイキン大学	英語	
	米国	セント・クラウド州立大学	英語	
	米国	フロリダ国際大学	英語	
	米国	ローワン大学	英語	
	カナダ	モントリオール大学	フランス語	
	カナダ	メモリアル大学	英語	
	カナダ	ヒューロン大学	英語	
	メキシコ	アメリカス・プエブラ大学	英語	
	中国	上海師範大学	中国語	
	中国	北京師範大学	中国語	
	台湾	東海大学	英語/中国語	
	台湾	国立政治大学	英語/中国語	
	台湾	国立台湾科技大学	英語/中国語	
	台湾	長庚大学	英語/中国語	
	韓国	仁川大学校	韓国語	
	韓国	高麗大学校〈世宗キャンパス〉	英語	
	韓国	淑明女子大学校	英語/韓国語	
	タイ	タマサート大学	英語	
タイ	チェンマイ大学	英語		
マレーシア	マレーシア科学大学	英語		
ベトナム	ハノイ大学	英語		
オーストラリア	キャンベラ大学	英語		
長期留学	米、カナダ、イギリス、アイルランド等	セメスター留学	英語	
認定留学 (各国・要事前申請)			—	出発半年前を目安にグローバル推進室までお問い合わせください。

② 学則に定める留学中に修得した単位について

学則に定める留学の場合については、留学期間が在籍期間に算入されます。また留学先（第2クォータープログラムを含む）で修得した単位については、帰国後に本人からの申請により、本学で修得した単位として認定されます（渡航中や休学中の申請は原則認めません）。学修内容が、教育的に有益であり、かつ本学の開講科目と内容が一致すると認められた科目は、本学の開講科目に読み替えて、卒業要件を満たす単位として認定されます。教育的に有益にもかかわらず本学に内容が一致する開講科目がない場合は、海外留学科目群※として、卒業要件を満たす単位として認定されます。本学開講科目及び海外留学科目群に読み替えられない場合、自由科目（卒業必要単位外）として認められます。詳細については、留学前に各キャンパス事務室（金沢八景キャンパスは教務担当）までお問合せください。

➔参考ホームページ「留学先で取得した単位認定について」

https://www.yokohama-cu.ac.jp/ytog/global/overseas_study/kaigaihaken_credit.html

※海外留学科目群は、各学部の共通教養科目では特別講座（8科目、各2単位）、専門科目では、特講（8科目、各2単位）がそれぞれ設定されています。



③ 留学による大学不在の場合の履修取扱いについて

本学のプログラムで3か月以上留学し、学則に定める「留学」に身分が異動する学生については、一定の条件のもと、演習科目（国際教養学部・国際商学部・理学部は卒業研究関連科目群の一部科目、データサイエンス学部は専門領域演習又は卒業研究の一部科目）の翌年度重複履修（同時履修）を承認することがあります（講義科目、実験・実習科目については、留学中の履修は認めません）。

また、帰国後、一定の条件のもと、一部科目については履修を認める場合があります。

詳細は「留学プログラム準備ガイド」を確認または、グローバル推進室まで問い合わせてください。

《同時履修についての注意事項》

- 原則として、4年間で卒業する予定の学生のみ申請可能です。
- 指定の申請期間中に教育推進課教務担当ほか各キャンパスの教務担当へ、演習同時履修申請をしてください。
- 同時履修の申請期間及び申請方法は、YCU-Boardで別途掲示します。
- 同時履修を認められることがあるのは、留学終了から1年間です。留学終了後の学期を休学する場合、同時履修は認められません。
- 3年次後期から半年または1年間留学し、同時履修を申請する場合、4年次前期の履修登録結果公開時点では卒業見込証明書等の取得はできません。履修追加・取下げ結果公開日以降に卒業見込判定が反映され、卒業見込証明書等の取得ができるようになります。
- 履修上限単位数には、同時履修申請を行う科目も含まれます。
- 以下の各学部の同時履修に関する注意点も確認してください。

【国際教養学部・国際商学部】

2年次後期から1年間留学する場合、「演習Ⅰ」を3年次後期、「演習Ⅱ」を4年次前期に同時履修する申請を行ってください。

3年次後期から1年間留学する場合、「演習Ⅲ」を4年次後期に同時履修し、「卒論演習Ⅰ」は4年次前期に学外（遠隔）指導を受ける申請を行ってください。指導教員に事前に相談のうえ、指導方法について確認してください。

【理学部】

2年次後期から1年間留学する場合、研究室配属要件となる単位の不足分については、2年次後期に留学先で修得し、3年次前期に他大学単位認定を受ける必要がありますが、全ての申請が認められる訳ではないことをご注意ください。また、3年次前期に留学先で修得した単位については、3年次前期終了時点の研究室配属には反映されません。

3年次後期から1年間留学する場合、「卒業研究Ⅰ」については卒業研究の特性上、遠隔指導を実施でき

ないため、翌年度に履修することになり、4年間で卒業できません。

以上の通り、1年間留学すると、4年間での卒業が難しくなります。留学を考えている方は、必ず早い段階でグローバル推進室に相談してください。

【データサイエンス学部】

(2023年度以前入学者)

2年次後期から1年間留学する場合、「専門領域演習Ⅰ」を4年次前期に同時履修する申請を行ってください。3年次後期から1年間留学する場合、「卒業研究Ⅰ」については卒業研究の特性上、遠隔の指導を実施できないため、翌年度に履修することになり、4年で卒業できません。留学を考えている方は、必ず早い段階でグローバル推進室に相談してください。

(2024年度以降入学者)

2年次後期から1年間留学する場合、「専門領域演習Ⅱ」の履修要件となる単位の不足分については、2年次後期に留学先で修得し、3年次前期に他大学単位認定を受ける必要がありますが、全ての申請が認められる訳ではないことをご注意ください。3年次前期に留学先で修得した単位については、「専門領域演習Ⅱ」の履修要件には反映されません。また、「専門領域演習Ⅰ」を4年次前期に同時履修する申請を行ってください。3年次後期から1年間留学する場合、「卒業研究Ⅰ」については卒業研究の特性上、遠隔の指導を実施できないため、翌年度に履修することになり、4年で卒業できません。以上の通り、1年間留学すると、4年間での卒業が難しくなります。留学を考えている方は、必ず早い段階でグローバル推進室に相談してください。

【医学部看護学科】

4年次に留学を経験できる機会があります。履修状況によっては4年間で卒業できない場合もあるため、希望者は計画を早期に担任に相談してください。

(4) 転学部

転学部は、本学の他学部へ異動することをいいます。転学部の募集の有無については、毎年各学部が決定します。希望する者は募集の有無及び募集要項をYCU-Board等により確認の上、申請期間内に出願してください。

【スケジュール】(2026年度予定)

※6月以降のスケジュールは、転学部が実施された場合に限りです。

2026年6月上旬	当年度転学部実施学部の公示
2026年12月上旬	募集要項の公示
2026年12月中旬	願書配布
2027年1月上旬	出願期間
2027年2月上旬～2月中旬	面接等試験
2027年3月中旬	合格発表
2027年4月1日(休)	転学部

【出願要件】

以下に記載の出願要件は、2026年度のもです。

出願要件については変更になる場合があるので、必ずYCU-Board等を確認してください。

【国際教養学部国際教養学科への転学部】

次の要件を全て満たす者

- (1) 令和4(2022)年度以降に本学に入学し、現在在学している者。
- (2) 「教養ゼミ」又は「基礎ゼミ」いずれかの単位を修得済み、もしくは出願時に履修中の者。

(3) 「プレゼミA」の配属条件に必要な科目を修得済み、もしくは出願時に履修中の者。

※国際教養学部への転学部が認められた場合は、2年次への配属となります。

[国際商学部国際商学科への転学部]

次の要件を全て満たす者

- (1) 令和4(2022)年度以降に本学に入学し、現在在学している者。
- (2) 「教養ゼミ」又は「基礎ゼミ」いずれかの単位を修得済み、もしくは出願時に履修中の者。
- (3) 「演習Ⅰ」配属条件に必要な科目を修得済み、もしくは出願時に履修中の者。

※国際商学部への転学部が認められた場合は、2年次への配属となります。

(ゼミ配属条件科目を修得していない場合、ゼミには仮配属となります。)

[理学部理学科への転学部]

次の要件を全て満たす者

- (1) 令和4(2022)年度以降に本学に入学し、現在在学している者。
- (2) 「教養ゼミ」又は「基礎ゼミ」いずれかの単位を修得済み、もしくは出願時に履修中の者。

※理学部への転学部が認められた場合は、2年次への配属となります。ただし、「基礎物理学実験」等の理学部1年次で履修すべき科目を履修する必要があります。

[データサイエンス学部データサイエンス学科への転学部]

次の要件を全て満たす者

- (1) 令和4(2022)年度以降に本学に入学し、現在在学している者。
- (2) 「教養ゼミ」の単位を修得済み、かつ「総合講義(データサイエンス入門)」の単位を修得済み、もしくは出願時に履修中の者。

※データサイエンス学部への転学部が認められた場合は、原則1年次への配属となります。

[医学部看護学科への転学部]

次の要件を全て満たす者

- (1) 令和4(2022)年度以降に本学に入学し、現在在学している者。

※看護学科への転学部が認められた場合は、1年次への配属となります。

[医学部医学科への転学部]

実施せず

※上記については変更される可能性があるため、転学部を検討している場合は、事前に各キャンパスの事務室(金沢八景キャンパスは教育推進課教務担当)に相談してください。

(5) 他大学受験

本学在籍中に、他大学受験の許可証が必要な者は本学所定の「受験許可願」を提出してください(保証人と指導教員の承認が必要です)。

なお、他大学へ入学する場合は、必ず本学退学手続きを行ってください。

(6) 再入学試験

病気その他の理由により退学した者が再び退学前の学部へ入学する制度です。

再入学を希望する場合は、再入学を希望する前年度の12月までに手続き等について教育推進課教務担当に問い合わせてください。

Ⅲ 履修案内

1. 履修申請～成績公開までのスケジュール

	日程	履修登録/成績入カスケジュール	該当ページ	備考
前期	4月10日(金)	前期授業開始		
	4月17日(金)～4月23日(木)	履修申請期間	32～35	後期科目も申請可
	5月11日(月)	履修申請結果公開日		
	5月11日(月)～5月18日(月)	履修申請結果確認期間(履修追加及び取下げ期間)	36～38	追加・取下げ可能な科目の条件あり
	5月28日(火)	履修追加/取下げ結果公開日		
	6月19日(金)～6月25日(木)	前期後半・集中講義科目履修取下げ期間	36～38	追加・取下げ可能な科目の条件あり
	6月22日(月)・6月23日(火)	前期追試験実施日(前期前半科目)	19～21	試験は、このうち大学が指定した日に実施 医学部専門科目は別途指定した日に実施
	7月3日(金)	前期後半・集中講義科目履修取下げ結果公開日		
	7月30日(木)	前期授業最終日		
	7月31日(金)～8月6日(木)	補講期間		
	8月16日(土)	前期PE、APE I・II・III・IV 追試験実施日	19～21	
	8月19日(水)・8月20日(木)	前期追試験実施日(前期通常科目・前期後半科目)	19～21	試験は、このうち大学が指定した日に実施 医学部専門科目は別途指定した日に実施
	9月1日(火)	成績公開日	23	集中講義は後期終了後に成績公開
	9月1日(火)～9月7日(月)	前期成績確認申立期間	23	
後期	9月24日(木)	後期授業開始		
	10月1日(木)～10月7日(水)	履修申請期間	32～35	後期科目のみ申請可
	10月20日(火)	履修申請結果公開日		
	10月20日(火)～10月26日(月)	履修申請結果確認期間(履修追加及び取下げ期間)	36～38	追加・取下げ可能な科目の条件あり
	11月6日(金)	履修追加/取下げ結果公開日		
	12月1日(火)～12月7日(月)	後期後半・集中講義科目履修取下げ期間	36～38	追加・取下げ可能な科目の条件あり
	12月15日(火)	後期後半・集中講義科目履修取下げ結果公開日		
	12月16日(水)・12月17日(木)	卒論提出(国際商学部)		
	12月21日(月)・12月22日(火)	卒論提出(国際教養学部)		
	1月25日(月)	後期授業最終日		
	1月26日(火)～2月1日(月)	補講期間		
	1月25日(月)～1月29日(金)	卒論提出(理学部)		
	1月28日(木)・1月29日(金)	卒論提出(データサイエンス学部)		
	2月14日(土)	後期PE、APE I・II・III・IV 追試験実施日	19～21	
	2月16日(火)・2月17日(水)	後期追試験実施日	19～21	試験は、このうち大学が指定した日に実施 医学部専門科目は別途指定した日に実施
	2月19日(金)	(卒業年次生)成績公開日 第一次卒業判定結果発表	23	
	2月19日(金)～2月24日(水)	後期成績確認申立期間(卒業年次生のみ)	23	
	3月5日(金)	(卒業年次生以外)成績公開日 進級判定結果掲示	23	
	3月5日(金)～3月11日(木)	後期成績確認申立期間(卒業年次生以外)	23	

Ⅲ 履修案内
履修申請～成績公開までのスケジュール

2. 履修申請手続き

ア 履修科目の決定

- 履修科目は、授業科目区分・授業科目一覧表・授業時間表等をもとに、各種オリエンテーションやシラバス（講義要項）、YCU-Boardの情報等を参考に、適切に決定してください。

イ 履修申請

- 本年度に履修しようとする科目は、期間内にWeb（YCU Portal）による履修申請（下記ウ参照）を行わなければなりません。

重 要

期間を過ぎてからの内容の追加・変更は、本項の「キ 履修追加及び取下げ（履修登録確認期間）について」に記載されている一部科目を除き認められません。

期間内に申請のない学生は、その学期における履修を放棄したものとみなされますので、注意してください。

○卒業見込証明書の発行について

4年次生は、前期履修申請期間（上記）中に必ず後期科目も履修申請してください。後期科目も含めて卒業に必要な科目の履修申請がない場合は、卒業見込証明書を発行できません。

必要科目を履修申請した場合は、履修申請結果公開日から証明書自動発行機で、卒業見込証明書の発行ができるようになります。

なお、休学中の学生は卒業見込証明書を発行できません。

※前期中に申請した後期科目は後期履修申請期間に変更することが可能です。

※医学科の学生は別途、福浦キャンパス医学教育推進課にお問い合わせください。

ウ 履修申請方法

履修申請は、Web（YCU Portal）で行います。YCU Portalのメニュー画面から、履修・成績 → 履修登録と進んでください。

申請期間中は、何回でも修正・変更が可能です。

履修登録確定前にYCU-Board上で講義をフォローできる期間があります。講義のフォローをすると、履修登録をする予定の講義の教材・課題・先生からのお知らせを確認できます。

※フォロー機能の詳細はYCU-Boardのお知らせを参照してください。

★注意事項

- 「登録」ボタンを確実にクリックして登録してください（申請期間中はWeb画面上で「登録」をクリックすることにより何回でも登録内容を更新することができます）。
- 「履修申請画面」で自分の履修科目が正確に登録されているか必ず確認してください。曜日、時限、科目名、担当教員など各項目をチェックしてください。登録されなかった科目には成績がつきません。
- 締切直前はアクセスが集中して繋がりにくいことがありますので、余裕をもって登録するようにしてください。
- 「履修申請確認画面」を印刷し、自分の申請科目を控えておいてください。
- 履修登録完了案内がYCU Portal上のお知らせに受信できているか確認してください。受信できていない場合は履修登録が完了していませんので、再度履修登録を行ってください。
- Web履修登録画面に表示されない科目は、履修年次が適当でない・過去に単位を修得している、などの理由で、履修することが出来ません。これらの理由に当てはまらない場合は、履修申請期間内に各キャンパスの教務担当窓口で確認してください。
- 履修申請期間終了後から履修登録結果公開までの期間は、YCU Portalの履修登録、履修確認メニューは閲覧できません。

- YCU-Boardのフォロー機能は正規の履修登録ではありません。YCU Portalから必ず履修登録をしてください。履修可能な講義が各自で確認してから、フォローしてください。

エ クォーター科目について

クォーター科目は8週で15回の授業を行うため、通常の半期科目であれば週1回の授業内容（2単位）を週2回のペースで行います。

クォーター科目は授業科目一覧表等の「開講時期」に「前期前半（第1クォーター）」、「前期後半（第2クォーター）」、「後期前半（第3クォーター）」「後期後半（第4クォーター）」とそれぞれ記載のあるものが該当します。

【履修上の注意事項】

- ① 履修登録・追加履修登録については、通常の半期科目と同じ時期に履修登録を実施します。
半期科目とクォーター科目を合算して半期24単位の履修制限内に収まるように履修計画を立ててください。
※夏季休業期間に実施される集中前期科目は前期の上限単位（24単位）を超えない範囲で登録してください。
- ② 各クォーター科目の最終週については、1回目が最終回（15回目の授業）となり、2回目は補講回となります。
試験の実施日やレポートの提出については各科目の担当教員の指示に従ってください。
また、後半の科目（前期後半・後期後半）は通常の半期科目の補講週に最終回（15回目の授業）があるので、注意してください。
- ③ 成績については、前半科目・後半科目ともに通常の半期科目と同時期に公開されます。
成績公開や成績確認申立については「Ⅱ 卒業までのルール>10. 成績」を参照してください。

〈出発時期が補講期間に重なる第2クォータープログラムに参加予定の方へ〉

第2クォータープログラム参加手続後、担当事務より配慮依頼文の書式を発行します。前期履修登録期間中に、履修希望科目の担当教員に**第2クォータープログラムに参加すること、及び出発時期が補講期間に重なることを伝え、配慮を依頼するとともに、書式に署名を得てください。**ただし、試験の代替実施等の配慮を行うかどうかの判断は科目担当教員によります。また、本学公式の第2クォータープログラム参加以外のことを理由として学生が科目担当教員に特別な配慮を求めることはできません。

なお、**補講期間より前に出発するプログラムに参加する場合は、通期科目・前期後半のクォーター科目は受講できません。**

3・4年次生は、補講期間より前に出発するプログラムには参加できません。

オ 履修の制限

次のような授業科目は、履修することができないので、注意してください。

- ① 履修登録をしていない科目
- ② 同一授業時間に開講されている授業科目
- ③ 既に単位を修得した授業科目
- ④ クラス指定のある科目の指定以外のクラスでの履修
- ⑤ 履修要件を満たしていない科目

※1 科目履修のルール

- 科目一覧表（巻末等に掲載）の科目コードの同じ「同一科目名」については、在学中1回のみしか単位修得はできません。
- 一度単位修得した科目の成績は、それが卒業要件単位であるか自由単位であるかにかかわらず、取り消すことはできません。また、単位区分に関係なく再履修はできません。
- 科目名に数字（Ⅰ・Ⅱや1・2など）がつく場合は、原則数字の小さい順に履修してください。ただし、Advanced Practical Englishなどの一部科目はこの限りではありません。なお、A・Bなどの大文字アルファベット等がつく科目については履修順序は問いません。

※2 重複履修の例外

- 次の科目名につき「重複履修の例外」とし、同一科目名であっても（ ）内のテーマが異なる場合には単位修得が可能です。

- | | |
|--------------|--|
| (1) 総合講座 | (例) 総合講義（現代社会とジェンダー）等 |
| (2) 特別講座 | (例) 寄附講座、支援講座 等 |
| (3) 特講 | (例) 特講（グローバル社会論）等 |
| (4) 健康スポーツ実習 | (例) 健康スポーツ実習（春期スポーツ種目）
健康スポーツ実習（秋期スポーツ種目） |

健康スポーツ実習は、春期スポーツ種目、秋期スポーツ種目についてそれぞれ一種目のみしか単位修得できません。

- (5) 多文化交流ゼミ
- (6) リメディアル講座
- (7) 課題探究科目
- (8) キャリア形成実習

なお、（ ）内のテーマ名が同一のものは重複履修できません。

注意	<ul style="list-style-type: none">• 履修希望者多数の場合は、履修者数の制限をすることがあります。• 今年度、履修希望者数が少数の講義科目は、次年度以降、隔年休講となる場合があります。
----	--

[オンライン授業で修得できる単位数の上限について]

大学設置基準により、卒業要件単位数のうち、オンライン授業で修得できる単位数は、60単位以下と上限が定められているため、オンライン授業履修の際にはご注意ください。(令和2年度及び3年度に修得した単位は対象外となります。)

[除外事項 (履修上限単位数に含まれない科目)]

国際教養学部・国際商学部・理学部、データサイエンス学部では、各学期の履修上限単位数は24単位です。ただし、以下に該当する科目の単位は上限に含まれません。

なお、医学部に履修制限はありません。

- ① 教職専門科目
 - ② 入学時に認定された「Practical English」
 - ③ 他大学で修得し本学で単位認定された科目
 - ④ 「Advanced Practical English I～VII」(1科目2単位まで)
 - ⑤ 前の学期の履修登録科目の成績がすべて“秀”で、「Practical English」に合格している場合(4単位まで)
- ※④⑤については、教育推進課教務担当での履修登録手続きが必要です

※履修上限単位数とは：「Ⅱ 卒業までのルール>4. 単位制度」のページにあるように、半期2単位の授業は90時間の学修を必要とします。これは1コマの授業には原則として授業以外に週4時間の学修が想定されていることを意味します。この学修時間を確保するために履修上限が設けられています。

カ 聴講カード

聴講カードは、履修登録が完了するまで、科目担当教員が出席管理のために使用します。

必ず、各講義の初回授業で、科目担当教員に提出してください(各科目での提出は1回のみ)。初回の講義に提出できなかった場合は、第2回の講義で提出してください。

ただし、受講者制限を行う科目については、初回講義に出席をして聴講カードを提出することにより抽選を行う場合があるので、シラバスや掲示に留意してください。オンライン授業の場合は、担当教授の指示に従ってください。

なお、聴講カードを提出しても、Web履修登録(YCU Portal)をしなかった場合には、履修は認められません。

〈2026年度の提出期限〉

前期	4月23日(木)	後期	10月7日(水)
----	----------	----	----------

※集中講義については、講義の1回目に提出してください。

キ 履修追加及び取下げ（履修登録確認期間）について

履修登録結果の開示後、定められた条件に該当する科目の履修追加と履修取下げを認めます。期間内に申請を行ってください。申請方法は別途YCU-Board等でお知らせします。

期間終了後の申請は一切認められません。

(1) 履修追加 [国際教養学部・国際商学部・理学部]

履修科目の追加又はそれに伴う変更を認めます。

履修追加が可能な科目 ※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

対象科目	対象科目の詳細
進級、卒業に関わる科目	<p>①演習科目（プレゼミA、演習、先端科学演習、先端科学実習、卒論演習、卒業研究、卒業論文）</p> <p>②Practical English</p> <p>③情報リテラシー</p> <p>④YCUリベラルアーツ入門</p> <p>⑤教養ゼミ・基礎ゼミ（事前にクラス分けが完了している場合のみ）</p> <p>⑥卒業必要単位数に不足する単位数分の科目※1 次学期以降4年次後期まで履修上限の単位数分（半期24単位）の科目を履修しても、卒業必要単位数が不足する場合（ただし4年次生であれば、追加履修年度に卒業するかは問わない） （卒業必要単位数に不足する単位数分の科目のみ申請可）</p> <p>※4年次生は、前期期間に後期科目も含めて卒業必要単位数に不足する単位数分の科目の申請可</p> <p>⑦卒業研究Iの履修前提条件単位数に不足する単位数分の科目(理学部生のみ適用) 次学期以降3年次後期まで履修上限の単位数分（半期24単位）の科目を履修しても、履修前提条件単位数の108単位に満たない場合 （卒業研究Iの履修前提条件単位数に不足する単位数の科目のみ申請可）</p> <p>⑧研究室配属の必要単位数に不足する単位数分の科目（理学部生のみ適用） 次学期以降3年次前期まで履修上限の単位数分（半期24単位）の科目を履修しても、研究室配属の必要単位数が不足する場合 （研究室配属の必要単位数に不足する単位数分の科目のみ申請可）</p> <p>⑨ゼミ配属条件に必要な科目のうち不足する単位数分の科目（国際教養学部、国際商学部のみ適用）</p> <hr/> <p>(1)国際教養学部 ※1年次生のみ対象 人間科学論、国際文化論、国際社会論、都市政策・まちづくり論のうち修得済みを含めて2科目まで</p> <p>(2)国際商学部 ※2年次生前期のみ対象 経営学入門Ⅰ・Ⅱ、簿記入門Ⅰ・Ⅱ、経済学入門Ⅰ・Ⅱ、ビジネス統計Ⅰ・Ⅱ、Advanced Practical EnglishⅣ (Business) のうち3科目6単位以上の条件に不足する単位数分の科目</p>
教員免許状取得に必要な科目	<p>教員免許状取得に必要な単位</p> <p>※次学期以降の履修が不可能な科目に限る</p> <p>※4年次生は、前期期間に後期科目も含めて教員免許状取得に不足する単位数分の科目の申請可</p>
その他不測の事態でやむを得ない場合	<p>急な入院等の不測の事態で、履修申請期間内に履修登録できなかった場合等</p> <p>※申請には別途診断書等の証明書類が必要</p>

- ※1 例① 4年次前期の履修申請期間に後期科目の履修登録を忘れてしまった場合
➡卒業に必要な単位であれば、半期24単位の範囲内で後期科目の追加履修をすることができます。
- 例② 4年次後期開始時点で卒業に35単位必要であるが履修申請期間に10単位しか登録しなかった場合
➡履修登録ができる単位の上限は半期24単位までのため14単位を追加履修することができます。

(2) 履修追加 [医学部・データサイエンス学部]

履修科目の追加又はそれに伴う変更を認めます。

履修追加が可能な科目 ※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

対象科目	対象科目の詳細
進級、卒業に関わる科目	①演習科目（専門領域演習、卒業研究） ②Practical English ③情報リテラシー ④YCUリベラルアーツ入門 ⑤教養ゼミ ⑥卒業必要単位数に不足する単位数分の科目※1 次学期以降4年次後期まで履修上限の単位数分（半期24単位）の科目を履修しても、卒業必要単位数が不足する場合（ただし4年次生であれば、追加履修年度に卒業するかは問わない） （卒業必要単位数に不足する単位数分の科目のみ申請可） ※4年次生は、前期期間に後期科目も含めて卒業必要単位数に不足する単位数分の科目の申請可 ⑦進級に関わる専門科目（進級必要単位数に不足する単位数分の科目のみ申請可） ⑧進級に関わる共通教養科目（医学部生のみ適用） （進級必要単位数に不足する単位数分の科目のみ申請可） ⑨医学基礎教育科目（医学部医学科生のみ適用） ⑩専門支持科目、専門科目（医学部看護学科生のみ適用） ⑪専門領域演習Ⅱの履修前提条件単位数に不足する単位数分の科目（データサイエンス学部2024年以降入学者のみ適用） 次学期以降3年次前期までで、履修上限の単位数分（半期24単位）の科目を履修しても、履修前提条件単位数の84単位数に満たない場合（専門領域演習Ⅱの履修前提条件単位数に不足する単位数分の科目のみ申請可） ⑫卒業研究Ⅰの履修前提条件単位数に不足する単位数分の科目（データサイエンス学部2024年以降入学者のみ適用） 次学期以降3年次後期までで履修上限の単位数分（半期24単位）の科目を履修しても、106単位数に満たない場合（卒業研究Ⅰの履修前提条件単位数に不足する単位数分の科目のみ申請可）
その他不測の事態でやむを得ない場合	急な入院等の不測の事態で、履修申請期間内に履修登録できなかった場合等 ※申請には別途診断書等の証明書類が必要

- ※1 例①：4年次前期の履修申請期間に後期科目の履修登録を忘れてしまった場合
 ➔卒業に必要な単位であれば、半期24単位の範囲内で後期科目の追加履修をすることができます。
 例②：4年次後期開始時点で卒業に35単位必要であるが通常の履修申請期間に10単位しか登録しなかった場合
 ➔履修登録ができる単位数の上限は半期24単位までのため、14単位を追加履修することができます。

(3) 履修取下げ

履修科目の取下げを2科目6単位まで認めます。ただし、下記の科目を取り下げることはいけません。

履修取下げのできない科目	<ul style="list-style-type: none"> • Practical English • 教養ゼミ • クォーター科目のうち、各学期の前半科目
--------------	--

(4) 履修追加・取下げ結果について

追加・変更・取下げをした結果に疑義がある場合は、公開日から1週間以内の窓口開室日に教育推進課教務担当窓口へ申し出てください。

(5) フォーター科目（各学期の後半科目）・集中講義科目履修取り下げについて

履修登録を行ったクォーターの後半科目（前期後半・後期後半）および集中講義科目のうち、取り下げを希望する科目のみ申請を受け付けます。

申請方法は、別途YCU-Board等でお知らせします。期間終了後の申請は一切認められません。

集中講義科目は取り下げ期間終了までに一日でも講義を実施している場合は取り下げできません。

クォーター科目・集中講義科目を含めて半期で2科目6単位が取り下げ上限です。

(6) フォーター科目（各学期の後半科目）・集中講義科目履修取り下げ結果について

追加・変更・取り下げをした結果に疑義がある場合は、公開日から1週間以内の窓口開室日に教育推進課教務担当に申し出てください。

3. 履修相談

(1) クラス担任制

本学では在学期間中の担任について下記のとおり学年に応じた担任をおいています。担任は学生の履修や生活相談の窓口として、学生生活支援を行います。

なお、1年次の前期は教養ゼミの担当教員と学部・学科の教員が担任になっています。学生生活などは教養ゼミ担任、履修内容等は学部・学科担任に相談してください。

◇国際教養学部

1年前期	教養ゼミのクラス担当教員 ※別途、学部の指定する専任教員（身分異動に関しては学部長）も相談窓口として設ける
1年後期	基礎ゼミのクラス担当教員 ※別途、学部の指定する専任教員（身分異動に関しては学部長）も相談窓口として設ける
2年前期前半（第1クォーター※） ※ゼミ配属決定まで	プレゼミAの担当教員
2年前期後半（第2クォーター※） ～卒業まで ※ゼミ配属決定後	演習Ⅰ～Ⅲ及び卒論演習Ⅰ・Ⅱの担当教員

◇国際商学部

1年前期	教養ゼミのクラス担当教員 ※別途、学部の指定する専任教員（身分異動に関しては学部長）も相談窓口として設ける
1年後期	基礎ゼミのクラス担当教員 ※別途、学部の指定する専任教員（身分異動に関しては学部長）も相談窓口として設ける
2年前期前半（第1クォーター※） ～卒業まで ※ゼミ配属決定後	演習Ⅰ～Ⅲ及び卒論演習Ⅰ・Ⅱの担当教員

◇理学部

1年前期	教養ゼミのクラス担当教員 ※別途、学部の指定する専任教員も相談窓口として設ける
1年後期	基礎ゼミのクラス担当教員 ※別途、学部の指定する専任教員も相談窓口として設ける
2年前期	学部の指定する専任教員
2年後期～3年前期	履修する実習科目(下記*)、理数自主研究Ⅱ・Ⅲ又は課題提案型演習A・Bの担当教員のいずれかの中から学部が指定する教員 上記に当てはまらない場合等は学部の教務委員の教員 *自然科学実験Ⅰ・Ⅱ、地球科学実験、生命科学実験、生命機能計測実験、物質計測実験のいずれか
3年後期～卒業まで	先端科学演習・先端科学実習及び卒業研究Ⅰ・Ⅱの担当教員

◇データサイエンス学部

1年前期	教養ゼミのクラス担当教員 ※別途、学部の指定する専任教員も相談窓口として設ける
1年後期	学部の指定する専任教員
2年前期～後期	
3年前期～卒業まで	専門領域演習Ⅰ・Ⅱ及び卒業研究Ⅰ・Ⅱの担当教員

◇医学部(医学科・看護学科)

1年前期	教養ゼミのクラス担当教員 ※別途、学部の指定する専任教員も相談窓口として設ける
1年後期以降	医学科、看護学科それぞれが指定する専任教員

(2) オフィスアワー

オフィスアワーは、学生が授業や学生生活全般に関する質問をしたり、相談あるいは個人的な指導等を受けるために各教員が設定する、広く学生に対して開かれた時間です。シラバスに時間が示されていますので、有効に利用してください。ただし、オフィスアワーに設定されている時間であっても、会議や出張等で在室していない場合があります。

(3) YCU-Board ポートフォリオ機能の目標設定について

理想の自分を実現するために！

～自発的に目標を設定し、主体的に目標の進捗や実行を管理し、成長を実現する～

ディプロマポリシーを満たすとともに理想の自分を実現するために、自身の目標を学期初めに入力し、学期末に振り返りを行いましょ。漫然と目の前のことだけに追われていると、あっという間に4年間が過ぎてしまいます。自身が考える未来の理想像をイメージし、目標を掲げてその目標に向かって取り組むことが重要です。

この取り組みを有効に進めるためにメンターとなるのが担任教員です。理想の自分に近づくための近道や効果的な取り組みなどのアドバイスをもらってください。履修に関するアドバイスについてもいただけると幸いです。

IV 学務事務の窓口案内

入学から卒業までの学務に関する事務は教務担当（金沢八景キャンパス教育推進課教務担当、福浦キャンパス医学教育推進課）の窓口で取扱います。手続きを怠り、不利益が生ずることのないように、この案内を充分活用してください。

1. 全体的な注意事項

- (1) 大学からの連絡事項は原則として全て掲示で行います。

学務について必要な事項は、キャンパス内の「学部掲示板」又は「YCU-Board」（URLは右記二次元コードを参照）、「YCU Portal」（URLは右記二次元コードを参照）で案内しますので、日常的にチェックする習慣をつけてください。

掲示板やYCU-Board、YCU Portalの見落としによって不利益を被ることがありますので十分注意してください。

YCU-Board
(お知らせ・講義資料確認・(履修登録・シラバス閲覧)成績確認等)



YCU Portal



- (2) 教務担当の窓口では、学務に関する申請・届出、住所・氏名変更などの事務を中心に取扱います。

2. 窓口受付時間

(1) 受付時間

金沢八景キャンパス 8：45～17：00（授業期間外等（曜日調節日、浜大祭準備期間及び大学入学共通テスト準備日を含む）は15：00まで）

鶴見キャンパス 8：45～17：00

福浦キャンパス 8：45～17：00

※上記の時間は変更になる可能性があります。変更になる場合は掲示でお知らせします。

(2) 休業日

土曜、日曜、祝祭日（授業実施日を除く）、各キャンパス窓口の閉室日

※グローバル推進室の窓口受付時間も同様です。

3. 業務案内

(1) 住所・氏名・保証人に関する変更

大学に登録のある住所・氏名・保証人等に変更が生じた場合は速やかに各キャンパス教務窓口へ届け出てください。変更手続きの際には、変更内容が確認できる書類（住民票、マイナンバーカード、運転免許証、賃貸借契約書、公的料金の領収証など）を提示の上、指定の書類に必要な事項を記入し、提出してください。

(2) 証明書自動発行機による証明書の発行

金沢八景キャンパス・福浦キャンパスには、証明書自動発行機が設置されています。在学生の証明書は証明書自動発行機で発行できます。発行には学生証及び大学発行のID・パスワードが必要となります。

【利用可能時間】

金沢八景キャンパス：月～金曜日（8：30～17：00）

福浦キャンパス：月～金曜日（8：30～20：00）

（システムメンテナンス等に変更がある場合はその都度掲示等でお知らせします）

【発行可能な証明証】

・成績証明書 ・在学証明書 ・卒業見込/修了見込証明書 ・学生運賃割引証（学割証）

※自動発行機で発行可能な証明証は和文のみです。

(3) 証明書自動発行機以外による書類の発行

「通学証明書」、「教員免許状取得見込証明書」、「単位修得証明書」、「英文による成績証明書」、「英文による在学証明書」、「学生証（再発行）」は、各キャンパスの窓口にて発行が可能です。

なお、各証明書の申込み・書類受取り上の注意事項は、次のとおりです。

ア 交付された証明書の内容に誤りがないかどうか、その場で確認してください。

イ 学生証（再発行も含む）は直接本人に交付します。なお、再発行手数料が発生します。

ウ 各証明書の発行は、本人申込み、本人交付が原則です。代理人に依頼するときは、委任状を必要とします。

エ 証明書によっては、発行までに日数を要するものがありますので、窓口でお問い合わせください。

(4) 学部掲示板（YCU-Boardを含む）で取り扱う内容

- ① 休講・補講
- ② 試験・レポート関係
- ③ 履修ガイド・時間割表の訂正、時間割変更、教室変更
- ④ 各種説明会の開催通知
- ⑤ 事務手続きの方法（教務に関する各種申請方法に関すること）
- ⑥ 呼出し、諸連絡等
- ⑦ 教職関連
- ⑧ その他学部に関すること

4. 窓口での約束事

- 電話による問い合わせ、照会には応じません。対応は各キャンパス窓口でのみ行います。
- 受付時間以外の受付は行いません。
- 学外からの連絡（家族からの連絡など）を取り次ぐことは、原則としてできません。
- 他の学生の住所・電話番号等の問い合わせには応じられません。
- 通学定期券は、学生証の提示により購入することができます。バスの通学定期券購入には通学証明書が必要な場合がありますので、窓口で発行を申し出てください。
- 「学生運賃割引証」は、1人年間10枚まで証明書自動発行機で発行できます。11枚目以降の発行を希望する場合には教育推進課教務担当窓口まで申し出てください。有効期間は、発行日から3ヶ月間です。往復、周遊券等の利用により1枚を有効に使えますので、十分工夫して使用してください。

5. 電子メールによる連絡

大学から学生個人への通知・連絡事項を、大学が皆さんに交付しているメールアドレス（YCUメール）に送る場合もあります（高大連携学生は使用できません）。

YCUメールではセキュリティ強化のため、多要素認証を導入しています。

多要素認証とはシステムにログインする際、携帯電話番号等、本人確認のための要素を複数要求する認証方式の事です。下記のサイトにて詳細を確認し、初期設定を完了してください。

YCUメール初期設定
マニュアル



【YCUメール初期設定マニュアル】

<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ictpromo/mfa-init-recom>

※スマートフォン（アプリ）でのメールの確認方法もマニュアル内に記載されています。

<その他（ソフトウェアの提供）>

個人所有のPCで下記のソフトウェアをインストールできます。

利用方法はICT推進担当のWebサイト「利用案内（学生向け）」を参照してください。

- (1) Microsoft 365 Apps for enterprise
- (2) ウイルス対策ソフト（Trend Micro Apex One）

※ランサムウェア等のウイルス被害が増えています。

ご自身の大切なデータを守るためにウイルス対策を行ってください。

- (3) 講義で使用する各種ソフトウェアや、コミュニケーションツール類

ICT推進担当Webサイト



V. 共通教養科目

V 共通教養科目

共通教養教育では、横浜市立大学のすべての学生に求められる教養の「核」を形成し、大学での学修のスタートを切ることを目的としています。以下に科目の概要を紹介します。「履修のしかた」も示してありますから、よく読んで間違いのないように履修科目を選択してください。

1. 科目概要

共通教養の授業科目は「問題提起科目」、「技法の修得科目」、「専門との連携科目」の3つに大きく分かれています。

各科目群の具体的な科目名、受講条件等は共通教養授業科目一覧（巻末等に掲載）で必ず確認してください。

i 問題提起科目群

① YCUリベラルアーツ入門 [1年次]

「YCUリベラルアーツ入門」は、リベラルアーツの根幹を成す領域のゲスト講師による講演や本学の卒業生による学びの体験や現在の活動につながる話などを通して、横浜市立大学の学生が世界や地域における「市民」として成熟していくための知の入り口となる科目です。また、この講義では、教養ゼミで議論するための課題も提起します。YCUリベラルアーツ入門で提起された現在から将来にわたる社会の課題について、教養ゼミのグループワークで議論することで理解を深め、今後の社会を生き抜くために必要となる「自ら考える力」と「他者と議論する経験」を培うことを目指します。領域を超えた普遍的な問題意識を共有し、個々人の知的探究心や柔軟で独創的な思考を育み、今後の専門領域の学びや実践に活かしてください。1年次学生は全員必修です。

② 総合講義

総合講義は特定のテーマについてさまざまな講師を招いて話を聞き、現状や問題点を多面的に学ぶ授業です。これらの科目は、既成の学問の枠にとらわれず、いま何が課題になっているのか、あるいは自分が興味・関心を持つものは何なのかを明らかにするきっかけを与えます。

なお、履修者が多数になる場合には、履修者数を制限することがあります。また、履修希望者多数の場合は1年次生の履修が優先されます。詳しくはシラバス及び初回の授業でアナウンスがあります。

※総合講義は、学部ごとに卒業要件として履修しなければならない科目・単位数及び卒業要件に算入される科目・単位数が異なります。詳細については、各学部の卒業必要単位一覧をご確認ください。地域志向科目については本章の「3. 「地域志向科目」について」を参照してください。

③ 多文化交流ゼミ

ゲストスピーカーを招いて話を聴き、プレゼンテーションとディスカッションを中心とした英語で行う学生中心の授業です。Practical Englishが前提科目となります。

多文化交流ゼミ（現代アジア・太平洋地域事情）、多文化交流ゼミ（横浜のなかにある外国人コミュニティ）、多文化交流ゼミ（外国人の日本研究）、多文化交流ゼミ（世界で報道される日本）は、原則として隔年開講で、アメリカ・カナダ大学連合やCityNet、YOKE（横浜市国際交流協会）など、横浜にある国際機関の協力を得て開講されます。

④ 実践科目

実際に活動することによって考えていただけではわからなかった問題を簡単に認識できることがあります。たとえば、私たちの体はイメージするほどには俊敏に動作しませんし、思ったよりも非力です。実際に体を動かすことによって、はじめて分かることが多いのも事実です。

実践科目は教室外の活動を通して得られる体験を自己の問題の発見の重要な契機のひとつとして位置づける科目です。健康スポーツ実習、自然体験実習をはじめ、職業について考え、体験していくキャリア形成実習も実践科目として位置づけてあります。概略については本章の「5. 実践科目の概略について」を参照してください。

ii 技法の修得科目群

① 教養ゼミ [1年次]

大学では数百数千の開講科目が用意されています。しかし、自分で、問題意識を持って自主的に取り組まなければ何も得ることができません。至極あたりまえのひと言でいい尽くされるように「自分で勉強しなければ何も身に付かない」のです。とはいっても、むやみに自分で勉強しても思ったほどの成果が上がらないのも事実です。学び方にもそれなりの型があり、それを意識しながら学ぶ必要があります。

教養ゼミは大学での研究活動の第一歩です。各学生は定めたテーマに対して自分なりの答えを見出す過程を模索していきます。そして、明らかにしたことをクラスで発表し、レポートにまとめます。課題に取り組み、クラスでの発表の際に投げかけられた意見を参考にしつつ問題を整理し、言葉でまとめていく過程は、まさに私たちの脳の中で、問題を理解していく過程そのものといえます。ここで重要なのは、知識そのものに縛られない学びの型を体験し、自分なりのスタイルを獲得していくことです。

上記の研究活動を実践する上で「研究に対する誠実な姿勢（アカデミック・インテグリティ）」は不可欠です。不正行為が悪いことは誰もが知っていますが、ニュースで隠蔽や改ざんを謝罪する光景を何度も目にしていると思います。教養ゼミでは、研究の入り口に立つ1年生が、研究に必要な誠実な態度とは何かについて研究活動を通して体験的に学んでいきます。また、レポートの書き方などアカデミック・ライティングの指導にも力を入れています。

教養ゼミで行う研究活動を実りあるものにするために、各クラスは専門分野の異なる2名の教員が担当します。また、各クラスは多様性を確保するために、学部・学科の壁を越えた様々な指向性をもった学生で編成されます。さらに、学術情報センターの支援によって、授業の中や外で情報検索の方法やレポートの執筆方法についても学んでいきます。アカデミック・ライティングの技能は大学の授業や研究室活動を行っていく際に必要とされるものです。

② 基礎ゼミ [1年次：国際教養学部・国際商学部・理学部では必修、データサイエンス学部・医学部では選択]

教養ゼミが内容に関わらず大学での学びに必要な技能を学ぶものであれば、基礎ゼミは具体的な状況下での学びを体験し、教養ゼミで習得した技能を実際に使ってみることを目的としたものです。授業の形式は、講義形式、輪講形式、実習形式など教員によって様々であり、扱う内容も教員の専門分野に関連したものが中心で様々です。このように、基礎ゼミで学問の入り口をのぞき見ることで、大学の教員に親しみ、大学でのゼミや演習、研究室での活動に親しんで、2年次以降のゼミ活動等へ円滑に接続していくことも、この授業に期待された役割です。

なお、基礎ゼミは共通教養科目ですから、どの基礎ゼミに所属したかによって、2年次以降のゼミ配属に影響がでることはありません。

③ 情報関連科目 [必修] →本章「7. 情報関連科目」のページ参照

情報関連科目は、習熟の段階に応じて順次受講することを前提に、情報リテラシー（必修科目）とDSリテラシー（選択科目）と、プログラミングA/B/C（選択科目）が開講されています。プログラミングAはPython、BはJava、CはC言語を学ぶことができます。

④ 外国語（英語）

→本章「6. Guide to Practical English & Advanced Practical English」のページ参照

ア Practical English

この科目は「読む・聞く・話す・書く」といった英語の基本的な4技能のスキルを磨くことによって、大学における知的活動を英語によって行える程度のコミュニケーション能力を身に付けることを目的としています。学期末試験には、大学で学ぶための英語能力を測る客観的な国際基準であるTOEFL（Test of English as a Foreign Language）及び本学独自のスピーキングテストを用いて成績評価を行います。この科目に合格するには、一定の出席要件とTOEFL-ITP 500点相当のスコアが必要です。合格するまで毎学期指定されたクラスで履修します。詳細は別途掲示しますので、それに従ってください。

イ Advanced Practical English I, II, III, IV, V, VI, VII

Practical English合格者が、英語力をさらに伸ばすための科目です。IではTOEFL-ITP 520点レベルを、IIからIVではTOEFL-ITP 540点レベルを、VからVIIではTOEFL-iBT 79-80（ITP 550点）、IELTS 各6.0点、TOEIC 800点レベルを目指します。

各クラスの特徴は以下のとおりです。

<ul style="list-style-type: none"> • I：総合的な英語力（4技能）を伸ばすクラス • II：Speakingの力の養成に主眼をおいたクラス • III：Writingの力の養成に主眼をおいたクラス • IV：Academic Study Skillsの養成に主眼をおいたクラス
<ul style="list-style-type: none"> • V（TOEFL-iBT）：Academic Study Skillsの実践に主眼をおいたクラス（期末試験はTOEFL-ITP） • VI（IELTS）：Academic Study Skillsの実践に主眼をおいたクラス（期末試験はTOEFL-ITP） • VII（TOEIC）：Specific English Skillsの実践に主眼をおいたクラス （期末試験はTOEFL-ITP）2026年度は開講なし

授業は週に2回あります。その他の詳細については第1回目の授業で説明します。受講希望者は

- ①事前にエントリーをし、履修登録の許可を得た上で、第1回目の授業に必ず出席してください。
- ②エントリーの詳細は、YCU-Boardで周知します。

※ IはPractical Englishの合格を履修条件とします。IIからIVはAdvanced Practical English Iを前提科目としますが、TOEFL-ITP 520点以上のスコアを取得している場合にも受講が許可されます。

※ V（TOEFL-iBT）およびVI（IELTS）はTOEFL-ITP 540点以上のスコアを取得している場合に限り、受講が許可されます。

※ VII（TOEIC）は、TOEFL-ITP 520点以上のスコア取得、もしくはTOEIC 700点以上のスコアを取得している場合に限り、受講が許可されます。

※有効となるTOEFL-ITPとTOEICのスコアは、直近2年以内に受験したものに限りです。

※4技能とは：S（Speaking）、W（Writing）、L（Listening）、R（Reading）です。

ウ Essential Practical English、看護英語【看護学科のみ】

看護学科生のみ対象の認定科目です。詳細はオリエンテーションで説明します。

⑤ 初習外国語（中国語、韓国・朝鮮語、ドイツ語、フランス語、スペイン語）

→本章「12. 初習外国語について」参照

上記の5つの言語のコースが提供されています。

各言語の授業は「教養基礎Ⅰ」「教養基礎Ⅱ」「教養実践」「専門外国語」の4つの段階からなります。「専門外国語」クラスを除き、それぞれnative speakerの授業を含む週3回の授業があり、1学期で3単位を修得できます。

「中国語教養実践A/B/C」及び「韓国・朝鮮語教養実践A/B/C」については、週3回セットではなく、個別に履修することができます。

「専門外国語（中国語）」は、「中国語教養実践A/B/C」の3科目3単位を修得した後はじめて、履修することができます。同様に、「専門外国語（韓国・朝鮮語）」は、「韓国・朝鮮語教養実践A/B/C」の3科目3単位を修得したのち、はじめて履修することができます。ただし、「中国語/韓国・朝鮮語教養実践A/B/C」のうち1科目1単位以上を修得済みでかつ4年次生に限り、未履修の「教養実践」（2科目2単位以下）と「専門外国語」を同時に履修することが可能です。

※専門外国語は国際教養学部専門科目、国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）では全学開放科目です。

国際教養学部教養学系では、初習外国語の5つの言語（中国語、韓国・朝鮮語、ドイツ語、フランス語、スペイン語）のうち1つの言語の「教養基礎Ⅰ」（3単位）と「教養基礎Ⅱ」（3単位）の計6単位が必修になります※。

※既修者については別途定めます。本章「12. 初習外国語について」の「履修上の注意事項」を参照してください。

「教養基礎Ⅰ」については履修希望者多数の場合は抽選を行います。抽選には必ず本人が参加してください。抽選方法と日時についてはYCU-Boardに掲示します。

初習外国語は「教養基礎Ⅰ」「教養基礎Ⅱ」「教養実践」「専門外国語」の順に段階的に履修します。特に、中国、台湾、韓国、オーストリア、ドイツ、フランス、カナダ（フランス語圏）、スペインへの交換留学を考えている人は「専門外国語」クラスも活用して実力アップを目指してください。

クラスの設定

各言語とも、原則週3回の授業を1セットとして、それぞれ2クラスを開講します。ただし、1クラスは1学期遅れてスタートすることとして、Practical English合格以降いつでもはじめられるように配慮してあります。

時間割は、原則、上段が月、水、金の1時限目、下段が同じく2時限目です。

1年目		2年目		3年目	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	実践	専門外国語		
	基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	実践	専門外国語	

⑥ 日本語科目

【国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）・医学部】

留学生及び帰国生対象の科目です。一般学生は履修できません。

授業は週2回又は週1回で、日本語の知識を増やしスキルを伸ばすと同時に、自立的に学ぶ力、他者と協働する力、批判的・論理的思考力とそれを日本語で表現する力の養成を目指します。科目は、「レベル別科目群」と「テーマ・スキル別科目群」に分けられます。

A. レベル別科目群

週2回・2単位の科目で、総合的な日本語力を伸ばします。

レベル	科目名	単位数
入門	日本語入門Ⅰ	2
初級前半	日本語入門Ⅱ	2
初級後半	日本語Ⅰ	2
中級	日本語Ⅱ	2
中上級	日本語Ⅲ	2

B. テーマ・スキル別科目群

週1回・1単位の科目で、授業ごとにさまざまなテーマやスキルを扱います。自分の学びたいことや伸ばしたいスキルに合わせて選択します。

開講時期	レベル(目安)	科目名	単位数
前期	中級以上	日本語実践(口頭表現A)	1
後期	中級以上	日本語実践(口頭表現B)	1
後期	中級以上	日本語実践(口頭表現C)	1
前期	中級以上	日本語実践(文章表現A)	1
前期	中級以上	日本語実践(文章表現B)	1
後期	中級以上	日本語実践(文章表現C)	1
前期	中上級以上	日本語実践(アカデミックジャパニーズA)	1
後期	中上級以上	日本語実践(アカデミックジャパニーズB)	1
前期	中上級以上	日本語実践(留学生のキャリアデザインA)	1
後期	中上級以上	日本語実践(留学生のキャリアデザインB)	1

• 各科目の詳細について

横浜市立大学での日本語学習に必要な情報をまとめた『日本語学習のためのガイド』を、グローバル推進室の窓口で配布しています。授業を履修したい場合や、ボランティア参加を希望する場合には、本履修ガイドと合わせて『日本語学習のためのガイド』もよく読んでください。

• 一般学生の日本語授業への参加について

上記の日本語授業では、一般学生のボランティア参加を歓迎しています。留学生の日本語学習をサポートしたり、様々なテーマについて一緒にディスカッションしたりします。参加したい場合は、ボランティア支援室を通じて応募してください。

【データサイエンス学部（2022年度以前入学者）】

留学生及び帰国生対象の科目です。一般学生は履修できません。

授業は週2回又は週1回で、日本語の知識を増やしスキルを伸ばすと同時に、自立的に学ぶ力、他者と協働する力、批判的・論理的思考力とそれを日本語で表現する力の養成を目指します。科目は、「レベル別科目群」と「テーマ・スキル別科目群」に分けられます。

A. レベル別科目群

週2回・2単位の科目で、総合的な日本語力を伸ばします。

レベル	科目名	単位数
入門	特別講座（入門日本語Ⅰ）	2
初級前半	特別講座（入門日本語Ⅱ）	2
初級後半	特別講座（日本語Ⅰ）	2
中級	特別講座（日本語Ⅱ）	2
中上級	特別講座（日本語Ⅲ）	2

B. テーマ・スキル別科目群

週2回・2単位、または週1回・1単位の科目で、授業ごとにさまざまなテーマやスキルを扱います。自分の学びたいことや伸ばしたいスキルに合わせて選択します。

開講時期	レベル(目安)	科目名	単位数
前期	中級以上	日本語Ⅰ-1	2
前期	中級以上	日本語Ⅱ-1	2
後期	中級以上	日本語Ⅰ-2	2
後期	中級以上	日本語Ⅱ-2	2
前期	中上級以上	キャリア形成実習（留学生のキャリアデザインA）	1
後期	中上級以上	キャリア形成実習（留学生のキャリアデザインB）	1

※「日本語Ⅰ-1」「日本語Ⅱ-1」「日本語Ⅰ-2」「日本語Ⅱ-2」の履修方法

この科目は、4つの授業から自分のニーズに合わせて選択し、組み合わせて履修します。

【前期】



【後期】



• 各科目の詳細について

横浜市立大学での日本語学習に必要な情報をまとめた『日本語学習のためのガイド』を、グローバル推進室の窓口で配布しています。授業を履修したい場合や、ボランティア参加を希望する場合には、本履修ガイドと合わせて『日本語学習のためのガイド』もよく読んでください。

• 一般学生の日本語授業への参加について

上記の日本語授業では、一般学生のボランティア参加を歓迎しています。留学生の日本語学習をサポートしたり、様々なテーマについて一緒にディスカッションしたりします。参加したい場合は、ボランティア支援室を通じて応募してください。

iii 専門との連携科目群

基礎科学講義には2種類の科目があります。一つは、学部における専門課程での学修の基礎となる科目で、基礎知識や方法論を学ぶ入門講座です。もう一つは、専門の学問を背景としながら、広い見識を身に付けるための科目です。自分の専門と他の分野とのつながりを見つけることで専門性を充実させます。学部によって、ゼミ配属に必要な科目がありますので、学部オリエンテーションの指示に従ってください。

基礎科学講義には、共通教養科目一覧に記載の科目があります。下記で紹介する基礎物理学実験・基礎化学実験・基礎生物学実験、課題探究科目、リメディアル講座も基礎科学講義です。

ア 基礎物理学実験・基礎化学実験・基礎生物学実験 [各1単位]

この実験は、物理学、化学や生物学に関する講義と対をなすもので、実験を通して自然科学の基礎を修得します。この科目は1年次後期、週に2日（おおむね、木曜日と金曜日）、午後（3～5時限目）に実施します。物理学、化学、生物学の3つの実験があり、個別に履修できますが、進級要件、教員免許状取得との関連で以下のように履修する必要があります。

- (1) 理学部の学生は3科目全てを履修申請してください。
- (2) 中学校の理科教員免許状の取得にはこの3科目全ての履修が必須です（教職のページを参照のこと）
- (3) 医学部医学科では、選択必修として2科目が割り当てられますので、指定された2科目を履修申請してください。

なお、他大学単位認定を受けた医学科生については、以下のとおりの履修となります。

他大学単位認定申請については、「Ⅱ 卒業までのルール＞5. 単位認定」ページも必ず確認してください。

3科目認定→履修不要 2科目認定→1科目履修 1科目認定→2科目履修

* 「9. 基礎物理学実験・基礎化学実験・基礎生物学実験について」に記しているように、履修申請科目数に関係なく、全体ガイダンスと3つの安全講習すべてに出席してください。

イ 課題探究科目 [各2単位]

学問体系にとらわれず、具体的な課題・興味を中心にして展開する講義科目です。学問や知識が課題解決にどのように関係しているのかを知ることができるでしょう。また、複数の学問分野が関係してくることもあります。

ウ リメディアル講座 [0単位]

大学の講義を無理なく円滑に聴講するために、大学就学前に学ぶべき知識を補い、専門教養での学びの準備とします。たとえば、医学科や理学部で学ぶには物理、生物の知識が必要ですが、現在の入試制度では必ずしも全員にこれらの知識の試験を課していません。何らかの事情で、これらの必要な知識を学んでいない者に対して補習の機会を提供するのがリメディアル講座です。

なお、これらの科目を履修しないと、理系のいくつかの科目を履修することができません。ただし、特定の条件を満たしている場合（高校の特定の科目を履修済みであるなど）には、申請することによってこれらの科目の履修を免除することが可能になることもあります。詳細については「Ⅴ 共通教養科目＞10. リメディアル講座について」のページを参照してください。

なお、学位の質を保証するために、リメディアル講座の単位は0単位です。

2. 共通教養科目を履修するための前提科目

共通教養科目の中の一部の科目では、科目履修のための前提科目を設定していますので、「Ⅲ 科目一覧表＞1. 前提科目」のページを必ず確認してください。

3. 「地域志向科目」について

(1) 「地域志向科目」について

本学は地域の中核的存在として、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めています。地域が直面している様々な課題解決に資する人材育成に力を入れています。

本学では、地域に関する学修を行う、地域の課題を発見し解決策を考える等、地域に関連する科目を「地域志向科目」と位置付けています。国際教養学部、国際商学部、理学部、及びデータサイエンス学部生は全員1科目以上（国際教養学部都市学系は2科目以上）履修してください。医学部生は表中にある科目が必修となります。

(2) 地域志向科目の一覧

共通教養科目の総合講義（一部科目）及び医学部の一部専門科目が対象です。

学部により、対象科目が異なりますので、各学部の科目表一覧を確認の上、履修するようにしてください。また、総合講義の一部は「地域志向科目」の対象外ですのでご注意ください。

地域志向科目（国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）・医学部）

学部・学科	科目名	科目種別	受講可能年次	備考
国際教養学部	総合講義（鎌倉・金沢を知る）	共通教養科目	1～4年次	
国際商学部	総合講義（横浜学事始）	共通教養科目	1～4年次	
	総合講義（環境論入門）	共通教養科目	1～4年次	
理学部	総合講義（まちづくり学入門）	共通教養科目	1～4年次	
データサイエンス学部	総合講義（企業家に学ぶ）	共通教養科目	1～4年次	
	総合講義（物質と生命）	共通教養科目	1～4年次	
医学部	総合講義（生命科学と環境）	共通教養科目	1～4年次	
	総合講義（データサイエンス入門）	共通教養科目	1～4年次	
医学部 医学科	福祉施設実習	共通教養科目	1年次	必修科目
	公衆衛生学	専門科目	3年次	必修科目
	地域保健医療学実習	専門科目	6年次	必修科目
医学部 看護学科	公衆衛生学	専門科目	1年次	必修科目
	地域看護学概論	専門科目	1年次	必修科目

地域志向科目（データサイエンス学部）（2022年度以前入学者）

学部・学科	科目名	科目種別	受講可能年次	対象科目		備考
				2018年度入学者	2019年度～2022年度入学者	
データサイエンス学部	総合講義（鎌倉・金沢を知る）	共通教養科目	1～4年次	●	●	
	総合講義（横浜学事始）	共通教養科目	1～4年次	●	●	
	総合講義（環境論入門）	共通教養科目	1～4年次	●	●	
	総合講義（まちづくり学入門）	共通教養科目	1～4年次	●	●	
	総合講義（横浜と産業）	共通教養科目	1～4年次	●	●	
	総合講義（横浜から世界へ）	共通教養科目	1～4年次	●	●	
	総合講義（企業家に学ぶ）	共通教養科目	1～4年次		●	
	総合講義（科学技術の創成）	共通教養科目	1～4年次		●	
	総合講義（生命科学と環境）	共通教養科目	1～4年次	●	●	
総合講義（データサイエンス入門）	共通教養科目	1～4年次	●	●		

4. 履修のしかた（1年次で履修する科目）

(1) 卒業に必要な単位

国際教養学部	共通教養科目	38単位	計124単位
	専門科目	74単位	
	共通教養科目全学開放科目又は専門科目	12単位	
国際商学部	共通教養科目	28単位	計124単位
	専門科目	74単位	
	共通教養科目全学開放科目又は専門科目	22単位	
理学部	共通教養科目	35単位	計124単位
	専門科目	74単位	
	共通教養科目全学開放科目又は専門科目	15単位	
データサイエンス学部	全学開放科目 (共通教養科目は全学開放科目に含む)	38単位	計124単位
	専門科目	74単位	
	全学開放科目又は専門科目	12単位	
医学部医学科	共通教養科目	39単位	計201単位
	医学基礎教育科目	9単位	
	専門科目	153単位	
医学部看護学科	共通教養科目	18単位	計124単位
	専門支持科目	106単位	
	専門科目		

V 共通教養科目
履修のしかた（1年次で履修する科目）

(2) 卒業に必要な単位のうち1年次での履修を推奨する科目(2023年度以降入学生)

以下の科目は卒業に必要な単位のうち、1年次での履修を推奨する科目です。学部・学科別に整理してあります。

※進級要件・ゼミ配属条件は別途該当ページを確認してください。

国際教養学部

<ul style="list-style-type: none"> • 教養ゼミ • 基礎ゼミ • 総合講義 • Practical English • YCUリベラルアーツ入門 • 情報リテラシー 	<ul style="list-style-type: none"> • 国際文化論、人間科学論、国際社会論、都市政策・まちづくり論 • 初習外国語（教養学系を選択する学生のみ必修） • 共通教養科目のうち、選択必修となっている基礎科学講義の科目
--	--

国際商学部

<ul style="list-style-type: none"> • 教養ゼミ • 基礎ゼミ • 総合講義 • Practical English • YCUリベラルアーツ入門 • 情報リテラシー 	<ul style="list-style-type: none"> • 経営管理論 • 共通教養科目のうち、選択必修となっている基礎科学講義の科目
--	--

理学部

<ul style="list-style-type: none"> ・教養ゼミ ・基礎ゼミ ・総合講義 ・Practical English ・YCUリベラルアーツ入門 ・情報リテラシー 	<ul style="list-style-type: none"> ・リメディアル講座（基礎物理学）、リメディアル講座（基礎生物学） ・基礎物理学実験、基礎化学実験、基礎生物学実験 ・科学の倫理学 ・共通教養科目のうち、選択必修となっている基礎科学講義の科目
--	--

データサイエンス学部

<ul style="list-style-type: none"> ・教養ゼミ ・総合講義（データサイエンス入門） ・Practical English ・YCUリベラルアーツ入門 	<ul style="list-style-type: none"> ・線形代数学Ⅰ・Ⅱ ・微積分学Ⅰ・Ⅱ ・数学実習Ⅰ・Ⅱ ・数学の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー ・データサイエンス倫理 ・PBL入門 ・統計学Ⅰ
---	---	--

〈留意事項〉（国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部）

- ※進級要件、ゼミ配属条件は別途該当ページを確認してください。
- ※国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部では、学部ごとに卒業要件に算入される「総合講義」の単位数の上限が定められています。単位数の上限については、各学部専門教育の章（Ⅵ 国際教養学部における専門教育/Ⅶ 国際商学部における専門教育/Ⅷ 理学部における専門教育/Ⅸ データサイエンス学部における専門教育）を確認してください。
- ※「総合講義」の一部科目は「地域志向科目」の対象となっており、国際教養学部（教養学系）・国際商学部・理学部・データサイエンス学部生は「地域志向科目」を1科目以上、国際教養学部都市学系は「地域志向科目」を2科目以上、卒業までに修得する必要があります。「地域志向科目」の詳細については、「Ⅴ 共通教養科目＞3. 「地域志向科目」について」のページを参照してください。

医学部医学科（2023年度以降入学者対象）

前 期	必修【7科目13単位】
	<ul style="list-style-type: none"> ・YCUリベラルアーツ入門（1単位） ・教養ゼミ（3単位） ・「総合講義（医療と社会）」（2単位） ・Practical English（3単位） ・情報リテラシー（1単位） ・実践科目「福祉施設実習」（1単位） ・基礎科学講義「病気を科学する」（2単位）
	指定必修A【1科目2単位】
	<ul style="list-style-type: none"> ・Advanced Practical English（2単位）
	選択必修A【後期と併せて16単位】
	<ul style="list-style-type: none"> ・「微分と積分」「生物学概説A」「倫理学入門」「物理学概説A」（各2単位）
	選択必修B【後期と併せて6単位選択必修】
	<ul style="list-style-type: none"> ・指定必修A、B、選択必修A以外の共通教養科目
	医学基礎教育科目【後期と併せて9単位（通年科目含む）】
<ul style="list-style-type: none"> ・「化学結合と構造」（2単位） ・「教室体験演習」（通年1単位） 	

後 期	指定必修 B 【2単位】
	・「基礎物理学実験」「基礎化学実験」「基礎生物学実験」（各1単位）
	選択必修 A 【前期と併せて16単位】
	<共通教養科目> ※「Ⅷ 前提科目」に掲載されている前提科目を必ず参照すること 「行列とベクトル」「統計と確率」「物理学概説B」「化学概説B」「生物学概説B」「生物学概説C」 「課題探究科目（ヘルスデータサイエンス）」「総合講義（データサイエンス入門）」
	選択必修 B 【前期と併せて6単位選択必修】
	・指定必修A、B、選択必修A以外の共通教養科目（推奨：Advanced Practical English・初習外国語）
	医学基礎教育科目 【前期と併せて9単位】
「基礎有機化学」（2単位）、「医系のための物理学」（2単位）、「臨床心理学」（2単位）	

医学部看護学科（2023年度以降入学者対象）

<ul style="list-style-type: none"> ・教養ゼミ ・情報リテラシー ・Practical English（またはEssential Practical English+看護英語）*1 ・総合講義（前・後期で4単位選択必修。「総合講義（医療と社会）」「総合講義（データサイエンス入門）」 選択推奨） 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学入門 ・倫理学入門 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気を科学する ・YCUリベラルアーツ入門
<p>●専門支持科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護形態機能学Ⅰ ・看護形態機能学Ⅱ ・看護形態機能学演習Ⅰ ・臨床病態看護学Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護生化学 ・看護栄養学 ・看護微生物学 ・人間発達学 	<ul style="list-style-type: none"> ・対人関係論 ・公衆衛生学
<p>●専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学概論*2 ・基礎看護学方法論Ⅰ ・基礎看護学演習Ⅰ ・基礎看護学演習Ⅱ ・キャリア形成看護学実習・ベーシックⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学実習Ⅰ ・健康生活看護学概論 ・発達看護学概論 ・地域看護学概論 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護プロフェSSIONAL教育論 ・国際看護学Ⅰ
<p>*1 看護英語は2年次に履修。詳細はオリエンテーションで説明します。</p> <p>*2 基礎看護学実習Ⅰの履修要件</p>		

V 共通教養科目
履修のしかた（1年次で履修する科目）

〈留意事項〉（医学部）

※医学部看護学科では、保健師免許を受けたのちに養護教諭二種免許の取得を希望する者は、教育職員免許法で定める科目（情報機器の操作（本学科目※1及び※2）、日本国憲法（本学科目※3）、体育（本学科目※4）について所定の単位を履修する必要があります。（※1～※4の対象科目は、科目一覧表参照。）

※医学部の学生は2年次から福浦キャンパスに移りますが、学年に関わらず共通教養科目を履修することができます。

なお、基礎科学講義については前提科目が指定してあるものがあります。前提科目が指定されている科目が必修である場合、その前提科目も修得しなければなりません。その意味では、履修したい科目に応じて前提科目も必修となりますので、修得しなければならない科目の範囲や数は変わってきます。とくに、前提科目が修得できなかった場合には、その科目を前提科目として指定している科目も修得できないこととなりますので注意してください。（前提科目の詳細は「Ⅷ 科目一覧表」1. 前提科目の章を参照。）

(3) 時間割の作り方

表の上の方に必修科目、重要な科目が集中していますので、表の上から下へと時間割表へ科目をあてはめていくとよいでしょう。

前 期	YCUリベラルアーツ入門	集中前期でオンデマンドにより開講します。
	教養ゼミ	指定されたクラスに登録
	Practical English	指定されたクラスに登録 (本章「6. Guide to Practical English & Advanced Practical English」参照)
	情報リテラシー	指定されたクラスに登録
	リメディアル講座	理系のいくつかの基礎科学講義の前提科目となっています。これを修得していないといくつかの必修科目を履修することができません。ただし、一定の条件を満たしている場合には、免除申請することで修得したとみなすことができます。(本章「10. リメディアル講座について」参照)
	基礎科学講義	学部によっては必修科目として指定してあるもの、また、進級要件として1年次のうちに修得しないといけないものなどがあります。詳細については、各学部のページを参照してください。
	総合講義	主に午後が開講されています。学部によって必要単位数及び卒業要件に算入される単位数が異なりますので、各学部専門教育の章に掲載されている「卒業必要単位数一覧」を確認のうえ履修してください。 *医学部医学科では「総合講義 (医療と社会)」が前期必修です。 *履修希望者多数の場合は、履修者数を制限することがあります。詳しくはシラバス及び初回の授業でアナウンスがあります。
	実践科目	本章「5. 実践科目の概略について」を参考にガイダンスに参加してください。医学部医学科は「福祉施設実習」が必修です。
	多文化交流ゼミ	英語で行われるゼミで、英語によるプレゼンテーション、ディスカッションを行います。「Practical English」を前提科目とします。人数が多い場合には選抜を行いますので、第1回目の授業に必ず出席してください。
	初習外国語 (中国語、韓国・朝鮮語、ドイツ語、フランス語、スペイン語)	週3回、月・水・金の1・2時限目に授業があります。「Practical English」を合格した人は英語以外の外国語にも積極的にチャレンジしてください。なお、後期からもスタートできるようになっています。 <u>国際教養学部教養学系は初習外国語のうち1つの言語の「教養基礎Ⅰ」と「教養基礎Ⅱ」が選択必修になります。</u>
Advanced Practical English I, II, III, IV, V, VI, VII	「Practical English」を前提科目とします。「Practical English」のさらに上のレベルを目指します。本章「6. Guide to Practical English & Advanced Practical English」参照のこと。受講希望者は、授業開始前までに、web申請 (Forms) が必要です。	
日本語科目	留学生、帰国生向けの授業です。それ以外の学生は履修できません。	
教職関連科目	「日本国憲法」「健康スポーツ実習」「情報関連科目」は前期から履修できます。 教職専門科目は、後期から履修してください。	

後 期	基礎ゼミ	国際教養・国際商・理学部では必修です。前期中にクラス分けを行いますので、掲示に注意してください。所属クラスが決まったら、自身で指定されたクラスを履修登録します。
	DSリテラシー プログラミングA/B/C	「情報リテラシー」を前提科目とします。
	基礎科学講義	学部によっては必修科目として指定してあるもの、また、進級要件として1年次のうちに修得しないといけないものなどがあります。
	実践科目	本章「5. 実践科目の概略について」を参考にガイダンスに参加してください。集中講義の形式をとるものも多いので、あらかじめ日程を確認した方がよいでしょう。
	多文化交流ゼミ	英語で行われるゼミで、英語によるプレゼンテーション、ディスカッションを行います。「Practical English」を前提科目とします。人数が多い場合には選抜を行いますので、第1回目の授業に必ず出席してください。
	初習外国語 (中国語、韓国・朝鮮語、ドイツ語、 フランス語、スペイン語)	週3回、月・水・金の1・2時限目に授業があります。前期に「教養基礎Ⅰ」を修得した人は1時限目、はじめて履修する人は2時限目のクラスを履修します。 <u>国際教養学部教養学系は初習外国語のうち1つの言語の「教養基礎Ⅰ」と「教養基礎Ⅱ」が選択必修になります。</u>
	Advanced Practical English I, II, III, IV, V, VI, VII	「Practical English」を前提科目とします。「Practical English」のさらに上のレベルを目指します。本章「6. Guide to Practical English & Advanced Practical English」参照のこと。受講希望者は、授業開始前までに、web申請(Forms)が必要です。
	日本語科目	留学生、帰国生向けの授業です。それ以外の学生は履修できません。
	教職関連科目	教職専門科目(履修上限対象外)は後期から履修してください。
	総合講義	総合講義は後期にも開講されています。 * データサイエンス学部では「総合講義(データサイエンス入門)」が後期必修です。

V 共通教養科目
履修のしかた(1年次で履修する科目)

5. 実践科目の概略について

各実践科目の概略を次表に示します。個々の実習の詳しい内容についてはシラバスを参照してください。定員のあるものについては、定員を超過した場合には抽選を行います。

注意：実践科目は、他の一般的な科目と異なり、多くは定員制を設けています。

受講を希望する場合は、履修の必要性や学修目的を十分に考慮したうえで申込を行ってください。

定員を超えた場合には抽選となるため、受講を強く希望する学生が履修できない可能性もあります。

受講の判断に迷う場合は、事前に担当教員へ相談してください。

いずれの実習も履修登録のためにガイダンスなどを実施します。また、ガイダンスの実施等は各実習によって異なります。掲示をよく確認しておいてください。

実習名		定員	実習時期
キャリア形成実習 (キャリアデザイン)		—	前期・後期開講予定
キャリア形成実習 (プレ・インターンシップ)		40人程度	後期開講予定 ※2年次から履修できます。
キャリア形成実習 (キャリア教育プログラム)	(夏季休業期間中に実習) 集中後期科目	—	夏季休業期間中に実習 ※2年次から参加できます。履修申請は後期に行います。
	(春季休業期間中に実習) 集中前期科目		春季休業期間中に実習 ※1年次から参加できます。履修申請は次年度前期に行います。成績も次年度前期につきます。
キャリア形成実習 (インターンシップ)	(夏季休業期間中に実習) 集中後期科目	—	夏季休業期間中に実習 ※3年次から参加できます。履修申請は後期に行います。
	(春季休業期間中に実習) 集中前期科目		春季休業期間中に実習 ※3年次から参加できます。履修申請は次年度前期に行います。成績も次年度前期につきます。
キャリア形成実習 (横浜の産業と企業理解)		30人程度	集中前期 (夏休み)
福祉施設実習 (医学科生必修)		—	集中
健康スポーツ実習 (春期スポーツ種目)		平均30人	前期：週1回
健康スポーツ実習 (秋期スポーツ種目)		平均30人	後期：週1回
健康スポーツ実習 (ウエルネスライフ実習)		30人	後期
自然体験実習 (ボードセーリング)		30人 (最低5人以上で実施)	集中前期 (夏休み)：計4回
自然体験実習 (ヨット)		20人 (最低5人以上で実施)	集中前期 (夏休み)：計3回
自然体験実習 (シーカヤック)		30人 (最低15人以上で実施)	集中前期 (夏休み)：計4回
短期海外研修		—	2Q期間および夏季・春季休業期間
中期海外研修		—	2Q期間および夏季・春季休業期間
短期海外留学 (看護学)		—	2026年度休講、対象：2026年度以降入学者
中期海外留学 (看護学)		—	2026年度休講、対象：2026年度以降入学者

ア キャリア形成実習（キャリアデザイン）

社会の仕組みや関わりについてワークショップや、卒業生をはじめとした社会人の講演から学びます。学生生活の過ごし方や自身の可能性を探り、今後の人生（キャリア）について考える準備を行う科目です。

イ キャリア形成実習（プレ・インターンシップ）（定員40人程度）

インターンシップに求められる素養と力を修得する科目です。ビジネスマナーやコミュニケーションスキルといった多様な人材と協働する力を獲得します。

ウ キャリア形成実習（キャリア教育プログラム）

夏季・春季休業期間に官公庁や民間企業、国際機関等でキャリア教育プログラム（採用を目的とせず、学生の仕事理解・キャリア観の醸成を目的としたプログラム）に参加します。

キャリア支援センターでは、原則、夏季休業期間のキャリア教育プログラムは4月～5月頃より、春季休業期間のキャリア教育プログラムは10月～11月頃より募集します。

※実施・募集スケジュールが変更になる場合があります。

※キャリア教育プログラム参加方法や単位認定の手続き等詳細はインターンシップ・キャリア教育プログラムオリエンテーションで説明するほか、キャリア支援センターで配布する「インターンシップ・キャリア教育プログラムの手引き」でも説明していますので確認してください。

※夏季キャリア教育プログラムに参加する場合は当該年度の後期、春季キャリア教育プログラムに参加する場合は翌年度の前期に履修申請を行ってください。夏季は2年次以上、春季は全学年が対象です。なお、最終年次生のみ扱いが異なります。「インターンシップ・キャリア教育プログラムの手引き」を確認するか、キャリア支援センターに問い合わせてください。

※学部2年次の第2クォーター期間に、渡航を伴うキャリア教育プログラムに参加する場合は、「インターンシップ・キャリア教育プログラムの手引き」を確認するか、キャリア支援センターに問い合わせてください。

エ キャリア形成実習（インターンシップ）

夏季・春季休業期間に官公庁や民間企業、国際機関等で就業体験をします。キャリア支援センターでは、夏季休業期間のインターンシップは4月～5月頃より、春季休業期間のインターンシップは10月～11月頃より募集を予定しています。

※実施・募集スケジュールが変更になる場合があります。

※インターンシップ参加方法や単位認定の手続き等詳細はインターンシップ・キャリア教育プログラムオリエンテーションで説明するほか、キャリア支援センターで配布する「インターンシップ・キャリア教育プログラムの手引き」でも説明していますので確認してください。

※夏季インターンシップに参加する場合は当該年度の後期、春季インターンシップに参加する場合は翌年度の前期に履修申請を行ってください。3年次以上の学生が対象です。なお、最終年次生のみ扱いが異なります。「インターンシップ・キャリア教育プログラムの手引き」を確認するか、キャリア支援センターに問い合わせてください。

※インターンシップ受入先によっては、専門科目での単位認定となります。詳細については、キャリア支援センターに問い合わせてください。

オ キャリア形成実習（横浜の産業と企業理解）（定員30人程度）

日本での就職に関心を持つ外国人留学生や、外国人留学生との協働について学びたい日本人学生向けの科目です。市内企業訪問や若手社会人講演を通じて多様な就業観へ接していきます。また、市内企業を取り巻く課題を様々な背景・価値観をもった学生と共に考察し課題解決へと導くことで、多様な価値観を受容する力を養います。

※集中前期（主に夏季休業中5日間）で開講します。

※市内単位互換科目として設定されます（横浜市内にある他大学の学生も受講）。

カ 福祉施設実習（定員100人）

介護等の体験を通して福祉の意義を理解するため、夏休み期間中に1週間、横浜市内を中心とした福祉施設での実習を行います。また、後期に実習報告会を開催します。医学部医学科の学生は1年次生は必修科目です。

※医学科以外の学生は若干名受入可能。また、実習費として5,000円が必要です。支払手続きは履修申請後に履修者に個別に連絡します。

キ 健康スポーツ実習（春期スポーツ種目）

前期に開講されるスポーツ種目から1種目を選択し、1学期間にわたって週1回の授業を履修します。履修希望者は掲示を確認の上、運動のできる服装で第1週目に指定の場所に集合してください。

ク 健康スポーツ実習（秋期スポーツ種目）

後期に開講されるスポーツ種目から1種目を選択し、1学期間にわたって週1回の授業を履修します。履修希望者は掲示を確認の上、運動のできる服装で第1週目に指定の場所に集合してください。

ケ 健康スポーツ実習（ウエルネスライフ実習）（定員30人）

高齢者や身体障害者体験を通じ、バリアフリー社会の重要性を認識します。また、生活習慣病予防や転倒骨折・介護予防の知識学習を元に、適切なプログラムを作成して実践します。さらに、自己の身体づくりも同時に行っていきながら、その効果判定法なども実習します。

コ 自然体験実習（ボードセーリング）（定員30人、最低5人以上で実施）

自然体験実習は海と山に囲まれた大学近隣を学習場所とし、自然と触れ合い、自然の力を認識し、自然と共生することを学びます。ボードセーリングでは海を教材として鎌倉材木座海岸を学習場所として、9月の上旬に3日間の前期集中講義形式で実施します。実習費22,000円が必要です。

サ 自然体験実習（ヨット）（定員20人、最低5人以上で実施）

自然体験実習は海と山に囲まれた大学近隣を学習場所とし、自然と触れ合い、自然の力を認識し、自然と共生することを学びます。ヨットでは海を教材として八景島マリーナを学習場所として、8月の上旬に3日間の前期集中講義形式で実施します。実習費15,000円が必要です。

シ 自然体験実習（シーカヤック）（定員30人、最低15人以上で実施）

自然体験実習は海と山に囲まれた大学近隣を学習場所とし、自然と触れ合い、自然の力を認識し、自然と共生することを学びます。シーカヤックでは海を教材として帆船日本丸メモリアルパークを学習場所として、9月中旬の4日間に前期集中講義形式で実施します。実習費23,000円が必要です。

ス 短期海外研修／中期海外研修

YCU海外留学・研修プログラムにおける指定プログラムへの参加を対象とします。（履修可否については各プログラムの募集要項参照）認定する単位は参加プログラムの時間数と内容に基づき決定します。異文化理解や安全管理に係る指定事前教育の受講及び事後の振り返りや報告書提出等を単位認定の必須条件とします。必ず募集要項にて最新の情報をご確認ください。

セ 短期海外留学（看護学）/中期海外留学（看護学）

本科目は、「人間」「健康」「ケア」に関する普遍的課題を、国際的・学際的視点から探究することを目的とします。看護学科以外の学生も対象とし、現地で多文化社会における健康課題、人道支援、国際保健、文化的ケアの多様性を学びます。将来、医療・福祉・教育・国際協力・行政や、人の尊厳や生活・健康を支える分野に関心のある学生の視野を広げ、社会的応用力と異文化理解力を高められる科目です。登録の際は必ず募集要項やオリエンテーションで詳細をご確認ください。（2026年度休講）

6. Guide to Practical English & Advanced Practical English

(1) Practical English

1. Aims

The primary goal of Practical English is to develop in the students enrolled in the program the practical skills necessary to function effectively in English in college level liberal arts classes at Yokohama City University. All of the classes in the Practical English program are taught in English, and the students are taught to use English to learn English. All of the classes taught in the Practical English program engage the students actively in the whole process of learning. Thus, the students use the four basic skills (reading, writing, speaking, and listening) in all of the Practical English classes. The ITP-TOEFL¹, a widely used test of academic English ability, is used to measure the effectiveness of the program. Students are required to pass Practical English before they may become third year students.

2. Methodology

All Practical English classes are four skill classes. Students speak, write, read, and listen in English in all of these classes. Students are expected to actively participate in a number of different kinds of activities in class including self-study, pair work, group work, open discussion etc. Students are also expected to complete assignments, such as e-learning and book reports, outside the classroom. Classes are student centered. Teachers do not lecture in Japanese, and students are not taught to translate. The practical focus of all the classes is on using English to communicate. Test taking strategies also are covered, but this is not a major focus of the classes.

3. Receiving Credit/Grades

1. Conditions for a minimum passing grade (可 (C)):

A) Students must attend a minimum of 80% of each Practical English class.

B) Students must take the final exam for the semester for which they are to receive credit. Students must receive at least the minimum possible score on this test (310).

Students who fail on attendance (measured in the 10th week of the semester) will not be allowed to take the final exam.

C) Students who score below 500 on the final exam must turn in an application with a score report attached from an official – non home edition test – showing a minimum score of 500 on ITP-TOEFL, or 600 on TOEIC, or pre 1 level on Eiken, or 61 on iBT-TOEFL, or 5.0 on IELTS (academic module).

2. The following scores on the final exam are required in addition to the requirements in number 1 (A) and (B) above (regardless of outside test score) for the indicated grades .

秀 (SA) 520 or more

優 (A) 500 or more

Students who apply an outside test score in place of 500 or more on the final exam will receive the following grades : 450~499 – 良 (B), 310~449 – 可 (C)² .

3. Class participation (speaking tests, completion of assignments, active learning in class, quizzes, e-learning and practice tests) will be measured by teachers and may contribute to the final grade plus or minus one grade level³ .

1 TOEFL is used as the final exam in Practical English because it is recognized internationally as a reliable and valid test of academic English ability. Other tests such as TOEIC and Eiken lack this recognition.

2 A score of less than 500 on the final exam does not qualify for any of these grades unless the student has also met all the requirements from number 1 above.

3 The class participation grade will only affect students who meet the requirements to pass as outlined above. 20 points will be added to such students' final exam score if they receive a good report from their teachers. 20 points will be deducted from such students' final exam score if they receive a bad report from their teachers.

4. Schedule/Spring Semester

First Year Students :

April 1st Wednesday : ITP-TOEFL class placement test. The location of the testing classroom will be announced later. Come to the testing classroom by 9 : 30 am. You must be on time! If you arrive late, you will not be allowed to take this test! Failure to take this test will result in you being assigned to the lowest level Practical English section.

April 6th Monday : Announcement of results of placement test.

April 8th Wednesday : Announcement of Practical English sections assignments.

April 10th Friday : Practical English orientation.

April 13th Monday : Classes start.

Second Year Students :

Practical English orientation will take place in PE classes during the first week of classes.

5. Registering for Class

First Year Students :

At the beginning of the semester (see schedule above) all first year students take ITP-TOEFL. Students are divided into two levels and assigned to Practical English classes based on their scores on this test. You must register for the level and class to which you are assigned.

Students who receive a score of 500 or above on this test and students who have scored 61 or above on an official iBT-TOEFL, or 600 or above on an official TOEIC, or pre 1 or above on Eiken, or 5.0 or above on IELTS receive credit for Practical English and may apply for exemption from registering for Practical English classes. Scores from outside tests may not be more than two years old. Please send your score report from these tests to the Practical English Center by post (March 31st : deadline) to apply for exemption. Students who receive this exemption may register for Advanced Practical English, other classes taught in English, or for other language classes.

Students who take this exemption to Practical English will receive a grade at the end of the semester which is based on their ITP-TOEFL score in the placement test in April. Grades will be based on the scale given above in the Receiving Credit/Grades section. Students who do not take this test will receive the lowest possible passing grade if they apply for exemption.

Second Year Students :

Second year students are assigned to PE classes based on their ITP-TOEFL scores from the previous year. You must register for the class to which you are assigned.

6. Student Centered Learning

Students are expected to take responsibility for their own learning. Many unique opportunities for learning English are available at Yokohama City University. To meet the aims of Practical English students must take advantage of all of these opportunities. In addition to near perfect attendance of all classes, students must be active learners. They need to participate in all assignments given to them by their teachers. Students must also take advantage of the many chances to improve their English outside of the regular classrooms. Practical English Instructors assign regular homework in all classes. These assignments must be completed on time. Students are also expected to complete the independent e-learning modules available. Directions for completing the e-learning will be posted to the YCU-Board. Learning English is like swimming up a river. You can never stop swimming or you will be swept down the river. Thus, students are expected to practice their skills daily.

7. Textbooks

Required textbooks for all Practical English classes will be announced at the beginning of classes.
Make sure to purchase paper textbooks.
Ebooks are not acceptable.

8. Practical English Center

The Practical English Center exists to support the students at Yokohama City University in meeting the aims stated above. The Practical English Center provides the following services :

- Provide highly qualified and well trained instructors who care deeply about their students.
- Design and implement a very effective and efficient curriculum.
- Provide individual counseling for all students.
 - This counseling takes place in the classrooms and in the instructors' offices. The primary language of counseling is English.
 - If necessary, counseling in Japanese is also available.
- Practical English Instructors are available outside of classroom time to help students with any of their language learning needs. They gladly assist students with assignments, self-study projects, or simply talk with students who desire a chance to practice English in a relaxed atmosphere outside the classroom.
- The Practical English Center tracks student progress and reports this progress on a regular basis to the students as a motivation.

9. Practical English Center Hours

During each semester, the Practical English Center will be open from 12 : 00 to 15 : 00 from Monday through Friday. A detailed schedule of Communication Hour will be posted.

10. Attendance Policy

- Teachers will count students as absent in the following cases :
 1. If a student does not come to class, this counts as one absence.
 2. If a student arrives more than 10 minutes after the scheduled starting time of a class, this counts as one absence.
 3. If a student is late to class less than 10 minutes after the scheduled starting time three times, this counts as one absence.
 4. If a student leaves a class early :
 - a. If more than 10 minutes of class time remains, then this counts as one absence.
 - b. If less than 10 minutes of class time remains, then this counts as the equivalent of being late to class one time.
 5. If a student fails to actively participate in class, or fails to bring required texts and materials the student may be dismissed from class and marked absent.
 6. Students will be granted an excused absence only in accordance with university policy.
- Students are responsible for checking their own attendance on YCU-Board.

(2) Advanced Practical English

1. Prerequisites and Aim

The overall aim of Advanced Practical English will be to develop the ability to use English in academic settings outside of YCU. To this end, students will be encouraged to achieve 550 on ITP-TOEFL or 79-80 on iBT-TOEFL or 6.0 on IELTS or 800 on TOEIC by the completion of the course. Attaining this score, however, will not be required for passing the course, but the score on this test will be part of the final grade for these classes. There are seven Advanced Practical English classes. Each class has different specific aims and prerequisites for registering. The specific aim of the initial class, APE I is to achieve 520 on ITP-TOEFL. Only students who have passed Practical English may register for this class. This class will focus on the four basic skills in English - reading, writing, speaking, and listening. The specific aim of the following classes, APE II-IV, is to achieve 540 on ITP-TOEFL. The specific aim of the other three classes, APE V-VII, is to achieve 79-80 on iBT-TOEFL or 6.0 on IELTS or 800 on TOEIC. Only students who have passed Practical English and who have scored above 520 on ITP-TOEFL or who have passed APE I and have the permission of the director of the PE Center may register for APE II-IV. Also, only students who have passed Practical English and have scored above 540 on ITP-TOEFL may register for APE V (iBT-TOEFL) and APE VI (IELTS). Students who want to register for APE VII (TOEIC) must score above 520 on ITP-TOEFL and 700 on TOEIC or first complete APE I and score above 700 on TOEIC. APE II will focus on speaking English in academic situations. APE III will focus on writing English in academic situations. APE IV will focus on study skills for college learning such as speed reading, skimming, scanning, note taking, vocabulary development etc. APE V (iBT-TOEFL) and APE VI (IELTS) will focus on active use of academic skills such as presentation and essay writing through the use of iBT-TOEFL or IELTS materials. APE VII (TOEIC) will focus on active use of specific English skills such as presentation and business correspondence through the use of TOEIC materials.

2. Registering for Class

While registration for Advanced Practical English will not be limited to students who are planning to study abroad, students taking these classes should be prepared to seriously study English in a class with highly motivated associates. Anyone planning to study abroad will be strongly encouraged to take all of the Advanced Practical English classes.

Students may register for one additional APE class of two credits over the limit of 24 credits per semester.

3. Tests

Students in APE will be required to take ITP-TOEFL at the end of the class. Students in APE IV (Business) may take TOEIC. Students in APE V (iBT-TOEFL) or APE VI (IELTS) may take iBT-TOEFL or IELTS. And students in APE VII (TOEIC) may take TOEIC (including TOEIC speaking/writing). There will be financial assistance for students who score highly on these tests.

4. Practical English Center

Students in these classes will be able to receive full support from the Practical English Center including attending Communication Hours and using the Writing Center. See the information about the PE Center in this guide for more information.

5. Attendance Policy

The same as PE classes.

※内容の理解に自信がない場合は、気軽にPractical English Center（金沢八景キャンパス総合研究教育棟2階）へ質問に来てください。

7. 情報関連科目（2023年度以降入学者）

情報関連科目は、習熟の段階に応じて順次受講することを前提に、情報リテラシー（必修科目）とDSリテラシー（選択科目）と、プログラミングA/B/C（選択科目）が開講されています。プログラミングAはPython、BはJava、CはC言語を学ぶことができます。

情報リテラシー（1単位・必修科目）

情報リテラシーは、全学生必修の科目（1単位）ですので、全員履修してください。クラスは学部・学科別になりますが、各学部学科でも火曜日・木曜日のクラスに分かれます。さらに、国際教養学部と国際商学部は各曜日でも2クラスに分かれるので、自分がどのクラスに配属されているのかYCU-Boardの掲示をよく確認してください。

いずれのクラスでも、コンピュータや情報ネットワークの用途や動作原理などの基礎知識、情報倫理、情報セキュリティ、電子メールの作法を学んだ上で、表計算ソフトを用いた実践的な実習課題に取り組みます。さらにデータの活用を学び、学生生活に必要な基本的スキルを身に付けます。なお、情報リテラシーで学んだことを教養ゼミで実践することでその理解をさらに深めることができます。

DSリテラシー（1単位・選択科目）

この科目を履修するには情報リテラシーの単位を修得していることが前提条件となります。前期・後期に複数のクラスが開講されているので、履修可能なクラスを選択して下さい（講義内容は同じです）。

DSリテラシーは、データサイエンスの素養を身につける内容が含まれています。つまり、データの集計・分析・可視化など基礎内容を学び、統計的手法を用いたデータ解析のスキルを身に付けます。講義前半は座学と演習を中心に展開されますが、後半は実践的な実習を通してデータサイエンスの素養を身に付けます。

プログラミングA/B/C（各1単位・選択科目）

プログラミングAはPython、BはJava、CはC言語を学ぶことができますが、この科目を履修するには情報リテラシーの単位を修得していることが前提条件となります。A,B,Cを複数履修することは可能ですが、複数クラスを開講しているAとCはそれぞれ1クラスだけしか履修できません（例：AaとAbは履修できません）。

8. 「基礎ゼミ」のクラス配属について

基礎ゼミは以下のクラスの開講が予定されています。各ゼミは1つの科目として履修申請でき、またゼミの内容についてもシラバスで参照することができます。例えば、ゼミ名が「人間科学A」となっている場合、対応する科目名は「基礎ゼミ（人間科学A）」となります。この科目名でシラバスを検索すると内容の紹介を見ることができ、履修申請する場合にはこの科目名で登録します。

クラス分けなどについては、前期中に行うため、掲示に注意してください。基礎ゼミは共通教養科目ですから、他学部の基礎ゼミを履修することもできます。その場合には、ゼミの属する学部のルールに従ってください。また、他学部の基礎ゼミを修得しても2年次以降のゼミ配属（研究室配属）には影響しません。（理学部を除く。詳細については「Ⅷ 理学部における専門教育」のページを確認してください。）

学部	ゼミ名	曜日	時限	担当者
国際教養学部	基礎ゼミ（人間科学A）	木	2	江上 園子
	基礎ゼミ（人間科学B）	火	4	川瀬 和也
	基礎ゼミ（人間科学C）	木	2	角田 隆一
	基礎ゼミ（国際社会論A）	月	5	小野寺 淳
	基礎ゼミ（国際社会論B）	月	5	高橋 力也
	基礎ゼミ（国際社会論C）	木	2	坪谷 美欧子
	基礎ゼミ（国際社会論D）	水	5	山崎 和美
	基礎ゼミ（国際文化A）	火	2	大澤 遼可
	基礎ゼミ（国際文化B）	水	5	金山 泰志
	基礎ゼミ（国際文化C）	木	2	藤井 得弘
	基礎ゼミ（都市政策・まちづくりA）	木	2	青 正澄
	基礎ゼミ（都市政策・まちづくりB）	火	3	後藤 寛
	基礎ゼミ（都市政策・まちづくりC）	水	3	新垣 二郎
国際商学部	基礎から学ぶ経営分析	火	2	張 櫻馨
	経営管理と会計情報	火	2	藤崎 晴彦
	マーケティングと消費者行動	火	5	柴田 典子
	医療と経営	月	3	原 広司
	ビジネスと法	月	3	長畑 周史
	社会と法	金	3	大澤 正俊
	経済と金融	水	3	随 清遠
	貿易と世界経済	火	1	田場 弓子
	経済と財政	月	4	鞠 重鎬
市場機構の役割とその限界	火	2	虞 朝聞	
理学部	自然科学A	火	2	横山 崇
	自然科学B	火	2	東 昌市
	自然科学C	火	2	高橋 栄夫
	理数自主研究	火	2	篠崎 一英
	自然科学インフォマティクス	火	2	島崎 智実

9. 基礎物理学実験・基礎化学実験・基礎生物学実験について

この実験は、理科に関する講義と対をなすもので、実験を通しての自然科学の基礎を習得します。実際に実験してみると、わからないことが山のように出てきます。実験を行い、データを記録し、よく考え、教員やTAに尋ね、自分でもよく調べてレポートを提出するというサイクルを通じて、自然科学の真の理解に近づいていただければと思います。

この科目は1年次の後期、週に2日、午後（3・4・5時限）実施します。物理学、化学、生物学に分かれており、別々に履修申請しますが、理学部の学生は3科目全てを履修申請してください。中学校の理科教員免許状の取得にはこの3科目の履修が必須です。医学部医学科では、単位認定者を除き2科目が割り当てられます。必須ですので、間違いなく定められた2科目を履修申請してください。

後期の最初の週には、履修者全員に対して全体ガイダンス及び安全講習を行います。全体ガイダンスでは3つの実験に共通する全般的な説明を行い、履修者名簿の確認を行います。続く安全講習では、物理学、化学、生物学の各々について危険な事項や、それを回避するための注意点などについて講義します。理学部生はもとより、医学科の学生も割り振られた2科目が何であるかに関わらず、全員、全体ガイダンスと3つの安全講習すべてに必ず出席してください。

安全講義の翌週から実験が始まります。学期が3つの期間（第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ期間）に分かれており、期間ごとに同じ実験が用意されています。学生は一人ずつ、どの期間にどの実験（物理学、化学、生物学）を受講するか定められています。3限の実験開始時には、その日どのような実験をするのか説明があります。この説明を受けずに実験をすることは認められません。また実験の失敗などのために、17:40までに終わらない場合があります。アルバイト等の予定を入れる際には十分注意してください。また予備日に実験が入ることもありますので、予備日にも予定を入れないようにしてください。

レポートについては各実験担当者から指示がありますが、概ね実験の1週間後に提出となります。この科目では補講期間を原則として使いません。やむを得ない事情で欠席した場合でも、同じ実験をする機会は約束されていません。原則としてすべての実験に出席して期限内にレポートを提出することがこの科目の評価の前提となります。事情がある場合は、担当教員によく相談してください。

実験に際して、各実験テーブルにどのように着席するか指示されます。そのためには、各実験の履修者名簿が確定している必要があります。このため、他大学等ですでに同等の単位を修得し、単位認定を希望する学生は、必ず前期中に単位認定の申請をしてください。後期に入って単位認定を申請するようでは履修者名簿が確定できず、実験の大きな妨げとなります。単位認定の項目（「Ⅱ卒業までのルール」5. 単位認定）をよく参照の上、手抜きなく、該当単位（物理学、化学、生物学）全てについて単位認定申請を前期に済ませてください。

なお、大学に入学して最初の実験なので、自らよく考え、よく調べる習慣を身に付けてください。そのために、以下のことを守ってください。

- ①他人のレポートを参考にして、自分のレポートを書いてはいけない。
- ②自分のレポートを他人に譲渡してはいけない。

予定（年により少しずれる場合があります）

前期	4月	物理学、化学、生物学についての他大学既修得単位認定申請	（該当者のみ）
	6月末	実験履修希望者の提出締切	（理学部）
	7月中旬	実験履修者名簿完成	（理学部）
	9月下旬	物理学、化学、生物学のうち2科目の割当発表	（医学部）
後期	9月下旬	全体ガイダンスと受講者名簿確認、安全講習	
	9月下旬～10月下旬	第Ⅰ期間	
	10月下旬～11月初旬	浜大祭のため休講	
	11月中旬～12月初旬	第Ⅱ期間	
	12月中旬～1月中旬（年末年始を挟んで）	第Ⅲ期間	

10. リメディアル講座について

リメディアル講座は大学就学前に身に付けるべき知識を補い、大学での円滑で無理のない学修を準備するための科目です。例えば、理学部や医学部医学科の科目を履修するにあたって高等学校の物理や生物の知識が必要になりますが、必ずしも全員がこれらの科目まで学んできたとは限りません。そこで、本格的な大学の講義を聴講するに先立って、これらの科目の内容を補っておくことが必要になってきます。それがリメディアル講座の役割なのです。

現時点では理学部、医学部医学科の学生のために「リメディアル講座(基礎物理学)」「リメディアル講座(基礎生物学)」「リメディアル講座(医学科基礎物理学)」の3科目が用意されています。これらを修得していないと、物理系、生物系のいくつかの必修科目を履修することができません。(「Ⅲ 前提科目」の章を参照)

もちろん、高校で物理や生物を学んできた学生も少なくないでしょう。そういった学生は、前期の手続き期間中に所定の手続きを経てリメディアル講座の聴講を免除され、先の科目を1年次前期から履修することも可能になります。原則として申請は個人が行いますが、理学部、医学部医学科の該当する学生については、学部・学科で一括してリメディアル講座の聴講の免除申請をおこないます。いずれの場合も、詳細についてはオリエンテーションや掲示で指示されますので、それに従ってください。

11. 英語による授業の紹介

Practical Englishの合格基準TOEFL- ITP 500点は大学での学習のスタートラインです。Practical Englishの単位修得者がその力を実際の授業の中で使ってさらに発展させるために、英語による授業を開講しています(Practical English合格者のみ履修可能)。言いたい内容をいざ英語で伝えようとしたとき、なかなか思うように表現が出てこないものです。英語での日常的なやりとりを越えて、内容のある議論ができるよう、関心あるテーマの科目に積極的にチャレンジして実力を磨いてください。ここに紹介する科目は「英語を学ぶ」英語の科目ではなく「英語で学ぶ」科目です。もちろん、結果として英語の力は大いに伸びることになりますが、積極的な授業参加が大切です。自分の可能性を大きく広げてください。

【問題提起科目】

総合講義 (Education in the World) (前期開講)

学生にとって身近である教育について、共通語である英語でさまざまな国の制度などについて学びます。英語による授業の導入として、ノートの取り方、レポートの書き方などの指導のほか、グループディスカッションなどを通して発言力をつけます。

多文化交流ゼミ

ゲストスピーカーのレクチャーとディスカッションのほか、グループワークやプレゼンテーションなどを中心とした、少人数での参加型の授業です。自分の考えをことばにして伝えることからディスカッションが始まります。

前期

- 多文化交流ゼミ (Comparing Education in the World)
- 多文化交流ゼミ (Japan from Foreigner's View) a
- 多文化交流ゼミ (現代アジア・太平洋地域事情)

後期

- 多文化交流ゼミ (Global Communications)
- 多文化交流ゼミ (Japan from Foreigner's View) b
- 多文化交流ゼミ (横浜のなかにある外国人コミュニティ)

【基礎科学講義】

英語で行われる講義科目です。日本人の学生をよく知った教員が担当しますので、英語による授業の入門としても最適です。英語による授業のスタイルも学んでください。

前期

Topics in Modern Psychopathology

後期

英米文化理解A（イギリス文化の紹介）

英米文化理解B（アメリカ文化の紹介）

Introduction to Psychology

課題探究科目（Japanese Globalization Comparative Context）

課題探究科目（Risk Management）（2022年度以前入学データサイエンス学部対象）

課題探究科目（History of Modern Japan）

12. 初習外国語(中国語、韓国・朝鮮語、ドイツ語、フランス語、スペイン語)について

母語 ^{プラス} + 英語 ^{プラス} + もうひとつの外国語

—多様な世界を捉える複眼的な思考力を身に付けるために—

グローバル化がより進展する現代社会において、複数の外国語に習熟することは、言語・文化を超えて生きる力を身に付けることです。また、改めて自己の文化を認識し、相対化するとともに、異なる言語・文化・価値を持つ他者を理解し、他者の文化を尊重しつつ協働して課題解決に取り組む能力を身に付け、新しい価値を共に創造していくことにつながります。

目 的

各言語の実践的な運用能力を身に付けることを第一の目的とします。そのように編成された各語種のカリキュラムを履修することによって、それぞれの将来や社会活動で役立てることのできる言語運用能力を身に付けることを目指します。加えて、外国語の習得を通じてその言語の背景にある文化・歴史・思考に触れることで複眼的な思考力を身に付け、他者の文化を尊重しつつ協働して課題解決に取り組むことのできる能力を養うことを目指します。

各科目の到達目標

「教養基礎Ⅰ」「教養基礎Ⅱ」では、各言語の基礎的な運用能力を身に付けます。「教養実践」では、それまでに習得した基本的なことがらをさまざまな場面で実際に使えるようになることを目指します。さらに「専門外国語」では、専門領域との関連により重点を置いて、大学での研究活動や社会活動を行ううえでの高度な受信能力と発信能力を養い、また海外の大学へ留学できるレベルとなる実力を身に付けます。

履修上の注意事項

国際教養学部教養学系では初習外国語の5つの言語（中国語、韓国・朝鮮語、ドイツ語、フランス語、スペイン語）のうち1つの言語の「教養基礎Ⅰ」（3単位）と「教養基礎Ⅱ」（3単位）の計6単位が必修になります*。

※既習者については別途定めます。

- 「教養基礎Ⅰ」「教養基礎Ⅱ」「教養実践」「専門外国語」の順に、段階的に履修することを推奨します。

「教養基礎Ⅰ」については履修希望者多数の場合は抽選を行います。抽選には必ず本人が参加してください。抽選方法と日時についてはYCU-Boardに掲示します。

- 既習者などについては、担当教員の判断により飛び級を認めることがありますが、段階を遡って履修することはできません。

[例：「教養実践」を履修した場合、その後に「教養基礎Ⅱ」を履修することは不可]

自分の実力に応じた科目を履修することが望ましいため、既習者は担当教員に相談のうえ、適切なクラスを選んでください。

①既習者とは

本学入学時以前に、中学・高校や海外などにおいて既に学習歴がある者

- 「教養基礎Ⅱ」からスタートする場合

「教養基礎Ⅱ」（3単位）と「教養実践」（3単位）の計6単位を必修とする。

※「専門外国語」の単位を修得した場合は、専門科目の単位となります。詳細は「Ⅵ 国際教養学部における専門教育＞3. 卒業必要単位一覧」のページを確認してください。

履修登録までの流れ

各語種の担当教員にレベルを認定してもらう。

➡レベル認定と飛び級履修登録申請はオンラインで行います。日時と詳細については別途掲示します。

②YCU海外研修プログラムの参加者について

本学の提供するYCU海外研修プログラム（海外語学研修又は海外交換留学）で学習した者については、次のように定める。

- 教養学系の学生が「教養基礎Ⅰ」を履修したのち、「教養基礎Ⅱ」を飛ばして「教養実践」を履修する場合「教養基礎Ⅰ」（3単位）と「教養実践」（3単位）の計6単位を必修とする。

履修登録までの流れ

各語種の担当教員に、学習状況を示す書類を提出したうえで、レベルを認定してもらう。

➡レベル認定と飛び級履修登録申請はオンラインで行います。日時と詳細については別途掲示します。

※上記①、②のケース以外の履修については教育推進課教務担当に問い合わせること。

中国語

中国語は国連の公用語の一つであり、世界最大の話者人口を擁していることから、作業言語としても重要となりつつあります。そして中国は、東アジア漢字文化圏の中心として、歴史的に日本の文化や言語に多大な影響を与えてきましたが、経済成長著しい隣国、さらに巨大な市場として、今後も日本にとって重要なビジネスパートナーであり続けることでしょう。特に国際都市横浜は中国との関係が深く、日本のみならずアジア最大の中華街を有しています。本学には、横浜市と友好都市の関係にある上海市内の大学へ交換留学の制度があり、また中国からの留学生の受入れも少なくありません。中国語を学ぶうえで、日本語母語話者には漢字を共有する優位さなどはあるものの、外国語として正しく向き合い、発音の基礎から徹底して学んでいきます。同時に、外国語としての中国語の習得を通して、自国の言語や文化を改めて客観的にとらえる習慣を身に付けます。さらに、中国語の基礎的な運用能力を身に付けることによって、専門の学問分野での資料操作や情報処理に資することを目指します。

中国語科目について

「中国語教養基礎Ⅰ/Ⅱ」では、簡単な日常会話ができ、平易な文章が読めるように、基礎的なコミュニケーション能力を養成します。「中国語教養実践A/B/C」では、「話す・聞く・読む・書く」能力をブラッシュアップし、より運用能力を高めていきます。「専門外国語（中国語）」では、より高度な専門的領域にわたって、中国語の運用能力に磨きをかけます。

中国語 履修モデルと到達目標

学習時間のめやす					到達目標レベルのめやす (HSK, 中検)	
					HSK	中国語検定
225h						
202.5h					3級	3級
135h					1級～2級	準4級～4級
67.5h	教養基礎Ⅰ	教養基礎Ⅱ	教養実践A・B・C	専門外国語		
	開始学期	2学期目	3学期目	4学期目		
	上海師範大学、東海大学(台湾)等 交換留学					

語学研修と留学

公的なプログラムとして、交換留学プログラムや第2クォータープログラムがあります。夏季休暇には、上海市教育委員会からの招待プログラムが開催されることがあります。

検定試験

中国語検定試験やHSKの試験内容と対応しています。課外に学術情報センター(図書館)にある問題集・音声映像資料等を是非活用してください。

V 共通教養科目 / 初習外国語
(中国語・韓国・朝鮮語・ドイツ語・フランス語・スペイン語) について

韓国・朝鮮語

日本にとって最も近い国のことばである韓国・朝鮮語を学ぶことは、自己の再発見とともに異文化理解の糸口となり、密接な関係にある日本と隣国との関係性を見直す契機になります。朝鮮半島の風土とそこで育まれてきた民族性を理解し、現代の「韓流」文化に至った関係性を探ることで、東アジア地域の文化形成と協調関係の実現につながると考えます。また韓国・朝鮮語は文法や構文などにおいて日本語との類似性や共通性が多く、英語との比較では捉えきれない母語の発見があることで、常に好奇心を保ちながら学ぶことができます。授業では「話す・聞く・読む・書く」の4技能をバランスよく習得し、運用能力を高めることを目的とします。まず論理的なハングル文学の成り立ちを理解し、文字表記と発音を確実に習得します。同時に、文化的な情報をより多く取り入れることで、興味を持って学べる充実感のある授業を目指します。

韓国・朝鮮語科目について

「韓国・朝鮮語教養基礎Ⅰ」で文字と発音、及び基礎文法と簡単な口頭表現力を養い、「韓国・朝鮮語教養基礎Ⅱ」では語彙数を増やし、口頭表現の幅を拡げて総合的な応用能力を身に付けます。「韓国・朝鮮語教養実践A/B/C」では、ことばを学ぶだけでなく、さまざまな分野の教材から文化や社会・歴史も学びつつ、実践的運用能力を養います。「専門外国語（韓国・朝鮮語）」では視聴覚教材を中心に、韓国・朝鮮語での意思伝達がより容易にできるようになることを目指します。

韓国・朝鮮語 履修モデルと到達目標

学習時間のめやす					到達目標レベルのめやす	
225h				専門外国語	(ハングル検準2級)	TOPIK II
202.5h			教養実践 A・B・C		(ハングル検3級)	
135h		教養基礎Ⅱ			(ハングル検3, 4級)	TOPIK I
67.5h	教養基礎Ⅰ					
	開始学期	2学期目	3学期目	4学期目		
	仁川大学校、高麗大学校(世宗キャンパス)等 交換留学					

※TOPIK I, IIは、韓国政府が認定・実施する韓国語能力試験 (<http://www.kref.or.jp/examination>)

ドイツ語

ドイツ語は、ヨーロッパの主要言語であり、EU内においても重要性のきわめて高い言語です。またドイツ語を通して、哲学、文学、芸術など多くの日本の知的活動の基盤が明治以来つくられてきましたし、現代においてもドイツ語圏からの文化的影響は大きいものがあります。ドイツ語は英語と同じゲルマン系言語に属し、英語と似ている面も持っているのですが、まったく別言語としてドイツ語圏独自の文化を作り上げています。たんに類似しているとだけとらえられがちな「異なる他者」を明確に認識することも言語学習にとっては重要であり、また、自らの言語・文化を相対化することにつながっていきます。そのような複眼的思考をもって、実践的能力を身に付けられるよう、多面的、多角的アプローチによって学んでいきます。

ドイツ語科目について

「ドイツ語教養基礎Ⅰ/Ⅱ」の2学期にわたる週3回計30週の授業で、基礎的なコミュニケーション能力を身に付けます。「ドイツ語教養実践」では、「ドイツ語教養基礎Ⅱ」と同様、週3回の授業のうち2回をnative speakerが担当し、読解力、運用力を身に付けて、使えるドイツ語を目指します。「専門外国語（ドイツ語）」では、専門性のある分野についても理解し、さらに自ら意見を述べたり文章を書くなど、一層の受信能力と発信能力が身に付くようにしていき、より高いドイツ語力へとつなげていきます。

ドイツ語 履修モデルと到達目標

学習時間のめやす						到達目標レベルのめやす	
						B1	中級 Zertifikat B1 (独検 2 級程度)
225h						A2	初級 Start Deutsch A2 (独検準 2 級程度)
202.5h			教養実践		専門外国語	A1,2	入門 Start Deutsch A1 (独検 3 級相当)
135h		教養基礎Ⅱ				A1,1	
67.5h	教養基礎Ⅰ						(独検 4 級程度)
	開始学期	2 学期目	3 学期目	4 学期目			
	ウィーン大学、ゲーテ大学等 交換留学						

V 共通教養科目 / 初習外国語
(中国語・韓国語・朝鮮語・ドイツ語・フランス語・スペイン語) について

外部検定試験・資格と団体受験

ドイツ語の外部検定試験は、「独検」とゲーテ・インスティトゥートの実施する検定試験の2種類があります。独検は5級から1級まで6つの級があり、6月と12月に実施されています。ゲーテ・インスティトゥートの検定試験はヨーロッパ言語参照枠（GER）に基づく、A1～C2の6つのレベルに応じた検定試験があります。実施時期やレベルについては、担当教員から授業内で案内があります。

なお、このゲーテ・インスティトゥートが実施する検定試験については、本学を通じて申し込みをすると団体受験割引を受けることができます。

本学ではウィーン大学、ゲーテ大学等との交換留学制度もあります。ある程度の語学レベルが必要になりますので、積極的に外部の検定試験も活用し、ドイツ語レベルアップの目標にしてほしいと思います。

スペイン語

スペイン語は、スペインだけではなく中南米など世界20か国以上で公用語として使用されており、国際連合の6つの公用語のひとつでもある国際言語です。公用語としている国以外でも、例えばアメリカ合衆国では近年特に第2言語に準ずる扱いとなっていており、世界における重要性は一層増しているといえるでしょう。

また日本には、20世紀初め頃に多くの人々が中南米に移民として渡ったという歴史があります。現在、日本在住のスペイン語を第1言語とする日本人移民の子孫は数万人におよび、実は日本にとって英語、アジア系に次いで、ポルトガル語と並ぶ身近な言語でもあるのです。

確かなコミュニケーション能力を身に付けることを目標に、知識の獲得と実践的練習をバランスよく組み入れた授業で、楽しくスペイン語を学びましょう。

スペイン語科目について

「スペイン語教養基礎Ⅰ/Ⅱ」では基礎的な文法をしっかりと学び、アクティビティや実践的な会話練習を通じて、日常的な場面でのコミュニケーション能力を習得します。「スペイン語教養実践」では、発展的な文法や表現を学びながら、より幅広い場面、状況で使える実践力を身に付けます。そして「専門外国語（スペイン語）」では、更に専門領域に関連したスペイン語の運用力を得ることを目指していきます。

スペイン語 履修モデルと到達目標

学習時間のめやす						到達目標レベルのめやす (DELE・スペイン語検定)	
						DELE	スペイン語検定
225h				専門外国語	B1	4級	
202.5h			教養実践		A2	5級	
135h		教養基礎Ⅱ			A1	6級	
67.5h	教養基礎Ⅰ						
	開始学期	2学期目	3学期目	4学期目			
マドリード・コンプルテンセ大学、サンティアゴ・デ・コンポステラ大学等 交換留学							

※DELEとスペイン語検定の内容・レベルは一致するものではありません。

スペイン語を学ぶにあたっての展望

卒業論文執筆において、スペイン語圏に関するテーマを扱う際に研究の幅を広げるだけでなく、学生海外留学・研修プログラムを通じ、スペイン語圏の大学で学習/研究する可能性を広げます。また近年、中南米では、自動車産業を中心とした日系企業の進出や開発分野での日本からの経済援助や技術支援の増加に伴い、スペイン語中級程度の求人が出てきています。スペイン語を学ぶことは、スペイン語圏から世界に資する活動を行う機会へと繋がるでしょう。

本学の学生海外留学・研修プログラムとして、マドリード・コンプルテンセ大学交換留学、サンティアゴ・デ・コンポステラ大学交換留学があります。外部検定試験・資格を積極的に活用し、プログラムにチャレンジしてほしいと思います。

V 共通教養科目 / 初習外国語
(中国語・韓国語・朝鮮語・ドイツ語・フランス語・スペイン語) について

VI. 国際教養学部における専門教育

VII. 国際商学部における専門教育

VIII. 理学部における専門教育

IX. データサイエンス学部における専門教育

X. 領域横断型プログラムについて

(国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部)

VI 国際教養学部における専門教育

1. 学部の特徴

本学部は、豊かな教養と高い思考力及び高い外国語の運用能力と課題解決に向けた実践力を併せ持ち、多文化共生社会の実現や世界規模の課題及び今日の様々な都市における諸問題の解決に寄与する人材を育成します。

このため、本学部では、教養教育と専門教育の融合をベースとし、社会・文化・人間に関わる多様な学問群から、自らの関心に沿って「主体的な学び」を進め、それぞれの分野における「専門的な知見」を修得すると共に、幅広いアプローチを学ぶことで「多角的視点」に立ち、現象の本質や根本をとらえる豊かな教養と高い思考力を養います。

2. 学系紹介

(1) 教養学系

多様な言語・宗教・民族・価値観の人々が共存する地域社会や、グローバル化する国際社会の複雑な課題を発見し、解決するために有効な技能を修得します。このため、哲学・身体科学・心理学・文学・言語学・歴史学・社会学・法学・国際関係学・地域研究等の人文・社会科学を中心とする講義科目を置きます。さらに、充実した複数言語プログラムや日本文化・外国文化及び国際社会の研究に関する専門教育の科目を置きます。

(2) 都市学系

確かな思考力に基づいた、理論を実践に応用する力、他分野の知識を融合する能力、実践性の高い外国語運用能力を修得します。このため、地域科学・都市計画学・空間学に関する講義科目を置きます。

(3) 学系選択とクラスター選択について

(1) 学系選択について

各教員はどちらかの学系に所属しているので、配属されたゼミによって所属の学系が決定します（ゼミを変更し、変更前後の教員の学系が異なる場合には所属学系も変わります。所属学系が変わった際には、卒業要件も変更となりますので、注意してください）。

(2) クラスター選択について

クラスターについては、以下に示す通り、学系により自由選択もしくは必須となりますが、いずれの学系も必ず1つのクラスターの中から必要な単位数を修得する必要があります。

●教養学系

教養学系では、幅広い学問群の中から体系的に学ぶために、3つのクラスター（「国際文化」「人間科学」「国際社会」）が設けられており、学生は、その中から一つを選択し、卒業要件を満たす必要があります。ゼミによっては、履修指導としてクラスターを指定又は推奨する場合もあるので、「プレゼミA」選択の際に確認してください。

●都市学系

「都市政策とまちづくり」クラスターの選択が必須となります。

3. 卒業必要単位一覧

(1) 卒業必要単位数

〈教養学系〉

【A】	全学開放科目	共通教養科目	共通教養必修	YCUリベラルアーツ入門※1	1単位	38単位
				教養ゼミ※1	3単位	
				基礎ゼミ	2単位	
				Practical English	3単位	
				情報リテラシー※1	1単位	
				国際文化論	2単位	
				人間科学論	2単位	
				国際社会論	2単位	
				都市政策・まちづくり論	2単位	
			共通教養選択必修①	Advanced Practical English I、II、III、IV、V (TOEFL-iBT)、VI (IELTS)、VII (TOEIC) 心理学入門、文化研究入門、思想研究入門、文学研究入門、健康スポーツ科学入門、倫理学入門、歴史学入門、社会学入門、国際社会学入門、政治学入門、経営学入門I、経営学入門II、法学入門、経済学入門I、経済学入門II、民法入門、英語学入門A、英語学入門B、イギリス文学入門、アメリカ文学入門、欧米研究入門、哲学入門、社会調査法入門、芸術入門、アジア研究入門	10単位	
共通教養選択必修②	ドイツ語教養基礎 I、II、実践 フランス語教養基礎 I、II、実践 中国語教養基礎 I、II、実践A・B・C 韓国・朝鮮語教養基礎 I、II、実践A・B・C スペイン語教養基礎 I、II、実践	同一語種から 6単位				
共通教養選択必修③	総合講義（うち2単位以上を地域志向科目） ※卒業要件となるのは4科目8単位まで	4単位				
【B】	共通教養科目、全学開放科目、又は専門科目	選択	※共通教養科目は上記【A】欄、専門科目は下記【C】欄の必要単位数を超えて修得した単位について算入	12単位	12単位	
【C】	専門科目	専門必修	プレゼミA	1単位	13単位	
			演習 I、II、III	6単位		
			卒論演習 I、II、卒業論文	6単位		
		専門選択必修①	教養学系の3クラスター（科目群）から1つを選択【クラスター一覧を参照】	20単位		
		専門選択必修②	プレゼミB	3単位	23単位	
			地域調査実習			
			海外調査実習			
海外文化実習						
専門外国語A						
専門外国語B						
アジア諸言語 I						
アジア諸言語 II						
副演習（プレゼミA、演習 I、II、III）						
選択		38単位	38単位			
※【A】【B】合算して50単位を超えて修得した単位については、卒業単位数に算入されません。					合計	124単位

※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

〈都市学系〉

【A】	全学開放科目	共通教養科目	共通教養必修	YCUリベラルアーツ入門※1	1単位	38単位
				教養ゼミ※1	3単位	
				基礎ゼミ	2単位	
				Practical English	3単位	
				情報リテラシー※1	1単位	
				国際文化論	2単位	
				人間科学論	2単位	
				国際社会論	2単位	
				都市政策・まちづくり論	2単位	
			共通教養選択必修①	Advanced Practical English I、II、III、IV、V (TOEFL-iBT)、VI (IELTS)、VII (TOEIC) 心理学入門、文化研究入門、思想研究入門、文学研究入門、健康スポーツ科学入門、倫理学入門、歴史学入門、社会学入門、国際社会学入門、政治学入門、経営学入門I、経営学入門II、法学入門、経済学入門I、経済学入門II、民法入門、英語学入門A、英語学入門B、イギリス文学入門、アメリカ文学入門、欧米研究入門、哲学入門、社会調査法入門、芸術入門、アジア研究入門	10単位	
共通教養選択必修②	総合講義（うち4単位以上を地域志向科目） ※卒業要件となるのは6科目12単位まで	10単位				
【B】	共通教養科目、全学開放科目、又は専門科目	選択	※共通教養科目は上記【A】欄、専門科目は下記【C】欄の必要単位数を超えて修得した単位について算入	12単位	12単位	
【C】	専門科目	専門必修	プレゼミA	1単位	25単位	
			演習I、II、III	6単位		
			卒論演習I、II、卒業論文	6単位		
			都市課題実習I、II	12単位		
		専門選択必修①	都市学系のクラスター（科目群） 【クラスター一覧を参照】	38単位	40単位	
		専門選択必修②	海外都市課題実習	2単位		
地域課題実習						
選択	インターンシップ実習 ※国際教養学部の専門科目	9単位	9単位			
※【A】【B】合算して50単位を超えて修得した単位については、卒業単位数に算入されません。					合計	124単位

※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

(2) A・B・Cの各区分を超えて修得した単位の卒業時の取扱いについて

【A】 共通教養科目（教養学系）

- (1) 共通教養選択必修①で10単位を超えて修得した単位 → 【B】 12単位へ算入
 - (2) 共通教養選択必修②で6単位を超えて修得した単位 → 【B】 12単位へ算入
 - (3) 共通教養選択必修③で4単位を超えて修得した単位 → 【B】 12単位へ算入
- ※卒業要件となる総合講義は4科目8単位まで

【A】 共通教養科目（都市学系）

- (1) 共通教養選択必修①で10単位を超えて修得した単位 → 【B】 12単位へ算入
 - (2) 共通教養選択必修②で10単位を超えて修得した単位 → 【B】 12単位へ算入
- ※卒業要件となる総合講義は6科目12単位まで

【B】 共通教養科目、全学開放科目、又は専門科目

- ・12単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位にはなりません。

【C】 専門科目（教養学系）

- (1) 専門選択必修①
 - ・選択したクラスターで20単位を超えて修得した単位 → 【C】 選択38単位へ算入
 - ・選択したクラスター以外のクラスターで修得した単位 → 【C】 選択38単位へ算入
 - ・専門科目（クラスター以外）で修得した単位 → 【C】 選択38単位へ算入
- (2) 専門選択必修②
 - ・3単位を超えて修得した単位 → 【C】 38単位へ算入
 - ※4単位分の科目を修得した場合は、うち1単位が【C】 38単位へ算入
- (3) 選択科目で38単位を超えて修得した単位 → 【B】 12単位へ算入

【C】 専門科目（都市学系）

- (1) 専門選択必修①
 - ・「都市政策とまちづくりクラスター」で38単位を超えて修得した単位 → 【C】 選択9単位へ算入
 - ・「都市政策とまちづくりクラスター」以外のクラスターで修得した単位 → 【C】 選択9単位へ算入
 - ・専門科目（クラスター以外）で修得した単位 → 【C】 選択9単位へ算入
- (2) 専門選択必修②
 - ・2単位を超えて修得した単位 → 【C】 9単位へ算入
- (3) 選択科目で9単位を超えて修得した単位 → 【B】 12単位へ算入

(3) クラスターについて

国際教養学部の卒業要件にかかるクラスターについては下記の通りとなります。

●国際文化クラスター

文学・言語学・歴史学を中心に日本と世界の文化を幅広く学ぶ科目群です。

●人間科学クラスター

哲学・身体科学・心理学など、人間に関する理論や研究方法を学ぶ科目群です。

●国際社会クラスター

社会学・国際関係学・地域研究など、国際社会について多様な視点から学ぶ科目群です。

●都市政策とまちづくりクラスター

総合的な視点から都市政策・まちづくりを学び、課題発見・解決能力を身に付けるための科目群です。

(4) クラスター一覧

国際教養学部では、専門性を確立するため、教養学系に3クラスター(科目群)、都市学系に1クラスター(科目群)を設けています。これらのクラスターから1つ選び、その科目群の中から必要な単位を修得してください。

<教養学系>

国際文化、人間科学、国際社会の3つのクラスター(科目群)の中から、専攻するクラスターを1つ選び、その科目群の中から20単位以上修得してください。

※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

教養学系	国際文化	日本文化史A	ドイツ文化論A	第二言語習得論	日本語文学
		中国文化論A	ドイツ文化論B	イスラーム地域史A	日本近現代史A
		中国文化論B	言語学	イスラーム地域史B	東アジア史A
		東南アジア史	音声学	アメリカ文化論	東アジア史B
		アメリカ文学A	イギリス文学A	欧米の歴史	中東社会・文化論
		アメリカ文学B	イギリス文学B	歴史学	アメリカ史
		イギリス文化論	フランス文化論	日本近代文化論	演劇文化論
		フランス語文学	Linguistics(Discourse Studies)	日本近代文学	ヨーロッパ史
	人間科学	哲学的人間論A	文化人類学	運動生理学	メディア社会論
		哲学的人間論B	心理学研究法	オルタナティブ教育論	社会理論
		現代倫理学	身体運動科学	インクルージョン論	家族社会学
		臨床心理学A	現代教育論	体育学研究法	ジェンダー論
		臨床心理学B	社会福祉論	世界の福祉	コミュニケーション論
		臨床心理学C	宗教論	現代社会論	社会言語論A
		発達心理学	東洋思想	社会学	社会言語論B
		現代思想	認知心理学		
	国際社会	社会学	東南アジア研究	平和構築論	国際機構論
		エスニシティ論	国際移住論A	文化社会学A	ヨーロッパ統合論
		アジア地域論	国際移住論B	文化社会学B	アフリカ社会論
		国際協力論	海洋法	韓国朝鮮研究	Japan and International Cooperation
		国際開発学	多文化社会論	地域開発論	国際人権法
		グローバル政治論	中国研究	国際経済社会論	中東社会・文化論
		国際法 I	社会開発論	日本外交論	地球環境政策論
		国際法 II	グローバル公共政策論	国際関係論	

VI 国際教養学部における専門教育
卒業必要単位一覧

<都市学系>

都市政策とまちづくりクラスター(科目群)の中から38単位以上修得してください。

都市学系	都市政策とまちづくり	社会福祉論	都市と暮らし	参加・協働論	都市経済学
		国際開発学	比較社会システム論	都市財政論	港湾都市論
		海洋法	行政法 I	資源循環論	環境まちづくり論
		多文化社会論	住環境計画論	都市防災計画論	文化政策論
		市民社会論	地球環境政策論	不動産マネジメント論	地域保健医療福祉論
		農村振興論	地方自治論	非営利組織論	労働経済学
		都市計画論	都市空間形成論	観光政策論	環境経済学
		都市解析	地域CSR論	比較地方自治	日本の都市計画と都市開発
		地域活性化論	都市デザイン論	横浜の都市づくり	都市環境政策論

4. 「演習（ゼミ）」について

(1) ゼミ配属について

国際教養学部では、2年次に進級するタイミングで「プレゼミA」への配属を行います。

また、その後も基本的には配属された「プレゼミA」の担当教員が開講する「プレゼミB」（選択必修科目）、「演習Ⅰ～Ⅲ」及び「卒論演習Ⅰ～Ⅱ」に継続して配属されることになります。ただし、当初配属されたゼミの担当教員が、休職、退職、その他やむを得ない事情により指導を継続できない場合は、学生の個々の事情を考慮し、他の教員のゼミへ所属を変更することがあります。

(2) ゼミ変更について

変更希望先のゼミの定員に空きがある場合は、所定の手続を行った上で「演習Ⅰ」以降のゼミを変更することができます。詳細は、「Ⅱ 卒業までのルール」⇒「12. ゼミ・研究室変更について」をご確認ください。

(3) 演習科目の履修順序について

演習を履修する順序は、数字の小さい順（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの順）で履修する段階履修を原則とします。ただし、休学等により履修する順序の変更を希望する場合は、事前に指導教員の許可を得られ、かつ、教授会で審議、許可された場合に限り、演習の順序の入れ替えが可能となる場合があります。

5. 「プレゼミA」（必修科目）の配属方法について

(1) 「プレゼミA」に配属されるためには、下記の4科目のうち2科目を1年次に修得しなければなりません。

配属条件科目：人間科学論、国際文化論、国際社会論、都市政策・まちづくり論

(2) 配属条件を満たせなかった等の理由で、「プレゼミA」に配属されなかった場合は、演習の履修が1年遅れるため、4年間での卒業ができなくなりますので、ご注意ください。

※「プレゼミA」未配属学生のゼミ配属は、次年度の「プレゼミA」配属時期と併せて行います。

※2年次以降は原則としてゼミの担当教員が「担任」となりますが、ゼミに配属されなかった場合は、学部の指定する教員が「担任」となります。

(3) 「プレゼミA」の配属は、「ゼミ配属希望申請」の提出（申請時期は12月頃を予定）を以って行います。（定員の上限を超えたゼミは選抜が行われます。）

11月頃に説明会の実施案内やゼミ配属に関する資料等を配布する予定ですので、各自で確認の上、必ず参加してください。説明会の日程は、別途YCU-Boardでお知らせします。

6. 副演習について

自身が、演習（ゼミ）で分析対象としているテーマを別の視点から考えたり、異なる分析方法を利用したりすることが、学修・研究上、有意義な場合があります。そのため、国際教養学部では、履修しているゼミに加え、そのゼミ以外のゼミ（国際教養学部の教員が担当するゼミ。所属学系以外でも可。）を履修することができる「副演習」制度が用意されています。なお、学系を超えての副演習については取得単位について注意点があります。ゼミ配属時に説明されますので、希望する際には留意してください。

履修登録の方法は、別途YCU-Boardでお知らせします。

7. 教員免許状の取得について

国際教養学部で、中学校一種免許（英語）及び高等学校一種免許（英語）を取得するには、国際英語プログラムの修了が必須となっています。国際英語プログラムを修了するには、英語サブクラスター及び英語拡張サブクラスターに指定された科目のうち40単位以上を修得することが必要です。（本章「11. 国際教養学部「国

際英語プログラム」のページ参照)

- 英語サブクラスター (30単位以上)
国際教養学部において、英語を学修するために特に必要な科目群です。
- 英語拡張サブクラスター (10単位以上)
国際教養学部において、英語を学修するために必要な周辺分野科目群です。

8. 卒業論文について

(1) 卒論ゼミの単位について

卒論ゼミの単位は、「卒論演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」の計6単位です。

なお、「卒業論文」が不合格の場合は「卒論演習Ⅱ」の単位は与えられません。

ただし、卒論ゼミの単位は修得したが、その他の卒業必要単位数を満たすことができず、卒業判定で不合格となった場合においては、卒論ゼミの単位が取り消されることはありません。

(2) 卒業論文の提出について

卒業論文の提出にあたっては、以下の要領に従ってください。提出日時は厳守してください。

提出日時 (予定・別途掲示)	令和8年12月21日(月)9時00分00秒から 22日(火)15時00分00秒まで
提出方法	提出媒体：データ提出 提出場所：YCU-Boardからオンライン提出
提出物	卒業論文・要旨
！！卒業論文を提出するにあたって、以下のルールを必ず守ってください！！	
1. 提出日時は、日本標準時 (UTC+9) とし、YCU-Boardの時刻を基準とします。 2. 通信環境や機器 (パソコン・プリンタ) の故障、USBやCDのデータ破損、ファイルの消失等を理由とする提出遅延は一切認められません。 3. 履修ガイドで定める「授業の欠席について」の理由のうち <u>下記に該当</u> して卒業論文を提出できなかった場合のみ、後日提出を認めます。 (1) 親族の危篤・死亡 (2親等以内) (2) 天災、自宅の火災 (3) 学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症 (例：インフルエンザ、麻疹、おたふくかぜ、新型コロナウイルス感染症等) を発症した場合。(ただし、病状により医師において感染のおそれがないと認めたときを除く。) (4) その他、学部長が認めた場合	

上記については変更となる可能性があります。必ずYCU-Boardで確認してください。
卒業論文の形式などについては、指導教員に確認してください。

(3) 卒業論文の審査基準について

大学ホームページに掲載されています。

【大学ホームページ】 <https://www.yokohama-cu.ac.jp/academics/tt534t000000316t-att/kokusaikyoyougakubu.pdf>



9. 大学院科目の早期履修制度

国際教養学部では、3年次が修了した時点で資格基準を満たし、優秀な学生として選抜された場合、大学院都市社会文化研究科の開講科目を履修することが可能です。また、都市社会文化研究科へ進学した場合、この制度で修得した科目の単位認定が可能です。

詳細については、履修前年度の12月下旬頃にYCU-Boardでお知らせします。

(1) 資格基準

在学期間と3年次後期までの成績について、以下の①および②を満たしている者を大学院科目早期履修資格者とします。

① 以下の(ア)(イ)の要件を満たし、学士号取得のために必要な単位数の残りが20単位以下の者。

(ア) 申請する学期の終了時点で、休学期間を除き、在学期間が3年以下であること。ただし、学則で定める「留学」身分により海外へ留学している場合は4年以下とします。

(イ) 休学期間を除き、在学期間1年満了時までに「教養ゼミ」または「基礎ゼミ」の単位を修得し、かつ、入学年度に関わらず在学期間2年満了時までに「Practical English」の単位を修得していること。

② 次の(ア)または(イ)のいずれかの要件を満たす者。

(ア) 卒業に必要な単位のうち、3年次後期までの学業成績について、「秀」または「優」の取得単位数が52単位以上の者。

(イ) 卒業に必要な単位のうち、3年次後期までの専門教養科目の学業成績について、「秀」または「優」の取得単位数が30単位以上の者。

(2) 早期履修者の選抜

大学院科目早期履修資格者のうち、申請期限までに所定の申請書を研究科に提出した者から、研究科は書類審査によって早期履修者を若干名選抜します。

(3) 大学院科目の履修

選抜された早期履修者は、研究科で開講される「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「総合研究科目」「特講科目」のうち14単位までを早期履修許可期間に履修することができます（研究科の履修者がいなかった場合、休講となる場合がある）。また、学部・研究科の合併科目については、学部科目、研究科科目として履修する場合、履修する年度を分けて受講する場合に限り可能とします。ただし、研究科科目として学部在籍時に履修する場合、下記(5)の単位認定を行うことはできません。

(4) 研究科への進学

早期履修者は、学内推薦入試、第1期入試、第2期入試に応募し、それに合格することによって研究科に進学することができます。それぞれの入試における早期履修者の選考は、研究計画書などの書類審査と口述試験によります。

(5) 学部4年次に修得した研究科科目の単位認定

早期履修者が学部4年次に修得した研究科の授業科目は、その者が研究科に進学した場合に限り、14単位までの範囲で研究科の修了要件の単位数として認定することができます。

10. 履修モデル（一例）

(1) 国際文化クラスター

	1前	1後	2前1Q	2前2Q	2後	3前	3後	4前	4後	
全学開放科目	1 YCUリベラルアーツ入門	2 基礎ゼミ								
	3 教養ゼミ	3 中国語教養基礎I		3 北京師範大学漢語文化学院	3 中国語教養実践					
	3 Practical English	2 国際社会論								
	1 情報リテラシー	2 都市政策・まちづくり論								
	2 国際文化論	2 総合講義(鎌倉・金沢を知る)								
	2 人間科学論	2 アジア研究入門								
	2 総合講義(多文化社会を考える)	2 歴史学入門								
	2 総合講義(横浜学事始)	2 世界史概説								
	2 倫理学入門	2 文化研究入門								
	2 文学研究入門									
2 社会学入門										
2 日本史概説										
専門科目			1 プレゼミア		2 演習I	2 演習II	2 演習III	2 卒論演習I	2 卒論演習II	
		<国際文化>	2 日本文化史A		1 言語学	2 中国文化論B	2 歴史学			2 卒論論文
			2 中国文化論A		1 音声学	2 日本近代文学	2 Linguistics (Discourse Studies)			
			2 東南アジア史		2 日本語文学	2 アメリカ文学B	2 イスラム地域史B			
			2 アメリカ文学A		2 イスラム地域史A	2 ドイツ文化論A	2 日本近代文化論			
			2 イギリス文化論		2 アメリカ文化論	2 フランス文化論				
			2 フランス語文学		2 欧米の歴史	2 東アジア史A				
					2 日本近現代史A	2 ヨーロッパ史				
			2 エスニシティ論		2 表象文化論	2 専門外国語A(中国語)	2 専門外国語B(中国語)			
					2 日本古典文化論	2 アジア諸言語I(タイ語)	2 アジア諸言語II(タイ語)			
sem単位	24	19	15	3	23	20	14	2	4	124

VI 国際教養学部における専門教育
履修モデル(一例)

(2) 人間科学クラスター

	1前	1後	2前1Q	2前2Q	2後	3前	3後	4前	4後	
全学開放科目	1 YCUリベラルアーツ入門	2 基礎ゼミ								
	3 教養ゼミ	3 ドイツ語教養基礎I	3 ドイツ語教養基礎II							
	3 Practical English	2 国際社会論			3 ドイツ語教養実践					
	1 情報リテラシー	2 都市政策・まちづくり論			2 Advanced Practical English II					
	2 国際文化論	2 総合講義(鎌倉・金沢を知る)								
	2 人間科学論	2 健康スポーツ科学入門								
	2 総合講義(多文化社会を考える)	2 文化研究入門								
	2 総合講義(現代社会とジェンダー)	2 社会調査法入門								
	2 総合講義(Education in the World)	2 倫理学入門								
	2 社会学入門									
2 心理学入門										
2 哲学入門										
専門科目			1 プレゼミア	1 プレゼミB	2 演習I	2 演習II	2 演習III	2 卒論演習I	2 卒論演習II	
		<人間科学>	2 哲学的人間論A	2 哲学的人間論B	2 現代思想	2 臨床心理学B	2 臨床心理学C			2 卒論論文
			2 現代倫理学	2 社会理論	2 心理学研究法	2 発達心理学	2 インクルージョン論			
			2 臨床心理学A		2 体育学研究法	2 社会福祉論	2 世界の福祉			
			2 現代社会論		2 文化人類学	2 運動生理学				
			2 認知心理学		2 現代教育論	2 家族社会学				
					2 コミュニケーション論	2 社会言語学A				
					2 ジェンダー論	2 カルティエ教育論				
				2 日本文化史B		2 社会心理学	2 高齢社会論			
				2 東南アジア研究		2 専門外国語A(ドイツ語)	2 専門外国語B(ドイツ語)			
sem単位	24	19	14	9	21	20	12	2	4	125

(3) 国際社会クラスター

	1前	1後	2前1Q	2前2Q	2後	3前	3後	4前	4後	
全学開放科目	1 YCUリベラルアーツ入門	2 基礎ゼミ								
	3 教養ゼミ	3 フランス語教養基礎I			3 フランス語教養基礎II	3 フランス語教養実践				
	3 Practical English	2 国際社会論			2 Advanced Practical English II					
	1 情報リテラシー	2 都市政策・まちづくり論								
	2 国際文化論	2 総合講義(連携特別講座「国際協力の実践と課題」)								
	2 人間科学論	2 Advanced Practical English I								
	2 総合講義(横浜学事始)	2 国際社会学入門								
	2 社会学入門	2 欧米研究入門								
	2 法学入門	2 政治学入門								
	2 日本国憲法	2 多文化交流ゼミ								
専門科目			1 プレゼミア		2 演習I	2 演習II	2 演習III	2 卒論演習I	2 卒論演習II	
		<国際社会>	2 国際協力論		2 多文化社会論	2 文化社会学A	2 ヨーロッパ統合論		2 卒論論文	
			2 グローバル政治論		2 社会開発論	2 国際機構論	2 Japan and International Cooperation			
			2 国際法I		2 グローバル公共政策論	2 地域開発論	2 アフリカ社会論			
			2 エスニシティ論		2 国際法II	2 日本外交論	2 国際人権法			
					2 平和構築論	2 韓国朝鮮研究				
			2 東南アジア史	2 特講(国際教養学部留学科目A)	2 ヨーロッパ社会論	2 ジェンダー論	2 専門外国語A(フランス語)			
			2 哲学的人間論A	2 特講(国際教養学部留学科目B)	2 南アジア研究	2 国際経済社会論	4 海外調査実習			
			2 日本文化史A	2 特講(国際教養学部留学科目C)						
	sem単位	20	21	15	6	21	19	16	2	4

(4) 都市政策とまちづくりクラスター

	1前	1後	2前1Q	2前2Q	2後	3前	3後	4前	4後	
全学開放科目	1 YCUリベラルアーツ入門	2 基礎ゼミ								
	3 教養ゼミ	2 国際社会論								
	3 Practical English	2 都市政策・まちづくり論								
	1 情報リテラシー	2 総合講義(連携特別講座「国際協力の実践と課題」)								
	2 国際文化論	2 総合講義(環境論入門)								
	2 人間科学論	2 文化研究入門								
	2 総合講義(まちづくり学入門)	2 社会調査法入門								
	2 総合講義(国際関係論)	2 倫理学入門								
	2 社会学入門	2 総合講義(データサイエンス入門)								
	2 法学入門									
専門科目			1 プレゼミア	1 プレゼミB	2 演習I	2 演習II	2 演習III	2 卒論演習I	2 卒論演習II	
		<都市政策とまちづくり>	2 都市計画論	2 都市デザイン論	6 都市課題実習I	6 都市課題実習II	2 海外都市課題実習		2 卒論論文	
			2 都市解析		2 参加・協働論	2 都市空間形成論	2 環境経済学			
			2 都市と暮らし		2 都市財政論	2 環境まちづくり論	2 都市経済学			
			2 地方自治論		2 資源循環論	2 文化政策論	2 日本の都市計画と都市開発			
			2 行政法I		2 都市防災計画論	2 地球保健医療福祉論	2 資源循環論			
					2 不動産マネジメント論	2 地球環境政策論	2 非営利組織論			
					2 比較地方自治	2 地域CSR論				
					2 観光政策論					
					2 横浜の都市づくり					
sem単位	20	18	11	7	24	22	16	2	4	124

※下線を付した科目は必修科目です。

※太枠で囲んである部分はクラスター科目です。

※開講期については変更になる可能性がありますので、当該年度の時間割表等を確認してください。

※このモデルはあくまで履修の進め方の一例です。「3. 卒業必要単位一覧」を基に、必ずご自身で卒業までの計画を立てて、履修してください。

※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

11. 国際教養学部「国際英語プログラム」(※英語教員免許取得予定者は修了必須)

(1) 背景・目的

英語及び英語関連科目の学修を通して、高い思考力及び高い外国語の運用能力と課題解決に向けた実践力を持つ人材を育成することを目的とし、本プログラムを設置しました。

(2) プログラム修了までの流れ

①参加について

- (1) プログラムに参加するにあたり、参加申請を行う。参加申請と修了申請を同時に行うことはできませんので、必ず事前に参加申請を行って下さい。
- (2) 申請後、プログラムの修了に必要な要件を満たすよう学修する。
- (3) プログラムの修了に必要な要件を満たしたら(必要単位数の修得等)、修了申請を行う。

②必要単位数の修得

申請後、プログラムの修了に必要な要件を満たすよう学修してください。

【必要単位数(教員免許の取得予定がない者)】

「英語サブクラスター」及び「英語拡張サブクラスター」から40単位以上

【必要単位数(教員免許の取得を予定する者)】

「英語サブクラスター」から30単位、「英語拡張サブクラスター」から10単位

【サブクラスターについて】

国際教養学部では、英語学・英文学に関する科目を学習するために特に必要な科目群を「英語サブクラスター」に指定しています。「英語サブクラスター」は、別表1の科目群のことを指します。

また、プログラムのコアとなる英語サブクラスター周辺分野を学修するために必要な科目群を「英語拡張サブクラスター」に指定しています。「英語拡張サブクラスター」は、別表2の科目群のことを指します。

③修了について

修了要件を満たした学生は、YCU-Boardの掲示を確認の上、修了申請を行ってください。修了要件を満たしていることが確認された学生に対しては、「国際英語プログラム修了証」を発行します。また、学籍簿への記録を行います。

(3) 教員免許状との関連について

国際教養学部では、中学校一種免許(英語)及び高等学校一種免許(英語)の教員免許を取得することが可能です。教員免許状取得を希望する学生は、本プログラムの修了を必須とします。また、教員免許の取得を希望している場合の単位修得方法は、教員免許を取得しない場合の単位修得方法と異なりますので、(2)(2)の必要単位数を確認してください。

必要単位数を満たさない場合、本プログラムの修了はできませんので、十分に注意してください。なお、教員免許状の取得にあたっては、別途必要な科目や申請がありますので、必ず「XI 教員免許状の取得」の章も参照してください。

なお、高等学校一種免許(英語)の教員免許状取得を希望している場合は、より高度な専門知識の習得に必要な科目及び英語での専門科目の履修を推奨します。別表1に★が付記されている科目が対象科目です。

(4) 「英語サブクラスター」科目一覧（別表1）

科目種別	科目名	単位数	受講可能年次	クラスター	教職マーク	備考
全学開放科目	Advanced Practical English I	2単位	1～4年次	—	Q2	
	Advanced Practical English II	2単位	1～4年次	—	Q2	教員免許取得者はAdvanced Practical English II～VI いずれか2単位必修
	Advanced Practical English III	2単位	1～4年次	—	Q2	
	Advanced Practical English IV	2単位	1～4年次	—	Q2	
	英語学入門A	2単位	1～4年次	—	Q1	教員免許取得者必修
	英語学入門B	2単位	1～4年次	—	Q1	
	English Grammar for Higher Education	2単位	1～4年次	—	Q1	
専門科目	アメリカ社会論	2単位	2～4年次	—	R2	
	Global Issues	2単位	2～4年次	—	Q2	
	アメリカ文学A	2単位	2～4年次	文	R1	教員免許取得者は いずれか2単位必修
	イギリス文学A	2単位	2～4年次	文	R1	
	アメリカ文学B	2単位	2～4年次	文	R1	
	イギリス文学B	2単位	2～4年次	文	R1	
	アメリカ文化論	2単位	2～4年次	文	R2	教員免許取得者は いずれか2単位必修
	イギリス文化論	2単位	2～4年次	文	R2	
	言語学a	1単位	2～4年次	文	Q1	
	言語学b	1単位	2～4年次	文	Q1	
	音声学a	1単位	2～4年次	文	Q1	
	音声学b	1単位	2～4年次	文	Q1	
	アングロ・アメリカ文芸批評論	2単位	2～4年次	—	R1	
	Linguistics (Discourse Studies)	2単位	2～4年次	文	Q1	
	第二言語習得論	2単位	2～4年次	文	Q1	
	表象文化論	2単位	2～4年次	—	R1	
	British Literature in English	★ 2単位	2～4年次	—	R1	
	コミュニケーション論	2単位	2～4年次	人	R2	教員免許取得者必修
	アメリカ史	2単位	2～4年次	文	R2	
	American Literature in English	★ 2単位	2～4年次	—	R1	
	Explication of American Literary Text A	2単位	2～4年次	—	R1	
	Explication of American Literary Text B	2単位	2～4年次	—	R1	
	英米言語文化A	2単位	2～4年次	—	Q1	
	英米言語文化B	2単位	2～4年次	—	Q1	
	翻訳文化論A	2単位	2～4年次	—	R1	
	翻訳文化論B	2単位	2～4年次	—	R1	
	英文学史	2単位	2～4年次	—	R1	
	英米文学講読	2単位	2～4年次	—	R1	
	演劇文化論	2単位	2～4年次	文	R1	
	社会言語論A	★ 2単位	2～4年次	人	R2	
	社会言語論B	2単位	2～4年次	人	R2	
	理論言語学	★ 2単位	2～4年次	—	Q1	
	英語学	★ 2単位	2～4年次	—	Q1	
Elements of Fiction	2単位	2～4年次	—	R1		
European Culture in English	2単位	2～4年次	—	R2		
英語構文研究	★ 2単位	2～4年次	—	Q1		
メディア英語	2単位	2～4年次	—	Q2		
海外文化実習	4単位	2～4年次	—	R2		

※表のクラスター項目は、本章「3. 卒業必要単位一覧」(4)クラスター一覧」ページのクラスター科目群に該当する科目を示しています。
 それぞれ、国際文化クラスター＝文、人間科学クラスター＝人、国際社会クラスター＝社、都市政策とまちづくりクラスター＝都。
 ※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

VI 国際教養学部における専門教育
 「国際英語プログラム」

(5) 「英語拡張サブクラスター」科目一覧 (別表2)

科目種別	科目名	単位数	受講可能年次	クラスター	教職マーク	備考
全学開放科目	Advanced Practical English V (TOEFL-iBT)	2単位	1～4年次	—	Q2	教員免許取得者はAdvanced Practical English II～VI いずれか2単位必修
	Advanced Practical English VI (IELTS)	2単位	1～4年次	—	Q2	
	Advanced Practical English VII (TOEIC)	2単位	1～4年次	—		
	多文化交流ゼミ (現代アジア・太平洋地域事情)	2単位	1～4年次	—		
	多文化交流ゼミ (横浜のなかにある外国人コミュニティー)	2単位	1～4年次	—		
	多文化交流ゼミ (外国人の日本研究)	2単位	1～4年次	—		
	多文化交流ゼミ (世界で報道される日本)	2単位	1～4年次	—		
	多文化交流ゼミ (Comparing Education in the world)	2単位	1～4年次	—		
	多文化交流ゼミ (Japan from Foreigner's View)	2単位	1～4年次	—		
	多文化交流ゼミ (Global Communications)	2単位	1～4年次	—		
	英米文化理解A	2単位	1～4年次	—		
	英米文化理解B	2単位	1～4年次	—		
	イギリス文学入門	2単位	1～4年次	—		
	アメリカ文学入門	2単位	1～4年次	—		
	長期海外研修	2単位	1～4年次	—		
	短期海外研修	1単位	1～4年次	—		
	Global Business Administration	2単位	2～4年次	—		
	Global Business Strategy	2単位	2～4年次	—		
	Global Organization Theory	2単位	2～4年次	—		
	Japanese Industry	2単位	2～4年次	—		
	Japanese Economy	2単位	2～4年次	—		
	Global Leadership	2単位	2～4年次	—		
	Global Service Management	2単位	2～4年次	—		
	Global Human Resource Development	2単位	2～4年次	—		
	Introductory Accounting I	2単位	2～4年次	—		
	Introductory Accounting II	2単位	2～4年次	—		
	Intermediate Accounting	2単位	2～4年次	—		
	International Business	2単位	2～4年次	—		
	Basics of Corporate Analysis and Valuation	2単位	3～4年次	—		
	Global Innovation Management	2単位	3～4年次	—		
Global Marketing	2単位	3～4年次	—			
Advanced Topics in Economics	2単位	3～4年次	—			
Introduction to IFRSs	2単位	3～4年次	—			
専門科目	エスニシティ論	2単位	2～4年次	社		
	国際法 I	2単位	2～4年次	社		
	国際法 II	2単位	2～4年次	社		
	多文化社会論	2単位	2～4年次	社・都		
	ヨーロッパ社会論	2単位	2～4年次	—		
	ヨーロッパ統合論	2単位	2～4年次	社		
	Japan and International Cooperation	2単位	2～4年次	社		
	Learning Global Cooperation in English	2単位	2～4年次	—		
	International Cooperation in Urban Development	2単位	2～4年次	—		
	イスラーム地域史A	2単位	2～4年次	文		
	欧米の歴史	2単位	2～4年次	文		
	Japanese Literature in English	2単位	2～4年次	—		
	海外調査実習	4単位	2～4年次	—		
	グローバル政治論	2単位	2～4年次	社		
	グローバル公共政策論	2単位	2～4年次	社		
	国際関係論	2単位	2～4年次	社		
	特講 (Religions in Japanese Culture)	2単位	2～4年次	—		
	特講 (Language Education in Asia)	2単位	2～4年次	—		
	特講 (Practice in Language Education)	2単位	2～4年次	—		
	特講 (Japanese Pragmatics)	2単位	2～4年次	—		
	特講 (Language in Japanese Society)	2単位	2～4年次	—		
	特講 (Sociology of Education in Japan)	2単位	2～4年次	—		
	特講 (Global Society and Issues)	2単位	2～4年次	—		
	特講 (Peace Studies)	2単位	2～4年次	—		
	特講 (History of international Relations)	2単位	2～4年次	—		
	特講 (Globalization and International Economics)	2単位	2～4年次	—		

※表のクラスター項目は、本章「3. 卒業必要単位一覧」(4)クラスター一覧」ページのクラスター科目群に該当する科目を示しています。それぞれ、国際文化クラスター=文、人間科学クラスター=人、国際社会クラスター=社、都市政策とまちづくりクラスター=都。
 ※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

(6) 履修モデル

教養学系と都市学系の卒業までの国際英語プログラムの履修モデルを示します。

必ずしもモデルのとおり履修する必要はありませんが、参考にしてください。

①教養学系

分類	科目名	単位数	履修年次	卒業必要単位数	
全学開放科目 共通教養科目	YCUリベラルアーツ入門	1	1前	18単位	
	教養ゼミ	3	1前		
	基礎ゼミ	2	1後		
	※Practical English	3	1前		
	情報リテラシー	1	1前		
	国際文化論	2	1前		
	人間科学論	2	1前		
	国際社会論	2	1後		
	都市政策・まちづくり論	2	1後		
	選択必修	Advanced Practical English I	● 2	1後	10単位
		Advanced Practical English II	● 2	2前	
		Advanced Practical English III	● 2	2後	
		Advanced Practical English IV	● 2	3後	
		英語学入門A	● 2	1前	6単位
		ドイツ語教養基礎 I	3	1後	
		ドイツ語教養基礎 II	3	2後	
	4単位	総合講義 (Education in the World)	2	1前	
		総合講義 (横浜学事始)	2	1前	
	又は全学開放科目 共通教養科目 又は専門科目	日本国憲法	2	1前	12単位
健康スポーツ実習		2	1前		
スポーツ文化論		2	3後		
European Culture in English		● 2	3後		
English Grammar for Higher Education		● 2	1後		
英語学入門B		● 2	1後		
専門科目	必修	プレゼミア	1	2前	13単位
	演習 I	2	2後		
	演習 II	2	3前		
	演習 III	2	3後		
	卒論演習 I	2	4前		
	卒論演習 II	2	4後		
	卒業論文	2	4後		
	選択必修	アメリカ文学A	● 2	2前	国際文化 クラスター 20単位
		アメリカ文学B	● 2	2前	
		イギリス文化論	● 2	2前	
		言語学	● 1	2後	
		音声学	● 1	2後	
		イギリス文学A	● 2	2後	
イギリス文学B		● 2	2前		
Linguistics (Discourse Studies)		● 2	2後		
アメリカ文化論		● 2	2後		
演劇文化論		● 2	3前		
欧米の歴史		▲ 2	2後		
3単位		プレゼミB	1	2前	38単位
海外文化実習		● 4	3前		
アングロ・アメリカ文芸批評論		● 2	2前		
British Literature in English		● 2	2後		
コミュニケーション論		● 2	2後		
American Literature in English	● 2	3前			
Explication of American Literary Text A	● 2	3前			
Explication of American Literary Text B	● 2	3後			
英米言語文化A	● 2	3前			
英米言語文化B	● 2	3後			
理論言語学	● 2	4前			
英語学	● 2	3後			
国際法 I	▲ 2	3前			
国際法 II	▲ 2	3後			
社会言語論A	● 2	3前			
社会言語論B	● 2	3前			
多文化社会論	▲ 2	3後			
メディア英語	● 2	3後			
Global Issues	● 2	3前			
Japanese Literature in English	▲ 2	3前			
現代教育論	2	2後			

※履修年次は、科目一覧表で確認してください。

※科目名は2023年度以降入学カリキュラムに合わせた表記になっています。

●…英語サブクラスター ▲…英語拡張サブクラスター

②都市学系（教職・プログラム両立）

分類		科目名	単位数	履修年次	卒業必要単位数	
全学開放科目	共通教養科目	YCUリベラルアーツ入門	1	1前	18単位	
		教養ゼミ	3	1前		
		基礎ゼミ	2	1後		
		※Practical English	3	1前		
		情報リテラシー	1	1前		
		国際文化論	2	1前		
		人間科学論	2	1前		
		国際社会論	2	1後		
		都市政策・まちづくり論	2	1後		
		Advanced Practical English I	●	2		1後
	Advanced Practical English II	●	2	2前		
	Advanced Practical English III	●	2	2後		
	Advanced Practical English IV	●	2	3後		
	英語学入門A	●	2	1前		
	選択必修	総合講義（国際関係論）	2	1前	10単位	
		総合講義（環境論入門）	2	1前		
		総合講義（Education in the World）	2	1前		
		総合講義（まちづくり学入門）	2	1前		
			総合講義（連携特別講座「国際協力の実践と課題」）	2	1後	
又は全学開放科目 又は専門科目	選択	アメリカ文学A	●	2	2前	12単位
		アメリカ文化論	●	2	3後	
		コミュニケーション論	●	2	3後	
		英米言語文化A	●	2	2前	
		English Grammar for Higher Education	●	2	1後	
		英米言語文化B	●	2	3後	
専門科目	必修	プレゼミア	1	2前	25単位	
		演習Ⅰ	2	2後		
		演習Ⅱ	2	3前		
		演習Ⅲ	2	3後		
		卒論演習Ⅰ	2	4前		
		卒論演習Ⅱ	2	4後		
		卒業論文	2	4後		
		都市課題実習Ⅰ	6	2後		
		都市課題実習Ⅱ	6	3前		
		選択必修	社会福祉論	2		2前
	都市と暮らし		2	2前		
	多文化社会論		▲	2	2後	
	国際開発学		2	2前		
	都市計画論		2	2前		
	都市デザイン論		2	2前		
	文化政策論		2	4前		
	横浜の都市づくり		2	3後		
	参加・協働論		2	3前		
	比較地方自治		2	2後		
	海洋法		2	2前		
	比較社会システム論		2	3前		
	行政法Ⅰ		2	2前		
	都市防災計画論		2	3後		
	環境経済学		2	3後		
	日本の都市計画と都市開発		2	3後		
	地域活性化論		2	3前		
	都市解析		2	3前		
	都市経済学	2	3後			
	地域課題実習	2	3前	2単位		
	選択	国際法Ⅱ	▲	2	2後	9単位
		ヨーロッパ統合論	▲	2	2後	
		Japan and International Cooperation	▲	2	2後	
		Learning Global Cooperation in English	▲	2	2後	
American Literature in English		●	2	3前		
その他	翻訳文化論A	●	2	3前	+11単位	
	英語学入門B	●	2	1後		
	アメリカ史	●	2	4前		
	DSリテラシー	1	1後			
	日本国憲法	2	2前			
健康スポーツ科学入門	2	3前				

※履修年次は、科目一覧表で確認してください。 ●…英語サブクラスター ▲…英語拡張サブクラスター
 ※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

VI 国際教養学部における専門教育
 「国際英語プログラム」

VII 国際商学部における専門教育

1. 学部の特色

本学部は、経営学・経済学を中心とする学問的専門性に裏付けられ、かつ現実の国際的な労働・製品・金融市場の動向をふまえた社会経済活動に即した教育を行うと共に、国際商業都市・横浜という地域資源を活用することで、既成概念にとらわれない課題発見力と企画立案力、そして実業界で役立つ確かな英語力を培う教育を行います。

また、文理融合的思考力を涵養し、数理解理解力やデータ分析能力などを活かした教育も行います。

2. 卒業必要単位一覧

(1) 2023年度以降入学者

【A】	全学開放科目	共通教養科目	共通教養必修	YCUリベラルアーツ入門	1単位	28単位
				教養ゼミ	3単位	
				基礎ゼミ	2単位	
	Practical English	3単位				
	情報リテラシー	1単位				
	経営管理論	2単位				
	共通教養選択必修①	経営学入門Ⅰ、Ⅱ 簿記入門Ⅰ、Ⅱ ビジネス統計Ⅰ、Ⅱ 経済学入門Ⅰ、Ⅱ Advanced Practical EnglishⅣ (Business)	12単位			
	共通教養選択必修②	総合講義 (うち2単位以上は地域志向科目) ※卒業要件となるのは4科目8単位まで	4単位			
【B】	共通教養科目、全学開放科目、又は専門科目	選択	※共通教養科目は上記【A】欄、専門科目は下記【C】欄の必要単位数を超えて修得した単位について算入	22単位		
【C】	専門科目	専門必修	プレゼミA 演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 卒論演習Ⅰ、Ⅱ、卒業論文	13単位		
		専門選択必修①	会計学原論Ⅰ、Ⅱ 財務諸表分析Ⅰ、Ⅱ 経済統計Ⅰ、Ⅱ ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ	8単位		
		専門選択必修②	「XIV科目一覧表>国際商学部専門科目>専門選択必修②」の科目	2単位		
		専門選択必修③	サービス・ビジネス論Ⅰ、Ⅱ 医療イノベーション経営管理論 地理情報システム論 アントレプレナーシップ論/起業家人材論 サマープログラム インターンシップ実習 (国際商) 企画立案型実習A、B 文理融合型実習A、B 都市経済学 医療経営論 公会計論 アントレプレナーシップ実践論/起業プランニング論 ②の科目のうち、2単位を超えて修得した科目	8単位		
		選択	上記以外の専門科目、専門選択必修①の8単位を越えて修得した科目、専門選択必修③の8単位を越えて修得した科目	43単位(*)		
※【A】【B】合算して50単位を超えて修得した単位については、卒業単位数に算入されません。					合計	124単位

(*) すべて2単位の科目で修得し、44単位になった場合には、1単位分は【B】22単位へ算入。

(2) 2022年度以前入学者

【A】	全学開放科目	共通教養科目	共通教養必修	教養ゼミ 基礎ゼミ Practical English 情報コミュニケーション入門 経営管理論	4単位 2単位 3単位 1単位 2単位	28単位
			共通教養選択必修①	経営学入門Ⅰ、Ⅱ 簿記入門Ⅰ、Ⅱ ビジネス統計Ⅰ、Ⅱ 経済学入門Ⅰ、Ⅱ Advanced Practical EnglishⅣ (Business)	12単位	
			共通教養選択必修②	総合講義（うち2単位以上は地域志向科目） ※卒業要件となるのは4科目8単位まで	4単位	
【B】	共通教養科目、 全学開放科目、 又は専門科目	選択	※共通教養科目は上記【A】欄、専門科目は下記【C】欄の必要 単位数を超えて修得した単位について算入		22単位	
【C】	専門科目	専門必修	プレゼミA 演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 卒論演習Ⅰ、Ⅱ、卒業論文	13単位		
		専門選択必修①	会計学原論Ⅰ、Ⅱ 財務諸表分析Ⅰ、Ⅱ 経済統計Ⅰ、Ⅱ ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ	8単位		
		専門選択必修②	Global Business Administration Global Business Strategy Global Organization Theory Japanese Industry Japanese Economy Global Leadership Global Service Management Global Human Resource Development Introductory AccountingⅠ Introductory AccountingⅡ Intermediate Accounting International Business Basics of Corporate Analysis and Valuation Global Innovation Management Global Marketing Advanced Topics in Economics Introduction to IFRSs Business Economics Topics in Microeconomics	2単位		
		専門選択必修③	サービス・ビジネス論Ⅰ、Ⅱ 医療イノベーション経営管理論 地理情報システム論 アントレプレナーシップ論/起業家人材論 サマープログラム インターンシップ実習（国際商） 企画立案型実習A、B 文理融合型実習A、B 都市経済学 医療経営論 公会計論 アントレプレナーシップ実践論/起業プランニング論 ②の科目のうち、2単位を超えて修得した科目	8単位		
		選択	上記以外の専門科目、専門選択必修①の8単位を超えて修得した科目、専門選択必修③の8単位を超えて修得した科目	43単位(*)		
※【A】【B】合算して50単位を超えて修得した単位については、卒業単位数に算入されません。					合計	124単位

(*) すべて2単位の科目で修得し、44単位になった場合には、1単位分は【B】22単位へ算入。

(3) A・B・Cの各区分を超えて修得した単位の卒業時の取扱いについて

【A】 共通教養科目、全学開放科目

- (1) 共通教養選択必修①で12単位を超えて修得した単位 → 【B】 22単位へ算入
 - (2) 共通教養選択必修②で4単位を超えて修得した単位 → 【B】 22単位へ算入
- ※卒業要件となる総合講義は4科目8単位まで

【B】 共通教養科目、全学開放科目、又は専門科目

- 22単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位にはなりません。

【C】 専門科目

- (1) 専門選択必修①で8単位を超えて修得した単位 → 【C】 一番下段の選択43単位へ算入
 - (2) 専門選択必修②で2単位を超えて修得した単位 → 【C】 専門選択必修③8単位へ算入
 - (3) 専門選択必修③で8単位を超えて修得した単位 → 【C】 一番下段の選択43単位へ算入
 - (4) 一番下段の「選択」で43単位を超えて修得した単位 → 【B】 22単位へ算入
- ※選択43単位を、すべて2単位の科目で修得し、44単位になった場合には、1単位分は【B】 22単位へ算入

3. プレゼミAの配属について

配属された専門演習（ゼミ）の授与学位に応じて、自動的にクラス分けをします。詳細は別途掲示しますので、各自で必ず確認してください。

4. ゼミ配属について

- (1) ゼミ配属は1年後期中に行います。
- (2) ゼミ配属の条件は次の9科目のうち3科目を単位修得済みであることとします。
 - 配属条件科目：経営学入門Ⅰ、経営学入門Ⅱ、簿記入門Ⅰ、簿記入門Ⅱ、経済学入門Ⅰ、経済学入門Ⅱ、ビジネス統計Ⅰ、ビジネス統計Ⅱ、Advanced Practical English Ⅳ (Business)
- (3) 1年後期のゼミ配属のタイミングで、ゼミ配属条件科目を修得できなかった場合でもゼミには仮配属を行いますが、2年前期終了時点でゼミ配属条件を満たせなかった場合は、「演習Ⅰ」の履修はできなくなります。
 - ※配属条件を満たせなかった等の理由で、ゼミに配属されなかった場合には、演習の履修が1年遅れるため、4年間での卒業ができなくなりますので、注意してください。（ゼミに配属されない間は、学部の指定する教員が担任となります。）
 - ※演習の履修は数字の小さい順（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの順）で履修する段階履修となります。休学等を検討する場合は履修順序に注意してください。

5. 前提科目について

「卒業論文」（集中後期科目）については、授与される学位号に応じて履修のための前提科目が設定されていますので、注意してください。

前提科目が単位修得済みでないと「卒業論文」は履修できません。また、「卒業論文」が4年前期の履修申請期間に履修登録できないと就職活動の際に使用する「卒業見込証明書」が発行できなくなるので、計画的に履修を行ってください。

※授与される学位号については、本章「10. 教員一覧」を参照してください

VII 国際商学部における専門教育
 卒業必要単位一覧
 プレゼミAの配属について
 ゼミ配属について
 前提科目について

対象科目	適用されるゼミ	前提科目 ※必要科目数の単位が全て修得済みであること	
卒業論文	学士（経営学）が授与されるゼミ	必修（2科目）	財務諸表分析Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ
		選択必修（2科目）	財務諸表分析Ⅱ、ミクロ経済学Ⅱ、 会計学原論Ⅰ・Ⅱ
	学士（経済学）が授与されるゼミ	必修（1科目）	ミクロ経済学Ⅰ
		選択必修（3科目）	ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 経済統計Ⅰ・Ⅱ

6. 卒業論文について

(1) 卒論ゼミの単位について

卒論ゼミの単位は、「卒論演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」の計6単位です。

なお、「卒業論文」が不合格の場合は「卒論演習Ⅱ」の単位は与えられません。

また、卒論ゼミの単位は修得したが、その他の卒業必要単位数を満たすことができず、卒業判定で不合格となった場合においては、卒論ゼミの単位が取り消されることはありません。

(2) 卒業論文の提出について

卒業論文の提出にあたっては、以下の要領に従ってください。提出日時は厳守してください。

提出日時 (予定・別途掲示)	令和8年12月16日(水)	12時00分00秒から15時00分00秒まで
	令和8年12月17日(木)	10時00分00秒から12時00分00秒まで
注) 要旨のデータ提出は、令和8年12月16日(水)9時00分00秒から令和8年12月17日(木)12時00分00秒まで		
提出場所	金沢八景キャンパス（詳細は掲示でお知らせします。）	
提出物	卒業論文2部・要旨2部・卒業論文提出票1枚	
様式	表紙・要旨は必ずA4とすること	
綴じ方	指導教員より指示された表紙を使用し、論文の上には要旨を綴じること。	
！！卒業論文を提出するにあたって、以下のルールを必ず守ってください！！		
1. 提出会場での書類記入、卒業論文の綴じ込み作業は禁止します。事前に用意をして「提出できる状態」にして会場に入ってください。		
2. 所定の注意事項が守られていない卒業論文は受理しません。		
3. 締め切り時刻の12時00分00秒までに提出会場に入室した学生の卒業論文については提出物を確認の上、受け付けますが、12時00分01秒は受け付けません。なお、会場内に時報に合わせた時計を設置し、その時刻に従います。		
4. 事務による確認作業があるため、早めに提出してください。		
5. 履修ガイドで定める「授業の欠席について」の理由のうち <u>下記に該当</u> して卒業論文を提出できなかった場合のみ、後日提出を認めます。		
(1) 親族の危篤・死亡（2親等以内）		
(2) 天災、自宅の火災		
(3) 交通機関の遅延（30分以上）・ストライキ		
(4) 学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症（例：インフルエンザ、麻疹、おたふくかぜ、新型コロナウイルス感染症等）を発症した場合。（ただし、病状により医師において感染のおそれがないと認めるときを除く。）		
(5) 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより、裁判所に出頭した場合		
(6) 教育実習・介護等体験等に参加した場合		
(7) その他、学部長が認めた場合		

上記については変更となる可能性があります。必ずYCU-Boardで確認してください。

卒業論文の形式などについては、指導教員に確認してください。

(3) 卒業論文の審査基準について

大学ホームページに掲載されています。

【大学ホームページ】 URL : <https://www.yokohama-cu.ac.jp/academics/tt534t000000316t-att/kokusaisyougakubu.pdf>



7. 大学院科目の早期履修制度

3年次が終了した時点で、国際マネジメント研究科が定める要件を満たした国際商学部の学生は、選抜により、国際マネジメント研究科博士前期課程の開講科目を履修することができます。この制度で修得した単位が国際マネジメント研究科に進級後単位認定されることによって、学部卒業後1年で修士号が修得できる可能性があります。

研究者や国際機関、自分の興味ある業界・職種で働くことを考えている学生は、大学院の研究指導を受け、また大学院の授業を受講することで、自分の経営学・経済学のスキルをより高めることができます。ぜひ選択肢のひとつとして考え、研究科主催の入試説明会を覗いてみてください。応募の詳細については、履修前年度の12月下旬頃にお知らせします。

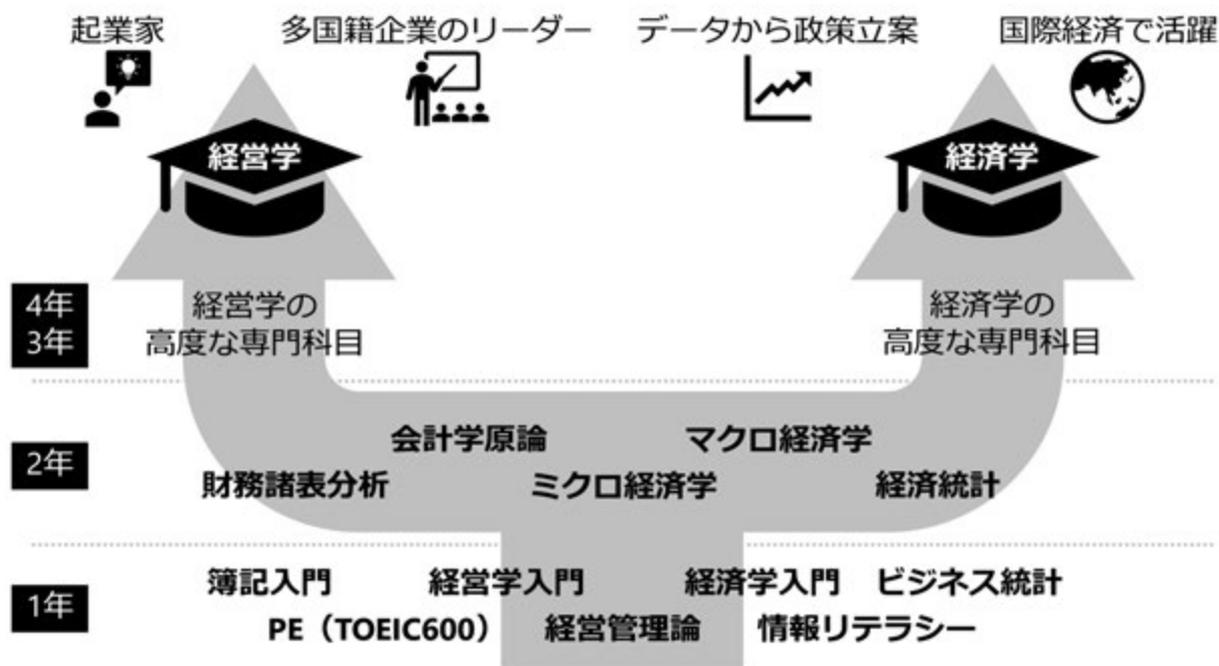
※大学院科目の履修者が早期履修生のみの場合、当該科目は休講となる可能性があります。

●履修資格選考

3年次後期までの成績（国際商学部の専門科目を重視）とゼミ指導教員等の推薦と面接による。なお、成績については、次の①と②の要件を満たしていることとする。

- ① 以下の(ア)と(イ)の要件をともに満たす者で、学士号取得のために必要な単位数の残りが20単位以下の者。
 - (ア) 申請する学期の終了時点で、休学期間を除き在学期間が3年以上4年間未満であること。
 - (イ) 休学・停学期間を除き、入学年度にかかわらず在学期間1年満了時までに教養ゼミまたは基礎ゼミの単位を修得し、かつ在学期間2年満了時までにPractical Englishの単位を修得していること。
- ② 次の(ア)または(イ)のいずれかの要件を満たす者。
 - (ア) 卒業に必要な単位のうち、前年度までの学業成績について、「秀」または「優」の取得単位数が52単位以上の者。
 - (イ) 卒業に必要な単位のうち、前年度までの専門科目（演習と全学開放科目を含む）の学業成績について、「秀」または「優」の取得単位数が30単位以上の者。

8. 履修モデル



卒業必要単位一覧の最低要件を満たせば、基本自由に履修して構いません。

但し、共通教養選択必修①に掲げた、**経済学入門 I・II**、**経営学入門 I・II**、**簿記入門 I・II**、**ビジネス統計 I・II**は、学部教育の基礎を成す科目群ですので、クラス指定をしています。修得漏れがある学生はできるだけ早く全て修得して欲しいと思います。

その他、**ゲーム理論入門**、**民法入門**なども国際商学部が提供している共通教養科目です。さらには、**DSリテラシー**や**プログラミング**、**微分積分**や**行列とベクトル**などの科目も臆せずにチャレンジしてもらえたらと思います。

共通教養選択必修②の総合講義においては、「**企業家に学ぶ**」、「**国際マネジメント**」が国際商学部が提供しているものです。また、次節で紹介されている『**データサイエンス人材育成プログラム**』は、全学部対象の『**領域横断プログラム ADEPT**』を超える、文部科学省「**数理・データサイエンス・AI教育プログラム**」の応用基礎レベルに認定されているもので、私立大学はもちろん、国立大学の社会科学系でもこのレベルまで持つところは珍しいのですが、opt-inではなくopt-out（取らないことを選択しなければ取ることになる）プログラムです。オンデマンドになっている総合講義「**データサイエンス入門**」の履修を済ませれば、卒業必要単位と共に揃えることは難しくありません。総合講義は4科目8単位まで卒業単位になりますので、合わせて履修してもらえればと思います。「**企業家に学ぶ**」と「**データサイエンス入門**」は地域志向科目にもなります。

企業社会に目が向く国際商学部では、TOEIC600によるPEの単位取得を推奨していますが、TOEIC600は学部卒の英語力として恥ずかしくはないレベルに過ぎません。皆さんと一緒に入学した外国人正規留学生は、母語が中国語や韓国語等であっても入学時にこのレベルの英語資格を取得済みです。早々にTOEIC600レベルを突破して、Advanced PEなども利用し、より高得点を目指してもらえたらと思います。

国際商学部では英語による専門科目を数多く準備しており、専門選択必修②として1つは取らなければなりません。専門選択必修③さらには一般の専門科目としてカウントされますので、できるだけたくさんとってもらえればと思います。英語による専門科目は数多くの交換留学生が履修します。海外からの交換留学生と交流を深めるだけにとどまらず、皆さんもぜひ『交換留学制度』を使って海外へ雄飛してもらえたらと思います。オンラインによる就職活動も可能になってきた今、単なる語学留学ではない3年後期から4年前期での交換留学が推奨です。大学も、同時履修制度を整備し、応援しています。ただし、経済学や経営学の基礎学力を固めるとともに、TOEICにとどまらず、先方の要求に従い、IELTSやTOEFL-iBTなどでの高得点も期待されます。

2年前期は1Q2Qもあり、専門選択必修①の単位が決めづらいこともあるかもしれません。それもあって、1年の終わりまでには2年後期から続くゼミの指導教員(担任)が決まるようにしてあります。卒業論文前提科目が重要であり、学士(経済学)のゼミにおいては、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、経済統計Ⅰ・Ⅱが、学士(経営学)のゼミにおいては、財務諸表分析Ⅰ・Ⅱ、会計学原論Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱが共通に求められますが、それ以外の科目については、ゼミの指導教員(担任)に是非相談して下さい。

2年前期のプレゼミAの配属も授与学位ごとにしてあり、担当の先生も頼りになりますが、担任は、2年前期段階で、2年後期から始まるゼミの指導教員です。春休み中も新たに決まったゼミ指導教員からのメールに注意し、できれば、2年前期開始前、遅くとも2年前期履修登録前には、ゼミ指導教員(担任)の履修指導を受けてください。また、万が一先生からメールをいただけなかったときには、学生の方からメールを送る積極性を持ってください。「進んで人と交わり共に資質を高めよ」です。メールアドレスは第10節「教員一覧」に掲げられています。これは、2年後期以降卒業まで同様です。

9. データサイエンス人材育成プログラム（国際商学部）

(1) 創設の背景・目的

デジタル化が不可逆的に進み、社会・産業の転換が大きく進む中で、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養は「現代のリテラシー」と言われ、大学生が備える基礎的な知識・技能であると言われています。

本プログラムは、ADEPTプログラムで身に付けた、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養と経営学や経済学とを繋ぐ「橋渡し教育」として位置づけられます。

本プログラムの目的は、①ADEPTプログラムの教育を補完的・発展的に学び、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力やAIを活用し課題解決につなげる基礎能力を修得すること、②自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得することにあります。

(2) 対象者

国際商学部生 ※2023年度以降入学者

(3) プログラム修了までの流れ

- ①プログラムに参加するにあたり、参加申請は不要。
 - ②プログラムの修了に必要な要件を満たすよう学修する。
 - ③プログラムの修了に必要な要件を満たしたら（必要単位数の修得等）、修了申請は不要。
- ※①、③の参加・修了の詳細はオリエンテーションで周知します。

(4) オープンバッジについて

修了要件を満たしていることが確認された学生に対しては、大学から修了証が発行されます。

(5) 修了要件

下記の修了要件を①と②をすべて満たした場合に「修了」とする。

- ①〔必修科目〕 指定の2科目（4単位）を全て修得すること。
 - ②〔選択必修科目〕 指定科目のうち、3科目以上（6単位以上）を修得すること。
- ※修了証が発行されます。

(6) 将来に役立つ具体的なイメージ

今後のデジタル社会において、基礎的な数理的素養、領域を超えてつなぎ、デザインする力は、専門分野を問わず修得することが期待されます。特に、AIがどのような未来を引き起こすのかを理解した上で、数理・データサイエンス・AIの知識を専門分野へ応用・活用することは（AI×専門分野）、現実の課題解決や価値創造につながります。

(7) 人材像—このような人材になることができます—

- ・自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を備えた人材
- ・社会に出て、数理・データサイエンス・AIを活用し、様々な課題を解決できる人材

VIII 理学部における専門教育

1. 学部の特徴

本学部では、自然科学の基礎を全般的に学ぶことで、物質科学的概念を持ちつつ、細胞・個体スケールの生命現象をとらえることができる人材、生命現象を原子・分子スケールで起こる物質科学としてとらえることができる人材を育成すると共に、医学・農学・工学などの連携研究にも積極的に挑戦できる人材を育成します。

2. 卒業必要単位一覧

【A】	全学開放科目	共通教養科目	必修	YCUリベラルアーツ入門	1単位	15単位	
				教養ゼミ	3単位		
				基礎ゼミ	2単位		
Practical English	3単位						
情報リテラシー	1単位						
基礎物理学実験	1単位						
基礎化学実験	1単位						
基礎生物学実験	1単位						
科学の倫理学	2単位						
リメディアル講座（基礎物理学）	0単位						
リメディアル講座（基礎生物学）	0単位						
共通教養選択必修①	総合講義（うち2単位以上は地域志向科目）	4単位※ ¹					
共通教養選択必修②	物理学分野、化学分野及び生物学分野のうち2分野からそれぞれ6単位修得すること。 残りの1分野から4単位修得、うち2単位は数学分野からでも可とする。 【物理学分野】 物理学概説A、物理学概説B、 物理学基礎演習A、物理学基礎演習B 【化学分野】 化学概説A、化学概説B、化学概説C 【生物学分野】 生物学概説A、生物学概説B、生物学概説C 【数学分野】 微分と積分、行列とベクトル、微分と積分演習、 行列とベクトル演習、統計と確率	16単位※ ¹					
※ ¹ 共通教養選択必修①の必要単位数(4単位)を超えて修得した単位は4単位まで【B】選択に算入 共通教養選択必修②の必要単位数(16単位)を超えて修得した単位は8単位まで【B】選択に算入 ただし、【B】選択に算入できるのは①と②の合計8単位まで							
【B】	共通教養科目、 全学開放科目、 または専門科目	選択必修	Advanced Practical English、熱力学、知覚情報科学、 環境毒性学より1科目以上	2単位			
			選択	<ul style="list-style-type: none"> 上記【A】欄に記載のない共通教養科目及び全学開放科目 【A】欄の必要単位数を超えて修得した単位8単位まで算入 ※¹ 【C】欄の必要単位数を超えて修得した単位を算入 	13単位		
【C】	専門科目	必修	Global Science	20単位			
			課題提案型演習A、B				
			自然科学実験Ⅰ、Ⅱ				
			先端科学演習				
先端科学実習							
卒業研究Ⅰ、Ⅱ、卒業論文	20単位						
生命医科学特別講義、生命機能計測実験、物質計測実験より1科目		2単位※ ²					
各クラスターより2単位以上修得すること		20単位					
<ul style="list-style-type: none"> 物理学系・数学系クラスター科目 化学系クラスター科目 生物学系・融合系クラスター科目 医学系クラスター科目 							
※ ² 必要単位数(2単位)を超えた場合、生命医科学特別講義を医学系クラスター科目に算入							
選択	<ul style="list-style-type: none"> 専門科目のうち必修・選択必修以外の専門科目 専門科目選択必修の必要単位数(22単位)を超えて修得した単位 	32単位					
【A】【B】 合算して50単位を超えて修得した単位については、卒業単位数に算入されません。						合計	124単位

※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

3. 卒業までの履修の流れ

【1年前期】

全学開放科目のなかの、自然科学の基礎科目を学びます。高等学校で「物理」あるいは「生物」を履修しなかったものは、それぞれ「リメディアル講座（基礎物理学）」あるいは「リメディアル講座（基礎生物学）」履修します。

【1年後期】

全学開放科目のなかの、自然科学の基礎科目を学びます。「基礎物理学実験」、「基礎化学実験」、「基礎生物学実験」をすべて履修します。「基礎ゼミ」は「基礎ゼミ（自然科学A）」「基礎ゼミ（自然科学B）」「基礎ゼミ（自然科学C）」「基礎ゼミ（理数自主研究）」「基礎ゼミ（自然科学インフォマティクス）」のいずれかを履修します。「基礎ゼミ（自然科学A, B, C）」は同じ内容です。「理数マスター育成プログラム」参加学生は、必ず「基礎ゼミ（理数自主研究）」を履修してください。

2年次から始まるクラスター（科目群）に分類した専門科目の履修方法については、「基礎ゼミ」のなかで案内します。

【2年前期】

〈専門科目を分類した4つのクラスター（科目群）〉※

- 物理学系・数学系クラスター
- 化学系クラスター
- 生物学系・融合系クラスター
- 医学系クラスター

上の中から2つのクラスターを中心にして、専門性を深めていきます。履修指導に基づいて希望クラスターを選択してください。

※【B】 共通教養科目、全学開放科目、または専門科目の選択必修（英語科目）で熱力学を選択した場合は、

【C】 専門科目の選択必修（物理学系・数学系クラスター）として、「熱力学」とは別に、さらに2単位以上修得する必要があります。

※科目の詳細については「科目一覧表」を参照

【2年後期】

「自然科学実験Ⅰ」は、物質科学・生命環境・生命医科学（福浦）の3つの領域にグループ分けし、いずれか1つを選択します。

グループ	科目名	受け入れ人数	場所
物質科学	自然科学実験Ⅰ	50名	金沢八景
生命環境		50名	金沢八景、舞岡
生命医科学		40名	福浦

「課題提案型演習A」は、物質科学、生命環境、生命医科学の3つの領域にグループ分けし、いずれか1つを選択します。

グループ	科目名	受け入れ人数	場所
物質科学	課題提案型演習A	50名	金沢八景
生命環境		50名	金沢八景
生命医科学		40名	金沢八景

※異なる領域の「自然科学実験Ⅰ」と「課題提案型演習A」を組み合わせることも可能です。

※2年後期以降の実験・演習のグループ分け等の詳細については、別途ガイダンス等で説明します。

YCU-Boardの掲示を確認し、必ず出席してください。

※2026年度以降入学生については、学部生の入学定員増に伴い各グループの受け入れ人数に変更がございます。詳細は別途ご連絡いたします。

【3年前期】

3つの領域それぞれで専門実験・実習を行います。「自然科学実験Ⅱ」は、受け入れ人数に限りがあるため、物質科学、生命環境、生命医科学（鶴見）の3つの領域にグループ分けし、いずれか1つを選択します。課題提案型演習Bも同じ領域のグループで行います。

グループ	科目名		受け入れ人数	場所
物質科学	自然科学実験Ⅱ*	課題提案型演習B	50名程度	金沢八景
生命環境			50名程度	金沢八景
生命医科学			40名程度	鶴見

※自然科学実験Ⅱ、課題提案型演習Bのいずれも、3つのグループに分けて実施します。

※2026年度以降入学生については、学部生の入学定員増に伴い各グループの受け入れ人数に変更がございます。詳細は別途ご連絡いたします。

【3年後期】

- (1) 研究室配属（「先端科学演習」「先端科学実習」）を行います。

研究室配属のため、3年前期終了後に、医学を加えた4グループ（物質科学、生命環境、生命医科学、医学）に割り振ります。グループでの受け入れ人数に限りがあるため、3年前期までの成績が確定※した時点でグループを決定します。それぞれのグループでのルールに則って研究室配属を行います。

※成績確認申し立てを行った学生については個別対応となります。

- (2) 研究室配属条件は、3年次前期終了時点で、卒業必要単位（124単位）のうち、84単位以上を修得していること（つまり、40単位を修得すれば卒業必要単位を満たす状態）が条件となります。

卒業必要単位数にカウントされない余剰単位は、84単位にはカウントされませんのでご注意ください。

例：【A】 共通教養選択必修①（4～8単位）から10単位修得した場合

→総修得単位数は10単位となるが、卒業必要単位数は8単位となり、余剰の2単位は、卒業必要単位数にカウントされません。

- (3) 上記、配属条件を満たせなかった等の理由で、研究室配属ができなかった場合は、「先端科学演習」と「先端科学実習」の履修が1年遅れる※ため、4年間での卒業ができなくなりますので、注意して下さい。研究室に配属されない間は、学部の指定する教員が担任となります。

※既に履修登録済の場合は、自動的に履修取消しとなります。

- (4) 研究室変更の手続については、別途掲示します。ただし、4年次の年度途中での変更は原則として認められません。

【4年前期・後期】

3年後期修了時点で卒業必要単位のうち108単位以上修得している場合（つまり、16単位を修得すれば卒業必要単位を満たす状態）に限り、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」を履修することができます。本履修要件を満たせなかった場合、4年間での卒業ができなくなりますので、注意してください。

(参考) 理学部の演習科目について

履修時期	科目名
2年後期	課題提案型演習A
3年前期	課題提案型演習B
3年後期	先端科学演習
4年前期	卒業研究Ⅰ
4年後期	卒業研究Ⅱ

※先端科学演習・卒業研究の履修は、各学期1科目を原則とします。

4. 卒業論文について

(1) 卒業研究および卒業論文の単位について

卒業研究の単位数は、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」の計6単位です。

卒業研究の単位は修得したが、その他の卒業必要単位数を満たすことができず、卒業判定で不合格となった場合においては、卒業研究および卒業論文の単位が取り消されることはありません。

(2) 卒業論文の提出について

卒業論文の提出にあたっては、以下の要領に従ってください。提出日時は厳守してください。

提出日時 (予定・別途掲示)	令和9年1月25日(月)10時00分00秒から 29日(金)12時00分00秒まで
提出方法	提出媒体：データ提出 提出場所：YCU-Boardからオンライン提出
提出物	卒業論文・要旨
！！卒業論文を提出するにあたって、以下のルールを必ず守ってください！！	
1. 提出日時は、日本標準時 (UTC+9) とし、YCU-Boardの時刻を基準とします。	
2. 通信環境や機器 (パソコン・プリンタ) の故障、USBやCDのデータ破損、ファイルの消失等を理由とする提出遅延は一切認められません。	
3. 履修ガイドで定める「授業の欠席について」の理由のうち <u>下記に該当</u> して卒業論文を提出できなかった場合のみ、後日提出を認めます。	
(1) 親族の危篤・死亡 (2親等以内)	
(2) 天災、自宅の火災	
(3) 学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症 (例：インフルエンザ、麻疹、おたふくかぜ、新型コロナウイルス感染症等) を発症した場合。(ただし、病状により医師において感染のおそれがないと認めたときを除く。)	
(4) その他、学部長が認めた場合	

上記については変更となる可能性があります。必ずYCU-Boardで確認してください。

卒業論文の形式などについては、指導教員に確認してください。

(3) 卒業論文の審査基準について

大学ホームページに掲載されています。

【大学ホームページ】 URL : <https://www.yokohama-cu.ac.jp/academics/tt534t000000316t-att/rigakubu.pdf>



5. 理学部前提科目一覧

理学部では科目履修のための前提科目を設定しています。詳細は巻末の「科目一覧表」を確認してください。

6. 大学院科目の早期履修制度

理学部では、3年次が修了した時点で卒業要件のうちの116単位以上を修得していると、4年次で物質科学グループおよび生命環境グループの学生は大学院生命ナノシステム科学研究科博士前期課程開講科目、生命医科学グループの学生は大学院生命医科学研究科博士前期課程科目、医学グループの学生は大学院生命医科学研究科博士前期課程又は医学研究科修士課程（医学専攻）科目を10単位まで自由科目として履修することが可能です。

また、履修した科目の研究科へ進学した場合、この制度で修得した科目の単位認定が可能です。

詳細については、履修前年度の12月下旬頃にお知らせします。

※大学院科目の履修者が早期履修生のみの場合、当該科目は休講となる可能性があります。

科目提供元	生命ナノシステム科学研究科				生命医科学研究科		
	物質システム科学専攻		生命環境システム科学専攻		生命医科学専攻		
	科目名	単位	科目名	単位	科目提供元	科目名	単位
必修科目	物質システム科学序説	前(後)2	生命環境システム科学概説Ⅰ 生命環境システム科学概説Ⅱ	前(前)2 前(前)2	必修科目 (6単位以内)	生命医科学総論Ⅰ 生命医科学総論Ⅱ 生命医科学リテラシー 科学英語リテラシー 生命医科学特別講義	前2 前2 前1 前1 後2
選択科目	(4単位以内) 特論科目およびマテリアルインフォマティクス ※国際リトリート、大学院特別講義Ⅰ～Ⅲ、インターンシップおよび医学研究科開講科目は選択不可	4	なし	なし	選択必修科目 (4単位以内)	生命創薬科学概説Ⅰ 生命創薬科学概説Ⅱ 生命創薬科学概説Ⅲ 生命創薬科学概説Ⅳ 生体制御科学概説Ⅰ 生体制御科学概説Ⅱ 生体制御科学概説Ⅲ 生体制御科学概説Ⅳ 分子解析科学概説Ⅰ 分子解析科学概説Ⅱ 分子解析科学概説Ⅲ 分子解析科学概説Ⅳ 生命情報科学概説Ⅰ 生命情報科学概説Ⅱ 生命情報科学概説Ⅲ 生命情報科学概説Ⅳ	前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1 前1
選択必修科目A	(4単位以内) ナノ物質創製科学概説 ナノバイオ物質科学概説 予測・感覚情報科学概説	後2 後2 後2	生命環境システム科学概説Ⅲ 生命環境システム科学概説Ⅳ	前(前)2 前(前)2			
選択必修科目B	なし	なし	英語プレゼンテーション技術Ⅰ 英語プレゼンテーション技術Ⅱ ※Ⅰ又はⅡから1科目選択 生物機能実習* 生体解析実習* 生命情報実習* 極限環境実習* ※上記演習のうち1科目選択	集2 集2 集1 集1 集1 集1			
自由科目	教科指導の研究 理科教育ケーススタディ	後2 後2	教科指導の研究 理科教育ケーススタディ	後2 後2			

医学研究科 医学専攻		
科目提供元	科目名	単位
必修科目 (7単位以内)	臨床医学概論 医科学概論Ⅰ(A) 医科学概論Ⅰ(B) 医科学概論Ⅰ(C) 医科学実験法Ⅰ(A) 医科学実験法Ⅰ(B)	前2 前1 前1 前1 前1 前1

注意：専門性を高める観点から、早期履修科目を履修できるのは、物質科学グループの学生は物質システム科学専攻、生命環境グループの学生は生命環境システム科学専攻、生命医科学グループの学生は生命医科学専攻、医学グループの学生は生命医科学専攻又は医学専攻の科目のみとなります。

7. 履修モデル（一例）

(1) 化学で自然現象を解き明かせる人材

	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後		
全学開放科目	1 YCUリベラルアーツ入門	2 基礎ゼミ	2 病気を科学する							
	3 教養ゼミ	2 物理学概説B								
	3 Practical English	1 物理学基礎演習B								
	1 情報リテラシー	2 化学概説B								
	0 リメディアル物理	2 化学概説C								
	0 リメディアル生物	2 生物学概説B								
	2 物理学概説A	2 生物学概説C								
	1 物理学基礎演習A	2 科学の倫理学								
	2 化学概説A	1 基礎物理学実験								
	2 生物学概説A	1 基礎化学実験								
	2 微分と積分	1 基礎生物学実験								
	2 行列とベクトル	1 DSリテラシー								
	1 行列とベクトル演習	1 プログラミングA								
	2 総合講義(物質と生命)	2 総合講義(データサイエンス入門)								
	2 総合講義(生命科学と環境)									
	専門科目			1 Global Science 2 特講(Science English)	2 課題提案型演習A	2 課題提案型演習B 2 特講(Science writing in English)	2 マテリアルデザイン 2 先端科学技術			
		<物理学系・数学系クラスター>	2 振動と波動 2 電磁気学 2 熱力学 2 自然科学数学A	2 基礎生命物理学						
		<化学系クラスター>	2 基礎有機化学 2 基礎無機化学 2 化学熱力学 2 分析化学	2 有機化学 2 無機化学 2 溶液化学 2 先端機器分析化学	2 創薬有機化学 2 錯体化学 2 化学反応速度論 2 量子化学	2 天然物有機化学 2 知覚情報科学 2 エネルギー変換				
		<生物学系・融合系クラスター>	2 生化学I	2 生化学II 2 タンパク質の構造 2 生物化学(八景) 2 遺伝子の生物化学(八景)						
		<医学系クラスター>		2 分子細胞医学(八景)						
				2 自然科学実験I	3 自然科学実験II	2 物質計測実験 2 先端科学演習 2 先端科学実習	2 卒業研究I	2 卒業研究II 2 卒業論文		
計		24	22	23	22	15	16	2	4	128

(2) 物理で自然現象を解き明かせる人材

	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後		
全学開放科目	1 YCUリベラルアーツ入門	2 基礎ゼミ								
	3 教養ゼミ	2 物理学概説B								
	3 Practical English	1 物理学基礎演習B								
	1 情報リテラシー	2 化学概説B								
	0 リメディアル物理	2 化学概説C								
	0 リメディアル生物	2 生物学概説B								
	2 物理学概説A	2 生物学概説C								
	1 物理学基礎演習A	2 科学の倫理学								
	2 化学概説A	1 基礎物理学実験								
	2 生物学概説A	1 基礎化学実験								
	2 微分と積分	1 基礎生物学実験								
	2 行列とベクトル	1 DSリテラシー								
	1 行列とベクトル演習	2 総合講義(データサイエンス入門)								
	2 総合講義(物質と生命)	1 プログラミングA								
	2 総合講義(生命科学と環境)	1 プログラミングC								
	専門科目			1 Global Science 2 特講(Science English)	2 課題提案型演習A	2 課題提案型演習B 2 量子力学	2 電子物性 2 マテリアルデザイン 2 知覚情報科学 2 先端科学技術			
		<物理学系・数学系クラスター>	2 熱力学 2 振動と波動 2 電磁気学 2 自然科学数学A 2 自然科学数学B	2 基礎量子力学 2 統計力学 2 基礎生命物理学 2 自然科学数学C 2 自然科学数学D	2 固体物性 2 特講(応用統計力学) 2 物理学演習 2 生命物理学 2 地震学 2 量子化学					
		<化学系クラスター>	2 基礎有機化学 2 基礎無機化学 2 化学熱力学 2 分析化学	2 先端機器分析化学	2 特講(Science writing in English) 2 化学反応速度論					
		<生物学系・融合系クラスター>	2 分子生物学	2 タンパク質の構造 2 生物化学(八景)						
		<医学系クラスター>		2 分子細胞医学(八景)	2 薬理学					
				2 自然科学実験I	3 自然科学実験II	2 物質計測実験 2 先端科学演習 2 先端科学実習	2 卒業研究I	2 卒業研究II 2 卒業論文		
計		24	23	23	22	24	14	2	4	136

(3) 分子・細胞・個体レベルで生命現象を解き明かせる人材

	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後		
全学開放科目	1 YCUJバロアーツ入門	2 基礎ゼミ	2 病気を科学する							
	3 教養ゼミ	2 物理学概説B								
	3 Practical English	1 物理学基礎演習B								
	1 情報リテラシー	2 化学概説B								
	0 リメディアル物理	2 化学概説C								
	0 リメディアル生物	2 生物学概説B								
	2 物理学概説A	2 生物学概説C								
	1 物理学基礎演習A	2 科学の倫理学								
	2 化学概説A	1 基礎物理学実験								
	2 生物学概説A	1 基礎化学実験								
	2 微分と積分	1 基礎生物学実験								
	2 行列とベクトル	1 DSリテラシー								
	1 行列とベクトル演習	2 データサイエンス倫理								
	2 総合講義(物質と生命)	2 総合講義(データサイエンス入門)								
	2 総合講義(生命科学と環境)									
	専門科目			1 Global Science	2 課題提案型演習A	2 課題提案型演習B				
			<物理学系・数学系クラスター>	2 熱力学	2 自然科学数学A	2 基礎生命物理学	2 生命物理学			
			<化学系クラスター>	2 基礎有機化学						
				2 基礎無機化学						
			<生物学系・融合系クラスター>	2 細胞生物学	2 微生物学	2 動物生理学II	2 遺伝子機能科学			
			2 遺伝学	2 生化学II	2 細胞工学					
			2 植物生理学I	2 動物生理学I	2 再生発生学					
			2 分子生物学	2 植物生理学II	2 環境毒性学					
			2 生化学I	2 分子細胞生物学	2 極限環境生物学					
		<医学系クラスター>	2 放射線生物学	2 糖鎖生物学						
		2 遺伝子の生物化学(八景)								
		2 創薬分析化学(八景)								
		2 自然科学実験I		3 自然科学実験II	2 先端科学演習	2 卒業研究I	2 卒業研究II			
			2 生命科学実験I	2 生命科学実験II	2 生命科学実習		2 卒業論文			
計	24	23	23	22	21	6	2	4	125	

(4) ゲノム科学、生命科学の推進を通じて、食料・環境問題解決に貢献できる人材

	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後		
全学開放科目	1 YCUJバロアーツ入門	2 基礎ゼミ			2 (全学開放科目)					
	3 教養ゼミ	2 物理学概説B								
	3 Practical English	2 化学概説B								
	1 情報リテラシー	2 化学概説C								
	0 リメディアル物理	2 生物学概説B								
	0 リメディアル生物	2 生物学概説C								
	2 物理学概説A	2 科学の倫理学								
	1 物理学基礎演習A	1 基礎物理学実験								
	2 化学概説A	1 基礎化学実験								
	2 生物学概説A	1 基礎生物学実験								
	2 微分と積分	2 国際社会論								
	2 行列とベクトル	1 DSリテラシー								
	1 行列とベクトル演習	2 データサイエンス倫理								
	2 総合講義(物質と生命)	2 総合講義(データサイエンス入門)								
	2 総合講義(生命科学と環境)									
	専門科目			1 Global Science	2 課題提案型演習A	2 課題提案型演習B				
			<物理学系・数学系クラスター>	2 熱力学	2 自然科学数学A	2 基礎生命物理学				
			<化学系クラスター>	2 基礎有機化学	2 基礎無機化学	2 有機化学				
				2 分析化学		2 先端機器分析化学				
			<生物学系・融合系クラスター>	2 細胞生物学	2 微生物学	2 資源生物利用学	2 遺伝子機能科学			
			2 遺伝学	2 生化学II	2 ゲノム遺伝学					
			2 植物生理学I	2 植物生理学II	2 環境毒性学					
			2 分子生物学	2 分子細胞生物学	2 極限環境生物学					
			2 生化学I	2 放射線生物学	2 細胞工学					
		<医学系クラスター>	2 糖鎖生物学	2 再生発生学						
		2 遺伝子の生物化学(八景)								
		2 自然科学実験I		3 自然科学実験II	2 先端科学演習	2 卒業研究I	2 卒業研究II			
			2 生命科学実験I	2 生命科学実験II	2 生命科学実習		2 卒業論文			
計	24	24	23	24	21	6	2	4	128	

Ⅷ 理学部における専門教育
履修モデル(一例)

(5) 生体分子の構造と機能を理解し、創薬に応用できる人材

	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後		
全学開放科目	1 YCUJバロアル入門	2 基礎ゼミ	2 病気を科学する							
	3 教養ゼミ	2 物理学概説B								
	3 Practical English	1 物理学基礎演習B								
	1 情報リテラシー	2 化学概説B								
	0 リメディアル物理	2 化学概説C								
	0 リメディアル生物	2 生物学概説B								
	2 物理学概説A	2 生物学概説C								
	1 物理学基礎演習A	2 科学の倫理学								
	2 化学概説A	1 基礎物理学実験								
	2 生物学概説A	1 基礎化学実験								
	2 微分と積分	1 基礎生物学実験								
	2 行列とベクトル	1 DSリテラシー								
	1 行列とベクトル演習	2 総合講義(データサイエンス入門)								
	2 総合講義(物質と生命)	2 データサイエンス倫理								
	2 総合講義(生命科学と環境)	1 (全学開放科目)								
	専門科目			1 Global Science	2 課題提案型演習A	2 課題提案型演習B				
				2 特講(Science English)						
				<物理学系・数学系クラスター>	2 振動と波動	2 基礎量子力学				
					2 熱力学	2 基礎生命物理学				
				<化学系クラスター>	2 基礎有機化学	2 有機化学	2 量子力学			
					2 基礎無機化学		2 創薬有機化学			
					2 化学熱力学		2 化学反応速度論			
				<生物学系・融合系クラスター>	2 細胞生物学	2 生化学II				
					2 遺伝学	2 分子細胞生物学	2 ゲノム遺伝学			
				2 分子生物学	2 タンパク質の構造	2 生命情報科学(八景)	2 遺伝子機能科学(備見)			
				2 生化学I	2 生物化学(八景)	2 創薬分析化学(八景)	2 先端タンパク質科学(備見)			
					2 構造創薬科学(八景)					
			<医学系クラスター>		2 分子細胞医学(八景)	2 薬理学(八景)				
					2 生命医学特別講義(備見)	2 生命医学特別講義(備見)				
					2 自然科学実験I	3 自然科学実験II	2 先端科学演習	2 卒業研究I	2 卒業研究II	
							2 先端科学実習		2 卒業論文	
計		24	24	23	22	21	8	2	4	128

(6) 細胞・生体の働きを理解し、医療関連に応用できる人材

	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後		
全学開放科目	1 YCUJバロアル入門	2 基礎ゼミ	2 病気を科学する							
	3 教養ゼミ	2 物理学概説B								
	3 Practical English	1 物理学基礎演習B								
	1 情報リテラシー	2 化学概説B								
	0 リメディアル物理	2 化学概説C								
	0 リメディアル生物	2 生物学概説B								
	2 物理学概説A	2 生物学概説C								
	1 物理学基礎演習A	2 科学の倫理学								
	2 化学概説A	1 基礎物理学実験								
	2 生物学概説A	1 基礎化学実験								
	2 微分と積分	1 基礎生物学実験								
	1 微分と積分演習	1 プログラミングA								
	2 行列とベクトル	2 総合講義(データサイエンス入門)								
	2 総合講義(物質と生命)	2 国際社会論								
	2 総合講義(生命科学と環境)	1 (全学開放科目)								
	専門科目			1 Global Science	2 課題提案型演習A	2 課題提案型演習B				
				2 特講(Science English)						
				<物理学系・数学系クラスター>	2 振動と波動					
					2 熱力学					
				<化学系クラスター>	2 化学熱力学					
					2 基礎有機化学					
				<生物学系・融合系クラスター>	2 細胞生物学	2 微生物学	2 細胞工学			
					2 遺伝学	2 生化学II	2 再生発生学			
					2 分子生物学	2 分子細胞生物学	2 動物生物学II			
				2 生化学I	2 糖鎖生物学	2 ゲノム遺伝学	2 遺伝子機能科学(備見)			
					2 タンパク質の構造	2 極限環境生物学	2 先端タンパク質科学(備見)			
					2 生物化学(八景)	2 生命情報科学(八景)				
					2 動物生理学I					
			<医学系クラスター>	2 人体の解剖生理学(八景)	2 分子細胞医学(八景)	2 薬理学(八景)				
					2 臨床薬理・疾病形態学(備見)	2 生命医学特別講義(備見)				
					2 自然科学実験I	3 自然科学実験II	2 先端科学演習	2 卒業研究I	2 卒業研究II	
							2 先端科学実習		2 卒業論文	
計	24	24	23	22	21	8	2	4	128	

※下線を付した科目は必修科目です。

※太字で囲んである部分はクラスター科目です。

※開講期については変更になる可能性がありますので、当該年度の時間割表等を確認してください。

※履修年度の時間割によっては履修できない場合があります。

※このモデルはあくまで履修の進め方の一例です。「2. 卒業必要単位一覧」を基に、必ずご自身で卒業までの計画を立てて、履修してください。

※科目名は2023年度以降入学生カリキュラムに合わせた表記になっています。

Ⅸ データサイエンス学部における専門教育

1. 教育の理念・目的

データサイエンス学部は、今後ますます社会から必要とされるデータサイエンス分野における活躍を可能とする統計学、アルゴリズム等の高度な専門知識と高い職能技術を有し、医療、経済社会、自然科学、情報等それぞれの応用分野（以下、単に「応用分野」という。）に展開できる基礎能力を保持したデータサイエンス人材の育成を目標とする。

このため本学部では、現実の課題をデータとの関係性からとらえる能力、又はものごとの裏に潜む数理的な法則・関係を見抜く能力の獲得、基礎から応用にわたる医療、経済社会、自然科学、情報等に関するデータサイエンスに係る課題を俯瞰し、これらの応用分野に適用できる課題発見・課題解決能力の涵養を目指す。そのため、各応用分野における課題を追究するための計画立案及び課題解決の手法を修得し、特に、統計学とアルゴリズムを基礎としたコンピュータサイエンス、データ解析に習熟したうえで、適切な課題解決策を考案することを可能とする。また、豊かな表現力で国内外の様々な分野の人々と円滑にコミュニケーションを図ることも目標の一つに掲げる。

常に人間や社会に対する興味や関心を持ち続け、各分野の課題をデータから数理的・分析的に考える基礎的能力を持ち、また、様々な人と協同して課題解決を図る態度・志向性を有し、社会に貢献することへの高い意識を有する学生を社会に輩出することを目的とする。卒業生には、総合的な知性と教養に基づいて国際社会、地域社会に貢献を図る旺盛なチャレンジ精神を持ち、より良い社会の実現に向け努力する姿勢の習得が期待される。

2. 学部の特色

データサイエンス学部では、教育課程を大きく全学開放科目及び専門科目の2つの科目群をもって構成する。これらの科目群を有機的に組み合わせて履修することにより、高度な職能技術及び専門知識を有し、将来に亘りそれらを自己更新できるデータサイエンス人材の育成を目指す。

本学部の専門科目としては、データサイエンスの学問固有領域と関連分野、そしてデータサイエンスの専門知識を応用分野に展開するための科目を配置している。

数学、計算機科学の基礎的な科目として1年次前期からの必修科目「線形代数学」、「微積分学」、「数学の基礎」等の科目において、データサイエンスを学修するための理論的な基礎づけを行う。それに加え、1年次後期必修科目として、一人一台のPC端末を活用し、計算機を使用した実習を重視することで実践的な職能技術へと発展していく「プログラミング演習」等により基本技術を修得する。

さらに、本学部の特徴である応用統計学にアルゴリズム教育を加え、大規模情報の解析や構造型データ及び非構造型データを融合する統合技術の発展に寄与する人材育成のために必要な基本的専門科目を配置している。主な科目としては、1年次後期からの「統計学」、3年次前期「最適化理論」、3年次後期「機械学習」であり、これらの修得を通じてデータサイエンスの基本的な分野の知識を身に付ける。また、2年次に「PBL演習（ビジネス・サイエンス）」、3年次に「PBL演習（非構造化データ）」といった演習科目を必修科目として配置している。これにより、データサイエンスにおける課題解決の具体的な技法を修得する。

なお、2年次後期から「マーケティングデータ分析」、「医療統計学」等、修得したデータサイエンスに係る知識、技能の社会展開を目指す科目が提供される。自らの関心に応じてこれらの科目を選択した学生は、さらに講義を通じ当該分野とデータサイエンスの関連性について学修を深め、3年次から応用分野の演習である「専門領域演習」を履修し、4年次で個々のテーマを設定し卒業研究を行う。また、これらの演習及び卒業研究では、病院等の医療関係組織、経済・産業界等の協力を得て、コミュニケーション能力の涵養を含め、実践的な教育成果を得ることを目指す。

3. 卒業に必要な単位数

データサイエンス学部では卒業までに、指定された必修科目の修得と、卒業必要単位数に算入される科目を124単位以上（全学開放科目38単位、専門科目74単位、全学開放科目又は専門科目12単位）を修得しなければなりません。

(1) 2023年度以降入学者

科目群	科目	必要単位数	
全学開放科目	YCUリベラルアーツ入門	1	
	教養ゼミ	3	
	Practical English	3	
	情報リテラシー	1	
	総合講義（データサイエンス入門）	2	
	データサイエンス倫理	2	
	総合講義 ※卒業要件となるのは3科目6単位まで	2	
選択	(1)上記を除く【共通教養科目】	24	
	(2)授業科目一覧表に記載のある【全学開放科目】		
全学開放科目又は専門科目	(1)全学開放科目の選択科目のうち、24単位を超えて取得した科目	12	
	(2)専門科目の選択科目のうち、38単位を超えて取得した科目		
専門科目	線形代数学Ⅰ	2	
	線形代数学Ⅱ	2	
	微積分学Ⅰ	2	
	微積分学Ⅱ	2	
	数学実習Ⅰ	1	
	数学実習Ⅱ	1	
	確率入門	2	
	PBL入門	2	
	プログラミング演習Ⅰ	2	
	統計学Ⅰ	2	
	データ解析演習	2	
	PBL演習（ビジネス・サイエンス）	2	
	PBL演習（非構造化データ）	2	
	ゼミ	専門領域演習Ⅰ・専門領域演習Ⅱ	4
		卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	8
選択	上記の必修科目を除く科目	38	
卒業要件単位数（全学開放科目38単位、専門科目74単位、全学開放科目または専門科目12単位）		124	

※1 「統計学Ⅰ」は、2年次以降の科目に必要なデータサイエンスの基礎的な科目であるため、1年次に必ず履修すること。

(2) 2022年度以前入学者

科目群		科 目	必要単位数
全学開放科目	必修	教養ゼミ	4
		Practical English	3
		総合講義 (データサイエンス入門)	2
		情報倫理	2
	必修選択	総合講義 ※卒業要件となるのは3科目6単位まで	2
選択	(1)上記を除く【共通教養科目】 (2)授業科目一覧表に記載のある【全学開放科目】	25	
全学開放科目又は専門科目	選択	(1)全学開放科目の選択科目のうち、25単位を超えて修得した科目 (2)専門科目の選択科目のうち、40単位を超えて修得した科目	12
専門科目	必修	線形代数学Ⅰ	2
		線形代数学Ⅱ	2
		微積分学Ⅰ	2
		微積分学Ⅱ	2
		線形代数学実習Ⅰ	1
		線形代数学実習Ⅱ	1
		集合・位相	2
		情報リメディアル	0
		コンピュータ演習	2
		プログラミング演習Ⅰ	2
		統計の数理Ⅰ	2
		データ解析演習Ⅰ	2
	データ解析演習Ⅱ	2	
	ゼミ	専門領域演習Ⅰ・専門領域演習Ⅱ	4
		卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	8
選択	上記の必修科目を除く科目	40	
卒業要件単位数 (全学開放科目38単位、専門科目74単位、全学開放科目または専門科目12単位)			124

※1 「統計の数理Ⅰ」は、2年次以降の科目に必要なデータサイエンスの基礎的な科目であるため、1年次に必ず履修すること。

4. 進級要件

2023年度以降入学者

判定時の学年	進 級 要 件
1年次から2年次への進級	<ul style="list-style-type: none"> 「教養ゼミ」「統計学Ⅰ」「PBL入門」のうち、いずれか1科目を修得していること 休学期間を除いて1年間在学していること
2年次から3年次への進級	<ul style="list-style-type: none"> 「Practical English」の単位を修得していること 休学期間を除いて2年間在学していること

2022年度以前入学者

判定時の学年	進 級 要 件
1年次から2年次への進級	<ul style="list-style-type: none"> 「教養ゼミ」「統計の数理Ⅰ」「コンピュータ演習」のうち、いずれか1科目を修得していること 休学期間を除いて1年間在学していること
2年次から3年次への進級	<ul style="list-style-type: none"> 「Practical English」の単位を修得していること 休学期間を除いて2年間在学していること

5. 1年次の履修科目（必修）について

2023年度以降入学者

1. 前期

全学開放科目	<ul style="list-style-type: none"> • YCUリベラルアーツ入門 (1単位) • 教養ゼミ (3単位) • Practical English (3単位) • 情報リテラシー (1単位)
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> • 線形代数学 I (2単位) • 微積分学 I (2単位) • 数学実習 I (1単位) • 確率入門 (2単位)

2. 後期

全学開放科目	<ul style="list-style-type: none"> • データサイエンス倫理 (2単位) • 総合講義 (データサイエンス入門) (2単位)
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> • 線形代数学 II (2単位) • 微積分学 II (2単位) • 数学実習 II (1単位) • PBL入門 (2単位) • 統計学 I (2単位) • プログラミング演習 I (2単位)

2022年度以前入学者

1. 前期

全学開放科目	<ul style="list-style-type: none"> • 教養ゼミ (4単位) • Practical English (3単位)
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> • 線形代数学 I (2単位) • 微積分学 I (2単位) • 線形代数学実習 I (1単位) • 集合・位相 (2単位) • 情報リメディアル (0単位)

2. 後期

全学開放科目	<ul style="list-style-type: none"> • 情報倫理 (2単位) • 総合講義 (データサイエンス入門) (2単位)
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> • 線形代数学 II (2単位) • 微積分学 II (2単位) • 線形代数学実習 II (1単位) • コンピュータ演習 (2単位) • 統計の数理 I (2単位)

6. ゼミ配属のルール

ゼミ	配属ルール
専門領域演習Ⅰ	学生に希望調査を実施し、前期前半は2年前期まで、前期後半は2年後期までの必修科目のGPAで成績順に選抜をして配属の振り分けを行う。
専門領域演習Ⅱ*	学生に希望調査を実施し、3年前期までの必修科目のGPAで成績順に選抜をして配属の振り分けを行う。
卒業研究Ⅰ,Ⅱ*	専門領域演習Ⅱの配属ゼミに引き続き所属して卒業研究Ⅰ,Ⅱを履修する。ただし、変更希望先のゼミの定員に空きがある場合は、所定の手続を行った上で、ゼミの変更申請をすることができる。専門領域演習Ⅱから卒業研究Ⅰのタイミングのみ受け付ける。申請方法については、別途お知らせする。

*）前提科目が設定されています。巻末の「科目一覧表／前提科目」を確認してください。

(2023年度以前入学者)

データサイエンス学部では、「専門領域演習Ⅱ」のゼミ配属は原則「専門領域演習Ⅰ」を修得済みであることが条件となります。仮にゼミ配属されなかった場合には、「専門領域演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の履修が1年遅れるため、4年間での卒業ができなくなりますので、注意してください。(留学等で同時履修が認められた場合は除く。)

また、3年次以降は、原則としてゼミの担当教員が「担任」となりますが、ゼミに配属されなかった場合は、学部の指定する教員が担任となります。

(2024年度以降入学者)

『専門領域演習Ⅱ』の履修条件：3年次前期終了時点で、以下を満たすことが条件となります。

- 「専門領域演習Ⅰ」を修得済みであること（留学等で同時履修が認められた場合は除く）。
- 卒業必要単位（124単位）のうち、84単位以上を修得していること（つまり、40単位を修得すれば卒業必要単位を満たす状態）。卒業必要単位数にカウントされない単位は、84単位にはカウントされませんのでご注意ください。

上記、配属条件を満たせなかった等の理由でゼミ配属ができなかった場合は、「専門領域演習Ⅱ」の履修が1年遅れるため、4年間での卒業ができなくなりますので注意してください。

また、3年次以降は、原則としてゼミの担当教員が「担任」となりますが、ゼミに配属されなかった場合は、学部の指定する教員が担任となります。

『卒業研究Ⅰ』の履修条件：3年次後期終了時点で、以下を満たすことが条件となります。

- 卒業必要単位（124単位）のうち、106単位以上を修得していること（つまり、18単位を修得すれば卒業必要単位を満たす状態）。卒業必要単位数にカウントされない単位は、106単位にはカウントされませんのでご注意ください。

7. 大学院科目の早期履修制度

データサイエンス学部では、3年次が修了した時点で卒業要件のうち116単位を修得していると、4年次で大学院データサイエンス研究科博士前期課程開講科目を10単位まで自由科目として履修することが可能です。また、データサイエンス研究科へ進学した場合、この制度で修得した科目の単位認定が可能です。

詳細については、履修前年度の12月下旬頃にお知らせします。

※大学院科目の履修者が早期履修生のみの場合、当該科目は休講となる可能性があります。

8. 卒業論文について

(1) 卒論ゼミの単位について

卒論ゼミの単位は、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の計8単位です。

卒論ゼミの単位は修得したが、その他の卒業必要単位数を満たすことができず、卒業判定で不合格となった場合においては、卒業研究の単位が取り消されることはありません。

(2) 卒業論文の提出について

卒業論文の提出にあたっては、以下の要領に従ってください。提出日時は厳守してください。

提出日時 (予定・別途掲示)	令和9年1月28日(木)10時00分00秒から 29日(金)16時00分00秒まで
提出方法	提出媒体：データ提出 提出場所：YCU-Boardからオンライン提出
提出物	卒業論文・要旨
！！卒業論文を提出するにあたって、以下のルールを必ず守ってください！！	
1. 提出日時は、日本標準時 (UTC+9) とし、YCU-Boardの時刻を基準とします。	
2. 通信環境や機器 (パソコン・プリンタ) の故障、USBやCDのデータ破損、ファイルの消失等を理由とする提出遅延は一切認められません。	
3. 履修ガイドで定める「授業の欠席について」の理由のうち <u>下記に該当</u> して卒業論文を提出できなかった場合のみ、後日提出を認めます。	
(1) 親族の危篤・死亡 (2親等以内)	
(2) 天災、自宅の火災	
(3) 学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症 (例：インフルエンザ、麻疹、おたふくかぜ、新型コロナウイルス感染症等) を発症した場合。(ただし、病状により医師において感染のおそれがないと認めたときを除く。)	
(4) その他、学部長が認めた場合	

上記については変更となる可能性があります。必ずYCU-Boardで確認してください。
卒業論文の形式などについては、指導教員にも必ず確認してください。

(3) 卒業論文の審査基準について

大学ホームページに掲載されています。

【大学ホームページ】 URL : <https://www.yokohama-cu.ac.jp/academics/tt534t000000316t-att/datescience.pdf>



9. データサイエンス人材育成プログラム

(1) 創設の背景・目的

データサイエンス人材育成プログラムは、データからストーリーを紡ぐ「データ思考」を涵養した上で、より良い社会を構築し、データサイエンス研究を牽引する人材を育成することを目的として創設されました。

本プログラムに参加する学生は、データ思考の涵養に置いて、統計学や情報科学の技能のみに重点を置くことなく、データサイエンス人材としての姿勢を常に検討・更新することを心がけながら、人間や社会に対する興味や関心を持ち続け、各分野の課題をデータから数理的・分析的に考える基礎的能力を修得してください。

また、様々な人々と協同して課題解決を図る態度・志向性を有し、社会に貢献することへの高い意識を有するデータサイエンス人材となれるよう意識をもって学修しましょう。

(2) 対象者

データサイエンス学部生（プログラム科目を既に修得しているDS学部生も対象）

(3) プログラム修了までの流れ

- ① プログラムに参加するにあたり、参加申請を行う。
- ② 申請後、プログラムの修了に必要な要件を満たすよう学修する。

(4) オープンバッジについて

修了要件を満たしていることが確認された学生に対しては、大学から修了証が発行されます。

(5) 修了要件

下記の修了要件を①と②をすべて満たした場合に「修了」とする。

- ①〔必修科目〕指定の19科目（38単位）を全て修得すること。
- ②〔選択必修科目〕指定の4科目（8単位）のうち、1科目以上（2単位以上）を修得すること。

(6) 文部科学省 選定

本プログラムは、文部科学省が定める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の認定を受けています。

さらに、独自の工夫や特色のある教育プログラムであることから、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）プラス」の認定を受けています。

（【データサイエンス学部】認定期限：令和9年3月31日まで）



(7) 2023年度以降入学者対象 プログラム科目一覧

科目名	単位	必修	選択	備考
線形代数学Ⅰ	2	○		DS学部必修科目
微積分学Ⅰ	2	○		DS学部必修科目
統計学Ⅰ	2	○		DS学部必修科目
アルゴリズム論	2	○		
多変量データ解析	2	○		
応用統計学Ⅰ	2	○		
プログラミング演習Ⅰ	2	○		DS学部必修科目
総合講義（データサイエンス入門）	2	○		DS学部必修科目
データ解析演習	2	○		DS学部必修科目
データ可視化法	2	○		
ビッグデータ解析	2	○		
データサイエンス倫理	2	○		DS学部必修科目
機械学習	2	○		
プログラミング演習Ⅱ	2	○		
専門領域演習Ⅱ	2	○		DS学部必修科目
線形代数学Ⅱ	2	○		DS学部必修科目
微積分学Ⅱ	2	○		DS学部必修科目
数学の基礎	2	○		
PBL演習（非構造化データ）	2	○		
最適化理論	2		○	選択科目4科目のうち 1科目以上修得
音声言語処理	2		○	
非構造化データ	2		○	
計算機数理	2		○	

※参加申請前に修得済の科目についても、プログラムの対象科目として取り扱います。

2022年度以前入学者対象 プログラム科目一覧

科目名	単位	必修	選択	備考
線形代数学Ⅰ	2	○		DS学部必修科目
微積分学Ⅰ	2	○		DS学部必修科目
統計の数理Ⅰ	2	○		DS学部必修科目
アルゴリズム論	2	○		
非構造化データ	2	○		
計算機数理	2	○		
プログラミング演習Ⅰ	2	○		DS学部必修科目
総合講義（データサイエンス入門）	2	○		DS学部必修科目
データ解析演習Ⅰ	2	○		DS学部必修科目
データ可視化法	2	○		
ビッグデータ解析	2	○		
情報倫理	2	○		DS学部必修科目
機械学習	2	○		
プログラミング演習Ⅱ	2	○		
専門領域演習Ⅱ	2	○		DS学部必修科目
線形代数学Ⅱ	2	○		DS学部必修科目
微積分学Ⅱ	2	○		DS学部必修科目
集合・位相	2	○		DS学部必修科目
データ解析演習Ⅱ	2	○		
最適化理論	2		○	選択科目4科目のうち 1科目以上修得
データマイニング	2		○	
多変量データ解析	2		○	
応用統計学Ⅰ	2		○	

※参加申請前に修得済の科目についても、プログラムの対象科目として取り扱います。

10. 教員一覧

教員氏名	主要担当科目	研究テーマ・講義内容など	連絡先
上田 雅夫	マーケティング分析 I, II	経済・マーケティング (特に、顧客管理、ブランド管理) について、実データとモデルを用いた研究を行う。	m_ueda@yokohama-cu.ac.jp
大西 暁生	環境データ解析論	費用便益分析や環境影響評価など事業に関する評価を空間的な特徴を加味しながら社会・経済・環境の側面から分析する手法を解説する。	onishi@yokohama-cu.ac.jp
岡村 寛	統計学 I, II	環境問題や生物学の問題解決のための統計モデル・機械学習を活用したアプローチの開発。授業では、統計解析ソフトの使い方も含む実践的な講義を行います。	okamura.hir.op@yokohama-cu.ac.jp
尾崎 順一	特講 (データ分析実務)	データに基づく社会・経済現象の数理モデリング。講義は、データの preprocessing からモデル化までの総合実践演習。	ozaki.jun.fe@yokohama-cu.ac.jp
落合 桂一	ビッグデータ解析	人の行動センシングと機械学習によるデータ分析で、人の意思決定支援や社会課題解決を目指す研究。	ochiai.kei.dk@yokohama-cu.ac.jp
北園 淳	情報理論	主な研究テーマは理論神経科学。機械学習・情報理論・数理モデリング等を駆使し、脳の動作原理・情報処理メカニズムの解明に挑む。特に「意識」が中心テーマ。	kitazono.jun.ig@yokohama-cu.ac.jp
金 亜伊	総合講義 (データサイエンス入門)	地震波形や地球内部のデータを対象に、逆問題やスペクトル解析などの物理数学的手法および機械学習を適用し、地震物理の解明と災害軽減を目指す。	ahyik@yokohama-cu.ac.jp
Claudia Gherghel	特講 (心理学データ解析)	助け合いや協力的行動の促進要因、文化的背景が動機づけ・感情・行動に与える影響、学習効果やパフォーマンスを促進する社会的要因に関する研究。	gherghel.claudia@yokohama-cu.ac.jp
越仲 孝文	音声言語処理	広く人間を対象とした、音声、音響、言語等の系列データのパターン認識、機械学習、及び信号処理。	koshinak@yokohama-cu.ac.jp
小屋 良祐	線形代数学	数論的幾何という整数論の一分野の研究を行う。授業は代数関係の科目を担当。	koya@yokohama-cu.ac.jp
佐藤 彰洋	計算機数理 並列分散処理	データ利活用のための人間機械系の設計論の研究。講義内容は、計算機科学の数理的観点及び並列分散処理にまつわるアーキテクチャとアルゴリズム。	ahsato@yokohama-cu.ac.jp
鈴木 雅智	多変量データ解析	多変量解析手法を用いた、都市・経済分野を中心とした社会課題の分析・政策効果の定量化に関する研究。	suzuki.mas.ke@yokohama-cu.ac.jp
田鎖 順太	特講 (社会・環境データの因果モデリング)	環境因子 (特に騒音) が人の健康に及ぼす影響の解明。社会調査により得られたデータに基づき、物理学、神経生理学、公衆衛生学、心理学といった多様な専門領域の知見を統合する。	tagusari.jun.mc@yokohama-cu.ac.jp
竹内 由則	医療統計学	大規模医療情報データを利用した薬剤疫学・臨床疫学研究における統計的因果推論についての方法論研究。	takeuchi.yos.zj@yokohama-cu.ac.jp
土屋 隆裕	調査設計論	統計調査を設計し、調査データを取得するための各種手法の研究。さらに調査データ分析手法に関する研究。	tsuchiya@yokohama-cu.ac.jp
戸田 浩之	最適化理論	機械学習に基づくデータ分析と人の特性に関わる知見の活用による人や社会のモデル化、およびこれらを用いた人や社会をより良い方向に導く技術の研究。	toda.hir.xg@yokohama-cu.ac.jp
富田 誠	統計モデリング	遺伝・疫学・健康保健・臨床分野での統計モデリングを構築した統計解析アプローチや、ヒトに関わる同分野での空間・時空間集積性の研究。	tomitam@yokohama-cu.ac.jp
中村 直俊	特講 (データベース論)	生命科学・医学領域の数理データ解析と手法研究。授業では、機械学習やデータベースの理論を実践に活かす。	nakamura.nao.ms@yokohama-cu.ac.jp
檜作 彰良	非構造化データ	深層学習を用いた医用画像解析、強化学習の知識転移に関する研究。講義では各種データ処理法について解説。	hizukuri.aki.jx@yokohama-cu.ac.jp
藤田 慎也	組合せ論	グラフ理論の基礎的及び応用的研究。グラフ理論は組合せ論の一分野として位置付けられる。授業ではグラフ理論に限らず、組合せ論の幅広いテーマについて解説する。	fujita@yokohama-cu.ac.jp
三澤 計治	特講 (バイオインフォマティクス)	ゲノム解析を中心とした、生物情報解析のアルゴリズムの講義と実践的なプログラムの演習を行います。	misawa.kaz.nx@yokohama-cu.ac.jp
森山 卓	応用統計学 I, II	ノンパラメトリック法の精度改良に関する理論研究や、購買行動や電力消費などの諸現象を記述する統計モデルを開発する応用研究。	moriyama.tak.lu@yokohama-cu.ac.jp
山田 崇史	情報リテラシー	建築、都市、統計データを中心とした人の行動や意識調査・分析、空間行動モデル・シミュレーションの研究。	yamada.tak.fo@yokohama-cu.ac.jp

X 領域横断型プログラムについて

1. プログラム設置の趣旨

本学では学修成果の見える化を目的として、各プログラムを設置しています。各学部の専門分野における特徴的な科目群を設定し、その科目群で指定された科目を履修し、その後プログラムで定められた条件を満たすことによって、大学として修了証を発行します。

これらのプログラムを履修することにより、学生の皆さんにとっては、当該分野の専門知識を身に付けることができると共に、体系だった知識を身に付けたことの証明として大学から修了証を交付しますので、ぜひ積極的に履修してください。

プログラム毎の趣旨や目的、事前申請の可否、修了に必要な条件等については各プログラムの項目を参照してください。

2. プログラム概要

①YCUグローバル・スタディーズ・プログラム〔国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部対象〕

現在、国際言語ともなっている英語での学習を通じ、グローバルな課題を解決したり、多角的にアジア・日本を分析したりすることができる人材を育成するプログラムです。

②リーダーシップ開発プログラム〔国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）対象〕

チーム・組織の目標達成のために各々のメンバーが主体的に行動する、世界標準のリーダーシップの習得を目指すプログラムです。

③医療イノベーション人材育成プログラム〔国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）対象〕

超高齢化社会の日本を支えるために、医療・介護分野でイノベーションを起こし、適切な経営管理を行うことができる医療経営人材を育成するプログラムです。

④医療イノベーション経営管理人材育成プログラム〔国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）対象〕 ※令和6年度より募集停止

⑤起業家育成プログラム〔国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）対象〕

ビジネスプラン作成のスキルを身に付けるとともに、自身のアイデアを実現したいという強いパッションを発露できる人材を育成するプログラムです。

⑥理数マスター育成プログラム〔理学部・データサイエンス学部対象〕

将来の科学技術を担う人材の育成を目指した研究活動支援プログラムです。理数分野の自主研究を主体として、専任教員の指導による能力向上のための体系的な教育を提供します。

⑦ADEPTプログラム〔全学部対象〕

修得した知識・技能を基に、人間中心とした適切な判断ができ、自らの意志でデータやAI技術を有効かつ、安全に活用することができる素養を身につけることを目的としたプログラムです。

※上記①④⑤⑦のプログラム及び地域実践プログラムは、国際総合科学部の学生も対象です。国際総合科学部の学生のプログラム修了要件等については、右記の二次元コードから確認してください。(二次元コードから確認できない場合は、教務担当窓口にお越しください。)



3. プログラム修了までの流れ

- (1) プログラムに参加するにあたり、参加申請を行う。参加申請と修了申請を同時に行うことはできませんので、必ず事前に参加申請を行ってください。
※申請時点で既修得済みの科目は、プログラムによっては対象外として認定されませんので、別途掲示を確認してください。
- (2) 申請後、プログラムの修了に必要な要件を満たすよう学修する。
- (3) プログラムの修了に必要な要件を満たしたら（必要単位数の修得等）、修了申請を行う。
※⑦ADEPTプログラムは修了申請不要。

4. 修了証について

修了申請を受け、修了要件を満たしていることが確認された学生に対しては、大学からプログラムごとに修了証が発行されます。

5. 注意事項

- プログラム参加のための説明会を行いますので、希望者は参加してください。日程や詳細についてはYCU-Board等へ掲示を行います。
- プログラムの修了要件となっている科目の履修は、通常の履修登録と同じ期間内に同じ手順で登録してください。期間外の登録は原則として認められません。
- 各種プログラムは、「学校教育法等の一部を改正する法律（平成19年法律第96号）」等により文部科学省が改正した学校教育法第105条等に定める履修証明プログラムとは異なる制度ですので、注意してください。

6. プログラム参加申請期間（予定）

プログラム名	前期	後期
YCUグローバル・スタディーズ・プログラム	4月下旬頃	10月上旬頃
リーダーシップ開発プログラム		
医療イノベーション人材育成プログラム		
起業家育成プログラム		
ADEPTプログラム		
理数マスター育成プログラム		1年次後期の基礎ゼミ「理数自主研究」を履修登録する

※上記の申請期間は変更になることがありますので、随時YCU-Board等をご確認ください。

7. 各プログラムの紹介

(1) YCUグローバル・スタディーズ・プログラム

〈国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部対象〉

ア 創設の背景・目的

今日、様々なスタイルで国家を越境する問題を見据えると、地球規模課題に挑戦し、実際に問題解決に貢献しうる人材の育成が急務です。この状況を受けて、本学では国際都市横浜の社会インフラとして、地球規模課題の解決に果敢に挑戦する意欲と知識を持った人材、また日本とアジア地域に精通し、日本について多角的かつ正確に世界へ発信できる人材を育成すべく本プログラムを創設しました。

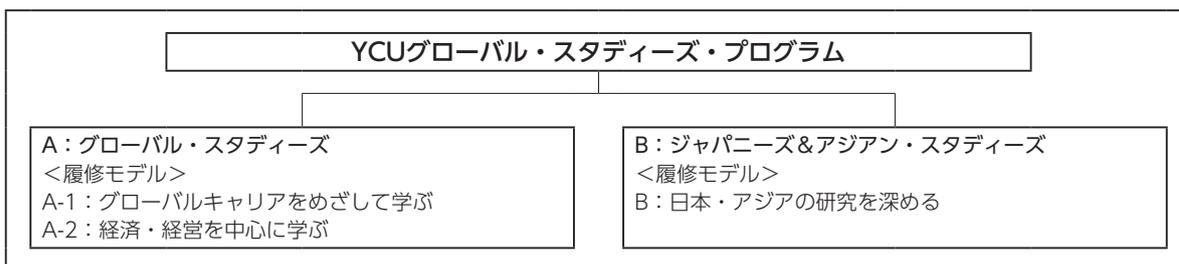
イ 履修対象者の所属・学年

- 交換留学生：問わない
- 本学学生（正規外国人学生を含む）：配当年次に従って履修する。

ウ プログラム・ポリシー

日本・アジア研究関連科目と共に、幅広く用意されたグローバル・スタディーズ関連科目を英語で学習します。さらに、海外調査実習等を組み合わせて、地球規模課題に対する理論と実践を深めることで、グローバルな課題解決力を身に付けた人材を養成します。

エ プログラムの構成イメージ図



国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）

● ポリシーに基づいたカリキュラムの体系化（修了要件：交換留学生／20単位以上、本学学生／16単位以上）

A：グローバル・スタディーズ							
科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考	
基盤科目	留学生：4単位推奨	PBLL105	課題探究科目 (Japanese Globalization Comparative Context)	全学開放科目	1～4年次		
		PBLL119	課題探究科目 (History of Modern Japan)				
コア科目	16単位以上	SEML111	多文化交流ゼミ (現代アジア・太平洋地域事情)	全学開放科目		2～4年次	
		SEML112	多文化交流ゼミ (横浜のなかにある外国人コミュニティ)				
		SEML113	多文化交流ゼミ (外国人の日本研究)				
		SEML114	多文化交流ゼミ (世界で報道される日本)				
		SEML115	多文化交流ゼミ (Comparing Education in the World)				
		SEML116	多文化交流ゼミ (Japan From Foreigner's View) a				
			多文化交流ゼミ (Japan From Foreigner's View) b				
		SEML117	多文化交流ゼミ (Global Communications)				
		CLEL101	総合講義 (Education in the World)				
		PSYL103	Introduction to Psychology				
		PSYL131	Topics in Modern Psychopathology				
		CULA341	European Culture in English				
		INTA292	International Cooperation in Urban Development				
INTA211	グローバル政治論						
INTA212	特講 (Global Economics Theory)						
DEVA201	国際協力論						
PUPA231	グローバル公共政策論						

A : グローバル・スタディーズ							
科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考	
コア 科目	16単位以上	INTA213	国際機構論	全学開放科目	2~4年次		
		INTA214	国際関係論				
		ILWA301	国際法I				
		ILWA302	国際法II				
		INTA303	Global Issues				
		DEVA202	Learning Global Cooperation in English				
		AREA271	海外調査実習(国際機関)/海外調査実習(国際協力)				
		BUSC374	Global Human Resource Development				
		BUSC375	Global Marketing			3~4年次	
		BUSC373	Global Leadership			2~4年次	
		BUSC222	Global Business Strategy		3~4年次		
		BUSC223	Global Innovation Management				
		BUSC224	Global Business Administration				
		BUSC225	Global Organization Theory		2~4年次		
		BUSC376	Global Service Management				
		BUSC377	International Business				
		BUSC379	Japanese Industry				
		ACCC323	Basics of Corporate Analysis and Valuation		3~4年次		
		ACCC206	Introductory Accounting I				
		ACCC207	Introductory Accounting II		2~4年次		
		ACCC208	Intermediate Accounting				
		ACCC209	Introduction to IFRSs		3~4年次		
		ECOC249	Japanese Economy				
		INTA290	特講 (Technology and Society)		2~4年次		
		INTA395	特講 (History of International Relations)				
		INTA396	特講 (Globalization and International Economics)				
		LINL111	英語学入門A		1~4年次		
		DEVA292	Japan and International Cooperation				
		INTA295	日本外交論		2~4年次		
		-	演習I~III			ギミール先生の担当のみ	
		-	卒論演習I、II		4年次	ギミール先生の担当のみ	
		-	卒業論文			ギミール先生の担当のみ	
		CULL131	英米文化理解A		1~4年次	Practical English合格者対象 Abは2年生以上対象	
		CULL132	英米文化理解B				
		LINA201	言語学		国際教養学部 専門科目	2~4年次	
		LINA203	音声学				
		LITA301	British Literature in English				
		LITA302	American Literature in English				
		LITA334	Explication of American Literary Text A				
		LITA335	Explication of American Literary Text B				
		LITA346	Elements of Fiction				
		CULA341	European Culture in English				
		LINA391	特講 (Language Education in Asia)				
		LINA392	特講 (Practice in Language Education)				
		SOCA391	特講 (Japanese Pragmatics)				
		SOCA392	特講 (Language in Japanese Society)				
		INTA311	特講 (Peace Studies)				
		BUSC310	リスクマネジメント論				3~4年次
		ECOC205	ゲーム理論				2~4年次
		ECOC399	Advanced Topics in Economics				3~4年次
ECOC309	特講 (Topics in Macroeconomics)		3年次推奨				
ECOC491	特講 (Economic Analysis I)	2~4年次	3年次推奨				
ECOC492	特講 (Economic Analysis II)		3年次推奨				
ECOC493	特講 (Economic Analysis III)	3~4年次					
ECOC291	特講 (Topics in Economics A)	国際商学部 専門科目	2~4年次				
ECOC292	特講 (Topics in Economics B)						
ECOC293	特講 (Topics in Economics C)						
ECOC294	特講 (Topics in Economics D)						
BUSC380	特講 (Global Management in Japanese Companies)						
ACCC298	特講 (Topics in Accounting A)						
ACCC299	特講 (Topics in Accounting B)						
EBAC202	サマープログラム						

文
領域横断型プログラムについて
国際教養学部・国際商学部・理学部・
データサイエンス学部・国際総合科学部

データサイエンス学部 (2022年度以前入学者)

●ポリシーに基づいたカリキュラムの体系化 (修了要件: 交換留学生/20単位以上、本学学生/16単位以上)

A: グローバル・スタディーズ						
科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考
基盤科目	留学生: 4単位推奨	PBL105	課題探究科目 (Japanese Globalization Comparative Context)	共通教養	1~4年次	
		PBL119	課題探究科目 (History of Modern Japan)			
コア科目	16単位以上	PBL104	課題探究科目 (Risk Management)			
		SEM111	多文化交流ゼミ (現代アジア・太平洋地域事情)			
		SEM112	多文化交流ゼミ (横浜のなかにある外国人コミュニティ)			
		SEM113	多文化交流ゼミ (外国人の日本研究)			
		SEM114	多文化交流ゼミ (世界で報道される日本)			
		SEM115	多文化交流ゼミ (Comparing Education in the World)			
		SEM116	多文化交流ゼミ (Japan From Foreigner's View) a			
			多文化交流ゼミ (Japan From Foreigner's View) b			
		SEM117	多文化交流ゼミ (Global Communications)			
		CLE101	総合講義 (Education in the World)			
		PSY103	Introduction to Psychology			
		PSY131	Topics in Modern Psychopathology			
		ENV391	特講 (Sustainable Urban Development)			まちづくり

国際教養学部・国際商学部・理学部

●ポリシーに基づいたカリキュラムの体系化（修了要件：交換留学生／20単位以上、本学学生／16単位以上）

B：ジャパニーズ&アジアン・スタディーズ						
科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考
基盤科目	留学生： 2単位推奨	PBLL105	課題探究科目 (Japanese Globalization Comparative Context)	全学開放科目	1～4年次	
		PBLL119	課題探究科目 (History of Modern Japan)			
	交換留学生基盤選 択科目：2単位	SPCL105	日本語入門I	全学開放科目		
		SPCL106	日本語入門II			
コア科目	16単位以上	SEML111	多文化交流ゼミ (現代アジア・太平洋地域事情)	全学開放科目		
		SEML112	多文化交流ゼミ (横浜のなかにある外国人コミュニティ)			
		SEML113	多文化交流ゼミ (外国人の日本研究)			
		SEML114	多文化交流ゼミ (世界で報道される日本)			
		SEML115	多文化交流ゼミ (Comparing Education in the World)			
		SEML116	多文化交流ゼミ (Japan From Foreigner's View) a			
			多文化交流ゼミ (Japan From Foreigner's View) b			
		SEML117	多文化交流ゼミ (Global Communications)			
		LITA344	翻訳文化論A	国際教養学部 専門科目		2～4年次
		LITA345	翻訳文化論B			
		INTA292	International Cooperation in Urban Development			
		INTA211	グローバル政治論			
		BUSC374	Global Human Resource Development			
		BUSC379	Japanese Industry			
		ECOC249	Japanese Economy			
		LITA312	Japanese Literature in English			
		DEVA292	Japan and International Cooperation			
		INTA295	日本外交論			
HISA391	特講 (Religions in Japanese Culture)					
LINA391	特講 (Language Education in Asia)					
SOCA391	特講 (Japanese Pragmatics)					
SOCA392	特講 (Language in Japanese Society)					

データサイエンス学部

●ポリシーに基づいたカリキュラムの体系化（修了要件：交換留学生／20単位以上、本学学生／16単位以上）

B：ジャパニーズ&アジアン・スタディーズ						
科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考
基盤科目	留学生： 2単位推奨	PBL105	課題探究科目 (Japanese Globalization Comparative Context)	共通教養	1～4年次	
		PBL119	課題探究科目 (History of Modern Japan)			
コア科目	16単位以上	SEM111	多文化交流ゼミ (現代アジア・太平洋地域事情)	共通教養		
		SEM112	多文化交流ゼミ (横浜のなかにある外国人コミュニティ)			
		SEM113	多文化交流ゼミ (外国人の日本研究)			
		SEM114	多文化交流ゼミ (世界で報道される日本)			
		SEM115	多文化交流ゼミ (Comparing Education in the World)			
		SEM116	多文化交流ゼミ (Japan From Foreigner's View) a			
			多文化交流ゼミ (Japan From Foreigner's View) b			
		SEM117	多文化交流ゼミ (Global Communications)			
ENV391	特講 (Sustainable Urban Development)	まちづくり	2～4年次			

※科目名は2023年度以降入学者カリキュラムに合わせた表記になっています。

文
領
域
横
断
型
プ
ロ
グ
ラ
ム
に
つ
い
て
・
国
際
教
養
学
部
・
国
際
商
学
部
・
理
学
部
・
デ
ィ
タ
サイ
エ
ン
ス
学
部
・
国
際
総
合
科
学
部

(2) リーダーシップ開発プログラム

<国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部 (2023年度以降入学者) 対象>

ア 創設の背景・目的

本プログラムの目的は、チームの中で必須とされる世界標準のリーダーシップスキルの習得を目指すことにあります。世界標準のリーダーシップとは権限によらず、チーム・組織の目標達成のために各々のメンバーが主体的に行動するスキルを指します。

とりわけ本プログラムで主眼を置く目標は、①学術的体系にもとづいてリーダーシップスキルを「身に付ける」こと、②各メンバーが専門性を持ち、エビデンスにもとづきながらチームにおけるデータ解釈力、合意形成力を「身に付ける」ことを目指します。

①に関しては、経営学の研究者によって蓄積されてきた組織を望ましい方向に導くリーダーシップ行動はどのようなものなのかを「知る」リーダーシップ論を超えて、実際にそのようなリーダーシップスキルを「身に付ける」ことに重きを置いたリーダーシップ開発となる点が特徴です。

②に関しては、データ分析によって得られた結果やエビデンスをチーム組織の中で他のメンバーとともに解釈して意思決定するスキル、チームとして合意形成を導くスキルを養成するのが特徴です。定量的な数字やデータをもとに意思決定するスキルは必須となっていますが、重要なのは、各チームのメンバーの専門性やバックグラウンドが異なる中においても、データにもとづきながら、そうした多様性をチームに活かしていくリーダーシップです。

組織やチームとして人と関わる中で、語学ができるだけ、専門スキルを持っているだけの人材を超えて、これらのスキルを活かし、組織やチーム目標に架橋する人材を育成します。

イ 将来に役立つ具体的なイメージ

産業界はもとより、国や地方自治体などの行政機関、NGO・NPOなどの非営利組織、その他ありとあらゆる組織で、国や時代を超えた普遍的かつ必須のスキルがリーダーシップです。たとえフリーランスのような独立事業者であっても、人と関わることなく仕事を行うことはないでしょう。

その意味で、将来、どこで、どのような仕事をするにしても、組織・チームにポジティブな影響を与え、組織目標に貢献する人材に必須のリーダーシップスキルを身に付けます。

ウ その他

世界標準のリーダーシップを身に付けることによって、海外インターンシップや海外留学などグローバルな教育プログラムの受講に役立ちます。

【リーダーシップ開発プログラム科目一覧】

修了要件：①基盤科目2科目（GHRDは必修）、②基礎科目3科目以上（選択）、③関連科目5科目以上（選択） ※申請前に履修済みの科目は追認。

科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考
基盤科目	2科目以上 (GHRDは必修, それ以外選択)	BUSC374	Global Human Resource Development (GHRD)	全学開放	2～4年次	
		BUSC373	Global Leadership		2～4年次	
		EBAC203	インターンシップ実習		3～4年次	
		EBAC202	サマープログラム	国際商学部専門科目	2～4年次	
基礎科目	3科目以上	BUSL101	経営学入門Ⅰ	全学開放	1～4年次	
		BUSL102	経営学入門Ⅱ		1～4年次	
		PBLL185	課題探求科目（データサイエンス・リテラシー1）		1～4年次	
		PBLL186	課題探求科目（データサイエンス・リテラシー2）		1～4年次	
		ECOL111	ビジネス統計Ⅰ		1～4年次	
		ECOL112	ビジネス統計Ⅱ		1～4年次	
		PCDL111	キャリア形成実習（キャリアデザイン）		1～4年次	
関連科目	5科目以上	BUSC225	Global Organization Theory	全学開放	2～4年次	
		BUSC376	Global Service Management		2～4年次	
		BUSC215	サービスビジネス論Ⅰ		2～4年次	
		BUSC216	サービスビジネス論Ⅱ		3～4年次	
		BUSC308	組織行動論	国際商学部 専門科目	3～4年次	
		BUSC207	経営組織論		2～4年次	
		BUSC212	人的資源管理論		3～4年次	
		BUSC211	経営労務		2～4年次	
		BUSC307	組織文化論		3～4年次	
		ECOC211	経済統計Ⅰ	全学開放	2～4年次	
		ECOC212	経済統計Ⅱ		2～4年次	
		ACCC311	管理会計論	国際商学部専門科目	3～4年次	
		ACCC221	財務諸表分析Ⅰ	全学開放	2～4年次	
		ACCC222	財務諸表分析Ⅱ		2～4年次	
		BUSC310	リスクマネジメント論	国際商学部 専門科目	3～4年次	
		EBAC204	企画立案型実習A		2～4年次	
		EBAC302	企画立案型実習B		3～4年次	
		EBAC303	文理融合型実習A		3～4年次	
		EBAC304	文理融合型実習B		3～4年次	
		BUSC291	特講（国際商学部留学科目A）		2～4年次	
BUSC292	特講（国際商学部留学科目B）	2～4年次				

(3) 医療イノベーション人材育成プログラム

〈国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）対象〉

ア 創設の背景・目的

日本では世界で最も高齢化が進み、少子化も加速する中で、産業振興や地域活性化という観点からも、医療の役割・重要性が増大しています。医療に関係する事業ではDXやデータ活用に基づくイノベーションが加速しており、医療に関する事業を適切に経営管理できる人材が必要とされています。また、大学にとどまらず、企業等で研究成果を活用できる人材、医療領域で事業を展開する大企業で新たな事業を開発できる人材、あるいはベンチャー企業の創業をめざすために産業界を巻き込んだ資金の獲得や研究成果を理解し、活用することができる人材が社会から求められています。

本プログラムでは、横浜市立大学の強みである「商学×医学×データサイエンス」分野を展開し、医療分野でDXやデータ活用に基づいて新たな価値を生み出せる人材を育成します。これまで大学における研究成果の活用にあたっては、主に研究組織において研究資源の導入促進、研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進を行って、研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える業務に従事するURA（University Research Administrator）人材の育成が進められてきました。しかし、さらに研究成果を活用したイノベーションを起こすためには、産官学のセクターを超えて共創し、新しい価値を生み出せる人材（ビヨンドURA人材）が必要となります。

本プログラムは、医療及びデータ活用を基礎とし、超高齢社会の日本の医療分野を支える医療経営および研究成果を活用し新たな価値を生み出せる専門人材を育成することを目指します。この目的と趣旨に特に関連づけられる科目群を一定数履修することによって、「医療イノベーション人材育成プログラム」修了証を授与します。

イ 将来に役立つ具体的なイメージ

次のような仕事を希望する学生には有用ですので、ぜひ積極的に科目を履修してください。

- ①医療領域の経営に関心のある学生【病院・介護施設の幹部候補】
- ②研究成果を活用しベンチャー企業の創業をめざす学生【医療事業等で新事業創造をめざす者】
- ③研究成果を活用し産学連携等により事業開発を行う学生【大学・企業で研究成果を活用し、新事業を作る者】

ウ 人材像—このような人材になることができます—

- ①医療・介護の制度的知識および研究成果を踏まえて企画立案することができる。
- ②医療イノベーションや経営に関する幅広い知識を有しており、他者に説明することができる。
- ③データと証拠をもとに議論することができる。

【医療イノベーション人材育成プログラム科目一覧】

修了要件：①基盤科目3科目以上、②基礎科目3科目以上、③関連科目3科目以上 ※申請前に履修済の科目は追認。

科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考
基盤科目	3科目以上	EBAC304	文理融合型実習B（医療連携）	全学開放科目	3～4年次	
		BUSC309	医療経営論		2～4年次	
		ECOC343	医療経済学		3～4年次	
		ACCC392/ACCA394	公会計論（国際商/理）/非営利組織論（国際教養）		2～4年次	
		EBAC203	インターンシップ実習（国際商/全学開放）		3～4年次	※1※3
		PCDL213	キャリア形成実習（キャリア教育プログラム）		2～4年次	※2※3
基礎科目	3科目以上	LAWC227	特講（寄附講座：知的財産マネジメント）	全学開放科目	2～4年次	
		EBAC305/EBAC301	アントレプレナーシップ実践論/起業プランニング論		3～4年次	
		ACCC261	医療イノベーション経営管理論		2～4年次	
		BUSC297	特講（寄附講座：医療経営戦略論）		2～4年次	
		ECOC243	医療政策学		2～4年次	
		ECOC205	ゲーム理論		2～4年次	
		ECOC378	特講（経済とデータサイエンス）		2～4年次	
		DAT214	統計モデリングI		2～4年次	
		DAT312	統計モデリングII		3～4年次	

科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考
関連科目	3科目以上	CLEL131	総合講義（企業家に学ぶ）	全学開放科目	1～4年次	
		BUSL101	経営学入門Ⅰ		1～4年次	
		BUSL102	経営学入門Ⅱ		1～4年次	
		ECOL101	経済学入門Ⅰ		1～4年次	
		ECOL105	ゲーム理論入門（戦略的思考入門）		1～4年次	
		ECOL111	ビジネス統計Ⅰ		1～4年次	
		ECOL112	ビジネス統計Ⅱ		1～4年次	
		ICTL115	DSリテラシー		1～4年次	
		ACCC221	財務諸表分析Ⅰ		2～4年次	
		ACCC222	財務諸表分析Ⅱ		2～4年次	
		BUSC215	サービスビジネス論Ⅰ		2～4年次	
		BUSC216	サービスビジネス論Ⅱ		2～4年次	
		BUSC213	マーケティング論		2～4年次	
		ECOC211	経済統計Ⅰ		2～4年次	
		ECOC212	経済統計Ⅱ		2～4年次	
		BUSC301	経営財務論		3～4年次	
		BUSC302	コーポレート・ファイナンス		3～4年次	
		BUSC204	ベンチャービジネス論		3～4年次	
		ECOC311	計量経済学Ⅰ		3～4年次	
		ECOC312	計量経済学Ⅱ		3～4年次	

- ※1 aまたはbの制限なし
- ※2 夏または冬・春の制限なし
- ※3 医療関連の企業や、ベンチャー企業、事業開発に関わるもの

(4) 医療イノベーション経営管理人材育成プログラム ※令和6年度より募集停止

〈国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）対象〉

ア 創設の背景・目的

日本では世界で最も高齢化が進み、少子化も加速する中で、経済性や質の向上、あるいは地域活性化という観点から、医療機関や介護事業の役割・重要性が増大しています。医療機関や介護事業でイノベーションが必要とされており、医療・介護ベンチャー企業としての創業、地域の医療機関や介護事業をつなぎ地域を守る行政の幹部候補となる職員、医療機関や介護事業で経営管理を行うことができる幹部候補・経営管理人材が必要とされています。

本プログラムは超高齢社会の日本の医療・介護分野を支える医療経営の専門人材を育成することを目指します。この目的と趣旨に特に関連づけられる科目群を一定数履修することによって、「医療イノベーション経営管理人材育成プログラム」修了証を授与します。

イ 将来に役立つ具体的なイメージ

次のような仕事を希望する学生には有用ですので、ぜひ積極的に科目を履修してください。

- ①行政職員をめざす学生【医療局や健康福祉局の担当者・幹部候補】
- ②経営戦略・経営管理や、医療機関・介護事業に関心のある学生【病院・介護施設の幹部候補】
- ③ベンチャー企業の創業をめざす学生【医療・介護事業等で独立開業をめざす者】

ウ 人材像—このような人材になることができます—

- ①医療・介護の制度的知識を踏まえて企画立案することができる。
- ②医療イノベーションや経営管理に関する幅広い知識を有しており、他者に説明することができる。
- ③組織を経営分析し、証拠に基づいて実態を説明することができる。

【医療イノベーション経営管理人材育成プログラム科目一覧】※入学年度によって修了要件が異なります。

修了要件：①基盤科目2科目以上、②基礎科目3科目以上、③関連科目3科目以上 ※申請前に単位修得した「基礎科目」のみ追認。

2023年度入学者

科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考	
基盤科目	2科目以上	ACCC261	医療イノベーション経営管理論	全学開放科目	2～4年次		
		BUSC309	医療経営論		2～4年次		
		ACCC392/ ACCA394	公会計論 (国際商/理)/非営利組織論 (国際教養)		2～4年次		
		PCDX211	キャリア形成実習 (インターンシップ)		3～4年次	病院・介護施設関係	
		ECOC243	医療政策学		2～4年次		
		ECOC343	医療経済学		3～4年次		
基礎科目	3科目以上	CLEL131	総合講義 (企業家に学ぶ)	全学開放科目	1～4年次		
		CLEL154	総合講義 (まちづくり学入門)		1～4年次		
		CLEL191	総合講義 (医療と社会)		1～4年次		
		ICTL115	DSリテラシー		1～4年次		
		ECOL101	経済学入門Ⅰ		1～4年次		
		ECOL102	経済学入門Ⅱ		1～4年次		
		BUSL101	経営学入門Ⅰ		1～4年次		
		BUSL102	経営学入門Ⅱ		1～4年次		
関連科目	3科目以上	ECOL105	ゲーム理論入門 (戦略的思考入門)	全学開放科目	1～4年次		
		PUPA211	都市財政論		2～4年次		
		BUSL103	経営管理論		1～4年次		
		BUSC204	ベンチャービジネス論		3～4年次		
		ECOC201	ミクロ経済学Ⅰ		2～4年次		
		ECOC202	ミクロ経済学Ⅱ		2～4年次		
		ECOC211	経済統計Ⅰ		2～4年次		
		ECOC212	経済統計Ⅱ		2～4年次		
		ACCC221	財務諸表分析Ⅰ		2～4年次		
		ACCC222	財務諸表分析Ⅱ		2～4年次		
		ECOC223	財政学Ⅰ		3～4年次		
		ECOC224	財政学Ⅱ		3～4年次		
		ECOC322	公共経済学		3～4年次		
		BUSC297	特講 (寄附講座：医療経営戦略論)		2～4年次		
		BUSC215	サービス・ビジネス論Ⅰ		全学開放科目	2～4年次	
		BUSC216	サービス・ビジネス論Ⅱ			3～4年次	
		BUSC217	経営情報論			2～4年次	
		SOCA231	社会福祉論		国際教養学部専門科目	2～4年次	
		ECOC332	地理情報システム論		国際商学部 専門科目	3～4年次	
		BUSC205	経営戦略論			2～4年次	
		BUSC206	企業戦略論			3～4年次	
		BUSC211	経営労務			2～4年次	
BUSC212	人的資源管理論	3～4年次					
ACCC311	管理会計論	3～4年次					
ECOC325	社会保障論	3～4年次					
ECOC323	地方財政学	3～4年次					
		2科目を超えて修得した基盤科目					

X領域横断型プログラムについて
 国際教養学部・国際商学部・理学部・
 データサイエンス学部・国際総合科学部

2022年度以前入学者

科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考	
基盤科目	2科目以上 ただし、医療イノベーション経営管理論、医療経営管理論、公会計論(国際商/理)/非営利組織論(国際教養)のうち1科目は履修すること	ACCC261	医療イノベーション経営管理論	全学開放科目	2~4年次		
		BUSC309	医療経営論		2~4年次		
		ACCC392/ACCA394	公会計論(国際商/理)/非営利組織論(国際教養)		2~4年次		
		PCDX211	キャリア形成実習(インターンシップ)		3~4年次	病院・介護施設関係	
		ECOC243	医療政策学		2~4年次	令和5年度から対象科目に追加	
		ECOC343	医療経済学		3~4年次	令和5年度から対象科目に追加	
		ECOC332	地理情報システム論		国際商学部専門科目	3~4年次	
基礎科目	3科目以上	CLEL131	総合講義(企業家に学ぶ)	全学開放科目	1~4年次		
		CLEL154	総合講義(まちづくり学入門)		1~4年次		
		CLEL191	総合講義(医療と社会)		1~4年次		
		ICTL114	データ分析基礎		1~4年次		
		ECOL101	経済学入門I		1~4年次		
		ECOL102	経済学入門II		1~4年次		
		BUSL101	経営学入門I		1~4年次		
		BUSL102	経営学入門II		1~4年次		
		ECOL105	ゲーム理論入門(戦略的思考入門)		1~4年次		
			2科目を超えて修得した基礎科目				
関連科目	3科目以上	PUPA211	都市財政論	全学開放科目	2~4年次		
		BUSL103	経営管理論		1~4年次		
		BUSC204	ベンチャービジネス論		3~4年次		
		ECOC201	ミクロ経済学I		2~4年次		
		ECOC202	ミクロ経済学II		2~4年次		
		ECOC211	経済統計I		2~4年次		
		ECOC212	経済統計II		2~4年次		
		ACCC221	財務諸表分析I		2~4年次		
		ACCC222	財務諸表分析II		2~4年次		
		ECOC223	財政学I		3~4年次		
		ECOC224	財政学II		3~4年次		
		ECOC322	公共経済学		3~4年次		
		BUSC297	特講(寄附講座:医療経営戦略論)		2~4年次		
		BUSC215	サービス・ビジネス論I		2~4年次	令和5年度から対象科目に追加	
		BUSC216	サービス・ビジネス論II		3~4年次	令和5年度から対象科目に追加	
		BUSC217	経営情報論		2~4年次	令和5年度から対象科目に追加	
		SOCA231	社会福祉論		国際教養学部専門科目	2~4年次	
		BUSC205	経営戦略論		国際商学部 専門科目	2~4年次	
		BUSC206	企業戦略論			3~4年次	
		BUSC211	経営労務			2~4年次	
		BUSC212	人的資源管理論			3~4年次	
		ACCC311	管理会計論			3~4年次	
		ECOC325	社会保障論			3~4年次	
ECOC323	地方財政学	3~4年次					
	3科目を超えて修得した基礎科目						

文
領
域
横
断
型
プ
ロ
グ
ラ
ム
に
つ
い
て
・
国
際
教
養
学
部
・
国
際
商
学
部
・
理
学
部
・
テ
レ
ビ
シ
ン
テ
シ
ス
学
部
・
国
際
総
合
科
学
部

(5) 起業家育成プログラム

〈国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部（2023年度以降入学者）対象〉

ア 創設の背景・目的

起業の意義として、①経済の新陳代謝を活発とし、②イノベーティブな技術やビジネスモデルが市場に投入され、③経済成長の担い手として成長力の高い企業が誕生するといったことが挙げられます。このような意義を有する起業に興味のある学生の背中を後押しするプログラムです。ビジネスプラン作成のスキルを身に付けると共に、自身のアイデアを実現したいという強いパッションを発露できる人材を育成します。

そのほかにも、勤務先で新規に事業を立ち上げる際に必要なスキルを身に付けたいという学生や、金融機関に就職し、起業家の支援を行いたいと考えている学生にも、起業のプロセスを身に付けていることは有益です。

イ 将来に役立つ具体的なイメージ

- ①起業のためのビジネスプランの構想から計画書の作成までをマスターできる。
- ②資金提供者に自身のパッションをどのように伝えたらよいかマスターできる。
- ③一般企業に就職後、勤務先で新規企業の立案に関与できる。
- ④金融機関に就職後、起業家支援の際に必要なスキルを提供できる。

ウ 人材像—このような人材になることができます—

- ①現代社会での起業の意義を理解し、主体的にゼロからイチを生み出す起業家精神を持つ人材。
- ②スタートアップエコシステムの全貌を理解し、起業家を支えるCFO（Chief Financial Officer）や、ベンチャーキャピタリストやアクセラレーターのような支援者としての基礎的素養を持つ人材。

【起業家育成プログラム科目一覧】

修了要件：①基盤科目2科目、②基礎科目5科目以上、③応用科目8科目以上 ※申請前に履修済みの科目は追認。

科目	修了要件	科目コード	科目名	科目種別	受講可能年次	備考	
基盤科目	2科目	EBAC205/ EBAC201	アントレプレナーシップ論 (履修年度：2024年度以降)/ 起業家人材論 (履修年度：2023年度まで)	全学開放科目	2～4年次	アントレプレナーの語りを素材にしたケースとそれに対応する理論、概念を学習することで、受講生は自らのアントレプレナーシップの初歩をイメージする。	
		EBAC305/ EBAC301	アントレプレナーシップ実践論 (履修年度：2025年度以降)/ 起業プランニング論 (履修年度：2024年度まで)		3～4年次	受講生が自らの関心に基づいたプロジェクトを立ち上げ、継続するための方法論を学習する。ビジネスプランコンテストへの出場推奨。	
基礎科目	5科目以上	CLEL131	総合講義 (企業家に学ぶ)	全学開放科目	1～4年次	企業経営者による講話等による意識づけ	
		BUSL101	経営学入門I		1～4年次		
		BUSL102	経営学入門II		1～4年次		
		ACCL101	簿記入門I		1～4年次		
		ACCL102	簿記入門II		1～4年次		
		ECOL101	経済学入門I		1～4年次		
		ECOL102	経済学入門II		1～4年次		
		BUSC204	ベンチャービジネス論		3～4年次		
応用科目	8科目以上	BUSC375	Global Marketing	全学開放科目	3～4年次	マネジメントの基礎知識	
		BUSC373	Global Leadership		2～4年次		
		BUSC222	Global Business Strategy		2～4年次		
		BUSC223	Global Innovation Management		3～4年次		
		BUSC224	Global Business Administration		2～4年次		
		BUSC225	Global Organization Theory		2～4年次		
		ACCC206	Introductory Accounting I		2～4年次		
		ACCC207	Introductory Accounting II		2～4年次		
		ACCC208	Intermediate Accounting		2～4年次		
		ACCC209	Introduction to IFRSs		3～4年次		
		ACCC323	Basics of Corporate Analysis and Valuation		3～4年次		
		BUSL103	経営管理論		1～4年次		
		ACCC221	財務諸表分析I		2～4年次		
		ACCC222	財務諸表分析II		2～4年次		
		BUSC301	経営財務論		3～4年次		
		BUSC213	マーケティング論		2～4年次		
		BUSC306	消費者行動論		3～4年次		
		EBAC204	企画立案型実習A		国際商学部 専門科目		2～4年次
		EBAC302	企画立案型実習B				3～4年次
		BUSC205	経営戦略論				2～4年次
BUSC206	企業戦略論	3～4年次					
BUSC212	人的資源管理論	3～4年次					
BUSC304	イノベーション・マネジメント	3～4年次					
BUSC221	中小企業論	3～4年次					

エ その他

本学の教員のほかに、企業コンサルタント、会計士、起業家等がメンターとして皆さんに起業家として必要なマインドの涵養やビジネスプランのブラッシュアップをサポートします。また、学修の仕上げとして、みなさんのビジネスプランを学内外の起業プランコンテストに応募してもらいたいと思います。

文
領
域
横
断
型
プ
ロ
グ
ラ
ム
に
つ
い
て
・
国
際
教
養
学
部
・
国
際
商
学
部
・
理
学
部
・
デ
ィ
タ
サイ
エ
ン
ス
学
部
・
国
際
総
合
科
学
部

(6) 理数マスター育成プログラム

〈理学部・データサイエンス学部対象〉

ア 創設の背景・目的

本プログラムは、高い研究意欲を持つ希望者を対象に、プログラム受入から研究室配属、大学院進学に至る長期的なスパンでの研究活動を支援することにより、将来の科学技術を担う人材育成を目指し設置しました。

理数分野の自主研究を主体としながら、専任教員の指導による能力向上のための体系的な教育を提供します。

指導教員と密に連絡を取りながら研究活動を行い、進捗報告・研究発表会にて成果報告を行うとともに、年間の取り組みを通して本プログラム参加学生同士の交流を深めます。

プログラムの詳細は、オリエンテーションやプログラム説明会で説明しますので、参加希望者は必ず出席してください。

イ 活動内容

学年	1年次		2年次		3年次		4年次	
学年取組み	前期	オリエンテーション、キックオフ 基礎ゼミ履修 自主研究テーマ決定	前期	理数自主研究Ⅰ	前期	自主研究 理数自主研究Ⅲ 研究室配属	前期	早期履修 卒業研究
	後期	自主研究開始	後期	理数自主研究Ⅱ 自主研究	後期	卒業研究 早期履修申請	後期	大学院入試 修了
年間の取組み	キャンパス見学会、交流会、オープンキャンパス、進捗状況報告、学内発表会など							

ウ 自主研究の流れ及び活動継続要件

1年前期	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション、説明会の参加 基礎ゼミ「理数自主研究」申請によりプログラム参加申込
1年後期	<ul style="list-style-type: none"> 基礎ゼミ「理数自主研究」において自主研究テーマの決定 自主研究活動の開始 <p>※プログラム参加継続要件</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)基礎ゼミ「理数自主研究」の単位取得 (2)2年次への進級
2年～3年	<ul style="list-style-type: none"> 「理数自主研究Ⅰ～Ⅲ」の単位取得 自主研究活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> 研究室配属、卒業研究活動の実施 <p>※プログラム参加継続要件</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)2年次の4月末までに自主研究指導教員を決定 (2)2年次の5月以降、4年次の1月まで、奇数月に進捗報告書を提出 (3)プログラムの各種活動に継続して参加
4年（年間）	<ul style="list-style-type: none"> 早期履修及び卒業研究を進める
4年修了時	<ul style="list-style-type: none"> 修了証授与

以下の学生はプログラム継続不可とする

- ・2年次終了までにPractical Englishの単位を取得できなかった学生
- ・留年した学生（ただし、理由によっては継続が承認される場合があります。）

エ 本プログラム修了要件

- (1) 本学卒業要件を充足すること
- (2) 理数自主研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を取得していること
- (3) 自主研究指導教員から修了を承認されていること

(7) ADEPTプログラム (AI Data Science Education Program for Tomorrow)

〈全学部対象〉

ア 創設の背景・目的

現代における情報化社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付けることが重要となっています。

本プログラムでは、修得した知識・技能を基に、人間中心とした適切な判断ができ、自らの意志でデータやAI技術を有効かつ、安全に活用することができる素養を身に付けることを目的としています。

なお、本プログラムについては令和4年8月24日付で、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されました。



【ADEPTプログラム科目一覧】

修了要件：①必修科目2科目(3単位)
 ②選択必修科目1科目以上(1単位以上)
 ※申請前に履修済みの科目は追認。

2023年度以降入学者

区分	科目名	科目種別	受講可能年次	学修目標※1				
				①	②	③	④	⑤
必修	情報リテラシー	共通教養科目	1～4年次	○	○	○	○	○
	総合講義（データサイエンス入門）		1～4年次	○	○	○	○	○
選択必修	総合講義（企業家に学ぶ）		1～4年次	○		○		
	プログラミングA		1～4年次	○	○	○	○	○
	プログラミングB		1～4年次	○	○	○	○	○
	プログラミングC		1～4年次	○	○	○	○	○
	DSリテラシー		1～4年次	○	○	○	○	○
	ビジネス統計Ⅰ		1～4年次	○		○		○
	ビジネス統計Ⅱ		1～4年次			○		○
	基礎物理学実験		1～4年次					○
	課題探究科目（ヘルスデータサイエンス）		1～4年次	○	○	○	○	○
	社会調査法入門		1～4年次	○	○	○	○	○
	データサイエンス倫理		1～4年次	○	○		○	
	都市課題実習Ⅰ		国際教養学部専門科目	2～4年次		○	○	○
保健医療統計学	看護専門支持科目	1～4年次		○	○		○	

2022年度以前入学者

区分	科目名	科目種別	受講可能年次	学修目標※1					
				①	②	③	④	⑤	
必修	情報コミュニケーション入門/情報リメディアル	共通教養科目	1～4年次	○	○	○	○	○	
	総合講義（データサイエンス入門）		1～4年次	○	○	○	○	○	
選択必修	総合講義（企業家に学ぶ）		1～4年次	○		○			
	プログラミング基礎		1～4年次	○	○	○	○	○	
	データ分析基礎		1～4年次		○	○	○	○	
	ビジネス統計Ⅰ		1～4年次	○		○		○	
	ビジネス統計Ⅱ		1～4年次			○		○	
	基礎物理学実験		1～4年次					○	
	課題探究科目（データサイエンス・リテラシー1）		1～4年次	○	○	○	○	○	
	課題探究科目（データサイエンス・リテラシー2）		1～4年次			○		○	
	社会調査法入門		1～4年次	○	○	○	○	○	
	情報倫理		1～4年次	○	○		○		
	都市課題実習Ⅰ		国際教養学部専門科目	2～4年次		○	○	○	○
	保健医療統計学		看護専門支持科目	1～4年次		○	○		○

※1：学修目標

- ①社会で起きている変化、データ・AI利活用の最新動向を身につける
- ②社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域を身につける
- ③データ・AI利活用のための技術を身につける・データ・AI利活用の現場を学ぶ
- ④データ・AI利活用における留意事項、データを守る上での留意事項を身につける
- ⑤データを読む、データを説明する、データを扱う能力を身につける

文領域横断型プログラムについて
 国際教養学部・国際商学部・理学部・
 データサイエンス学部・国際総合科学部

XI. 教員免許状の取得

(国際教養学部・理学部)

XI 教員免許状の取得(国際教養学部・理学部)

所定の科目を履修し、教育実習、介護等体験を行うと教員免許状を取得することができます。
教員免許状の取得に関する重要なお知らせはYCU-Boardに掲載します。常時確認してください。

1. 教員免許状の種類・教科

学部・学科	学校種	教科
国際教養学部 国際教養学科※	中学校教諭一種	英語
理学部 理学科	高等学校教諭一種	理科

※都市学系の学生は、教養学系や他学部と比較して、卒業必要単位数以外に多くの単位を修得する必要があります。

2. 基礎資格・必要単位数

免許状の種類		基礎資格	本学における最低修得単位数	
			各教科専門科目	教職専門科目
中学校教諭	一種免許状	学士の称号を有すること	24	36
高等学校教諭	一種免許状	学士の称号を有すること	32	28

3. 履修の要領

- (1) 教員免許状の取得を希望する学生は、履修登録にあたって、免許状を取得するための時間割の工夫をしてください。大学卒業までの間に、「憲法・体育等の科目」、「教職専門科目」、「各教科専門科目」をそれぞれの単位修得要件（後掲）にしたがって履修してください。
- (2) 国際教養学部・理学部では、各学期の履修上限単位数24単位と定められていますが、「教職専門科目」は例外です。すなわち上限単位数の24単位には含まれません。
- (3) 教職専門科目については、「10. 教職専門科目の単位修得要件」に従って、必修科目（高等学校一種は28単位以上、中学校一種は36単位以上）を修得してください。
- (4) 科目一覧表にはL～R2の教職マークが表示してあります。各教科専門科目は、「11. 各教科専門科目の単位修得要件」に従って、必ず必修科目を含めて、マークごとに所定の単位数を修得してください。

●1年次における時間割作成の際の留意点

1年次後期のはじめに教職課程説明会を開催します。教職課程の履修を考えている学生は、必ず参加してください。また、国際教養学部で英語の教員免許取得を希望する学生は、1年次の4月上旬に「国際英語プログラム」の説明会を開催しますので、必ず参加してください。

教職専門科目は1年次後期以降に履修してください。（教職専門科目の中には、同じ科目を2コマ開講しているものがありますが、どちらか一方を履修すれば構いません。）Practical Englishの単位を修得するのが難しいと感じている人は2年次以降に教職専門科目を履修してください。

1年次前期は「憲法」「体育」「情報機器の操作」（※P144参照）の履修を推奨します。

4. 介護等体験（中学校教諭免許状取得予定者は必須の実習）

中学校教諭免許状を取得する場合には、介護等体験を行うことが必要です。これは、特別支援学校及び所定の社会福祉施設で、通算して7日以上介護等の体験を行うものです。4年次の免許状申請の際には、その証明書を提出することになります（「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」による）。

毎年11月頃に次年度介護等体験の申込説明会を開催します。

説明会に出席し申し込みを行わないと、次年度の体験はできません。開催日時はYCU-Boardで通知します。

※留学（第2クォータープログラムを含む）を予定している場合、同じ年度に介護等体験を実施することはできません。

5. 履修カルテと教職実践演習

4年次後期の「教職実践演習（必修）」では、1年次から学んできた教職・教科に関する知識・体験を振り返り、教員として必要な資質・能力を統合的に向上させることを目的としています。4年次の履修にあたり、1年次後期から「履修カルテ」というノートで履修・体験の記録をつけていきます。

6. 教育実習

- (1) 教育実習の申し込み手続は、前年度（3年次）に行うことになっています。それに先立ち、申込手続の説明会を前々年度（2年次）の2月はじめに開催します。日時は12月頃にYCU-Boardで通知します。欠席すると4年次に教育実習ができなくなるので注意してください。
- (2) 4年次に「教育実習指導（前期2単位）」のほか、高等学校の免許状を取得する場合は、「教育実習Ⅰ（2週間）」、中学校免許状の場合、「教育実習Ⅰ（2週間）」と「教育実習Ⅱ（1～2週間）」を履修しなければなりません。ただし、教育実習ⅠとⅡ、すなわち合わせて3～4週間実習すれば中学校と高等学校の両方の免許状を取得できます。
- (3) 教育実習の教科は原則として免許状取得希望教科です。
- (4) 3年次までに「各教科専門科目」、「教職専門科目等」のうちの必修科目をできるだけ履修してください。

7. 免許状申請手続

免許状は県の教育委員会が授与します（いずれの県から授与されても、免許状は日本全国で有効）。本学卒業時に免許状取得を希望する者については、大学が一括して申請します。一括申請の手続については、4年次の6月頃に受付をします。

※教育実習、介護等体験、免許状申請手続等に関する掲示は、YCU-Boardで連絡しますので見落としのないよう十分に注意してください。

●申請の流れ

学年	時期	内 容
1年次	後期	【教職課程説明会】 教職課程の履修方法や履修カルテの記入等、4年間の流れについて説明します。
		【教育実習 申請手続き説明会】 欠席すると実習の申請手続きができません。 出身中学又は高校への実習依頼書類を配布します。
3年次	4月～7月	【教育実習 申請手続き】 下記書類（2年次2月の説明会で配布）を事務室へ提出 ・申告票（5月末締め切り） ・出身校（実習受入校）からの承諾書
		【教育実習 事前説明】 教育実習に行く直前、①実習の心構え、②教員採用状況、③実習校に持参する書類の配布・説明を行います。
4年次	7月頃	【教育職員免許状 一括申請】 卒業時に教員免許状の取得を希望する学生を対象に書類を配布・申請受付を行います。
	10月頃	【教育職員免許状 授与等申請書の配布・手数料支払い】 一括申請受理者へ、県教育委員会発行の「授与等申請書」を配布します。記載内容の確認と住所・氏名等を自署の上、県に納付する手数料を支払ってください。
	3月卒業式	【教育職員免許状 交付】 卒業証明書等と一緒に教員免許状を交付します。 単位不足のため卒業できない場合は申請取り下げとなります。

8. 教員免許状取得条件

免許状取得に必要な条件	①「憲法・体育等の科目」の修得	「9. 憲法・体育等の科目の単位修得要件」参照
	②「教職専門科目」の修得	「10. 教職専門科目の単位修得要件」参照 中学校免許状取得を希望する学生のみ対象の科目もあるため注意。
	③「各教科専門科目」の修得	「11. 各教科専門科目の単位修得要件」各専門科目教職マーク参照 それぞれの教科に必修科目が設定されている。必修科目以外の科目も、指定された単位数分修得する必要がある。
	④介護等体験（中学校のみ）	「4. 介護等体験」参照 毎年11月頃に次年度の申込みを受け付けます。

9. 憲法・体育等の科目の単位修得要件

[国際教養学部・理学部] (2023年度以降入学者)

科目の領域	授業科目	共通教養	専門教養	備考
憲法	・日本国憲法 (2単位)	○	—	必修
体育	・健康スポーツ実習 (1単位)	○	—	必修
	・スポーツ文化論 (2単位)	—	教養○	[国際教養学部] 左記3科目より1科目を選択必修 [理学部] 「健康スポーツ科学入門」が必須
	・身体運動科学 (2単位)	—	教養○	
	・健康スポーツ科学入門 (2単位)	○	—	
・健康スポーツ科学入門 (2単位)	○	—		
外国語コミュニケーション	・Practical English (3単位)	○	—	必修 (かつ3年次への進級要件)
情報機器の操作	・情報リテラシー (1単位)	○	—	左記4科目より1科目を選択必修
	・プログラミングA (1単位)	○	—	
	・プログラミングB (1単位)	○	—	
	・プログラミングC (1単位)	○	—	
	・DSリテラシー (1単位)	○	—	

10. 教職専門科目の単位修得要件

	教職専門科目の単位修得条件	単位数	履修年次	備考
必修	教師論	2	1~4	1年次後期~3年次までの履修を強く推奨する
	教育史・教育思想	2		
	教育心理学 (1単位)	1		
	教育制度論	2		
	特別支援教育 (1単位)	1	2~4	3年次までの履修が望ましい ※「教育方法・技術 (ICT活用を含む)」は 2022年度以降入学者が対象です。
	教育課程論	2		
	教育方法・技術	2		
	教育方法・技術 (ICT活用を含む) ※	2		
	特別活動論 (総合的な学習の時間の指導を含む)	2		
	生徒指導・進路指導論	2	4	4年次のみ
教育相談	2			
教育実習指導 (事前事後指導を含む)	2			
教育実習Ⅰ	2	4	4年次のみ	
教職実践演習	2			
中学校免許 取得希望者のみ 必修	道徳教育論	2	2~4	3年次までの履修が望ましい
	教育実習Ⅱ	2	4	4年次のみ
取得免許状の 教科について 必修	【国際教養学部】		2~4	※【中学校免許】取得予定者は、左記4科目(8単位)必修。 【高等学校免許】取得予定者は、左記「I-1とI-2」の 2科目(4単位)のみ必修。
	英語科教育法Ⅰ-1 (中・高※)	2		
	英語科教育法Ⅰ-2 (中・高※)	2		
	英語科教育法Ⅱ-1 (中※)	2		
	英語科教育法Ⅱ-2 (中※)	2	2~4	※【中学校免許】取得予定者は、左記4科目(8単位)必修。 【高等学校免許】取得予定者は、「I-1とⅡ-1」又は 「I-2とⅡ-2」のいずれかの組合せで選択必修。 ★上記、組合せに要注意
	【理学部】			
	理科教育法Ⅰ-1 (中・高※)	2		
	理科教育法Ⅱ-1 (中・高※)	2		
理科教育法Ⅰ-2 (中・高※)	2	2		
理科教育法Ⅱ-2 (中・高※)	2			

XI 教員免許状の取得
 憲法・体育等の科目の単位修得要件
 教職専門科目の単位修得要件

11. 各教科専門科目の単位修得要件

(1) 英語科 教科専門科目 (国際教養学部)

	教職マーク	施行規則に定める科目区分 [教科及び教科の指導法に関する科目]	英語科 教科専門科目	中学校の場合 の単位数	高等学校の場合 の単位数
必修	Q1	英語学	英語学入門A	2	2
	R1	英語文学	「アメリカ文学A」又は 「イギリス文学A」いずれか1科目 選択必修	2	2
	Q2	英語コミュニケーション	Advanced Practical English II～VI いずれか1科目選択必修 [注意]受講条件あり* (Businessは除く)	2	2
	R2	異文化理解	「アメリカ文化論」又は 「イギリス文化論」いずれか1科目 選択必修	2	2
コミュニケーション論			2	2	
選択必修	上記以外の英語科教科専門科目でQ1、R1、Q2、R2の科目			14以上	22以上

*Advanced Practical English II～VIは、受講条件があります。「V 共通教養科目」>6. Guide to practical English & Advanced Practical English] のページを確認してください。

*Advanced Practical English IV以外は、2024年度以降履修した場合が対象です。

(2) 理科 教科専門科目 (理学部)

	教職マーク	施行規則に定める科目区分 [教科及び教科の指導法に関する科目]	理科 教科専門科目	中学校の場合 の単位数	高等学校の場合 の単位数
必修	L	物理学	物理学概説A	2	2
			物理学概説B	2	2
	M	化学	基礎有機化学	2	2
			基礎無機化学	2	2
	N	生物学	細胞生物学	2	2
			遺伝学	2	2
	O	地学	地学概説	2	2
	PL	物理学実験	基礎物理学実験	1	左記の科目 より 1単位以上
PM	化学実験	基礎化学実験	1		
PN	生物学実験	基礎生物学実験	1		
PO	地学実験	地球科学実験	2		
選択必修	上記以外の理科教科専門科目でL、M、N、O、PL、PM、PN、POの科目			5以上	16以上

12. 国際教養学部「国際英語プログラム」(※英語教員免許取得予定者は修了必須)

英語教員免許取得予定者は、「国際英語プログラム」の修了が必須です。

「国際英語プログラム」の詳細については、「VI 国際教養学部における専門教育」>11. 国際教養学部「国際英語プログラム」のページを参照してください。

XII. 医学部における専門教育

医学部

XII 医学部における専門教育

横浜市立大学に入学された皆さん、医学部を代表して歓迎します。共に横浜の地で研鑽を積んでいきましょう。

医学・看護学を志し、横浜市立大学医学部の門を叩いた皆さんは、医学・看護学を習得していこうとする意欲に満ち溢れていることでしょう。現在の教育内容は多様化し、また習得すべき知識量もますます多くなっています。教育方法はこれまで以上に能動的な教育へと変容していきますので、知識習得に対して学生の皆さん自身の積極的な努力が求められます。加えて、病気で悩んでいる多くの人やその家族は、様々な社会的あるいは個人的な背景を持っていることを慮ってください。専門的な知識はもちろんのこと、豊かな教養を身につけ、他者に対するいたわりの気持ちを持ち、変わりなく真摯な姿勢であることが求められます。

本学医学部は、地域社会や国内外で活躍できる、医学・看護を担う人材育成と、創造的研究により社会の発展と人類の福祉に寄与することを使命としています。この使命のもと、新しい時代の医学・医療を担う医療人を育成するために、教育・研究に取り組んでいます。

医学科では、「医学教育センター」において、現行の教育内容と方法を検討し、医学教育の質をより向上させ、優れた医療人を育成することを目的とした実践的な活動を行っています。具体的には、学年に応じた課題を検討する教養教育、基礎医学、臨床・病棟の各部門のほか、学年横断的な課題を検討する医学教育推進部門、国際化に関連する案件を扱うグローバル推進部門など5つの部門において、学生の積極的・能動的な学習意欲を引き出す授業形態を検討・熟議し、医療を支える実践的能力と旺盛な研究心を持った人材の育成を進めています。

一方、看護学科においては、発展する国際都市横浜に拠って立つ、医学部を有する総合大学の看護学の学科であることを踏まえ、高度教養教育として求められる国際性、創造性および倫理観はもとより、様々な背景を持つ患者やその家族の苦しみや痛み、喜びも理解することができる、豊かな人間力を持った人材の育成に取り組んでいます。また、令和6年度から、新たな「YCU看護キャリア開発支援センター」を中心として、看護に関する教育・研究・医療及び看護職員のキャリア支援について附属2病院と連携協力を推進し、質の高い看護の提供を目指しています。こうした取組を通じて、将来リーダーシップを発揮できる看護職の育成を進めています。

皆さんの中には、新生活に様々な不安を感じている方がいると思います。困ったことや分からないことがあれば、いつでも医学教育推進課事務室に相談にお越しくください。職員の対応で問題解決できない場合は、医学部学生の場合、勉学と生活面の支援を目的とした担任制を導入していますので、担任に相談できる機会を調整します。また、心身の健康をサポートする保健管理センターもありますので、気兼ねせず相談ください。

医療人として社会で活躍するには、まずは国家試験合格が目標となります。この目標に向けて真剣に努力し、充実した学生生活を送ってください。医学部教職員が一丸となって、皆さんの夢の実現をサポートします。

本学は、神奈川県下で医学部を有する唯一の公立大学として、横浜市民ばかりでなく神奈川県民に良質な医療を提供する責務があります。換言すれば、地域住民が満足する最先端の医療を実施できる医療人の育成と輩出の役割が課されています。皆さんが人のため社会のため、市民の誇りとなる立派な医療人となり、巣立っていくことを心から願っています。

医学部長

1. 医学科

(1) 学科の基礎教育及び専門教育について

医学科のカリキュラムは、1年次の共通教養科目、専門教育への導入カリキュラムとしての医学基礎教育科目、及び2年次以降の専門教育科目からなります。これらのカリキュラムのうち、医学基礎教育科目の一部と専門教育科目の授業は主に福浦キャンパスで行われます。専門教育カリキュラムでは、基礎医学、社会医学、及び臨床医学について、講義、演習、実習を通して学びます。ここでは医学教育内容のガイドラインである「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の内容を踏まえ、さらに発展的な内容まで学習します。

1年	2年	3年	4年	5年	6年	2年間	初期臨床研修後
共通教養 医学基礎教育	基礎医学 基礎医学実習 医学概論	基礎医学 基礎医学実習 医学概論 社会医学 臨床医学	研究実習 基礎医学 臨床医学 診療入門 臨床実習	臨床実習 基礎医学	社会医学 臨床医学	初期臨床研修	大学院 後期臨床研修 (専門医養成)

▲
入学試験

▲
共用試験

▲
・卒業試験
・共用試験
(臨床実習後)

▲
国家試験

2年次から、基礎医学の講義と実習が行われ、臨床の基盤となる医学の基礎と最先端医学研究の現状を学びます。また、3年次には社会医学の講義と実習が行われ、医療を社会・行政の視点から学びます。そして、基礎医学と社会医学を踏まえ、臨床医学の講義が始まります。臨床医学の講義は4年次1学期の研究実習を挟んで4年次2学期まで続きます。臨床のモデルケースを課題としたチーム基盤型学習（team-based learning：TBL）や基本的診療技能学習も行われます。研究実習では、基礎又は臨床教室において、医学研究を通じて医学の発展自らが寄与することで、医療人として必要な探求心や創造性を学びます。

4年次には、臨床実習を開始する前に適切な知識と技能・態度を有しているかを評価する目的で、全国共通の「共用試験」と呼ばれる試験が行われます。コンピュータを用いて医学知識の習得レベルを評価するCBT（Computer Based Testing）と診療技能や態度を評価するOSCE（Objective Structured Clinical Examination）からなります。試験に合格すると、臨床実習生（医学）として4年次3学期から6年次にかけて行われる臨床実習（clinical clerkship）に進むことができます。

臨床実習では、臨床系各科を数週間ごとに回り、実際に患者さんを受け持って診療に参加します。臨床実習修了後、臨床研修開始時に必要とされる臨床能力を現場に即して実施できるかを評価するPost-CC OSCE（Post Clinical Clerkship OSCE）が行われます。

全カリキュラムを通じて、先端医療、医学研究、医療行政の分野で活躍できる専門性の高い医師から、プライマリ・ケアを実践する総合医まで、多様な医療分野を担う人材を育成します。

以下、主なカリキュラムや授業内容などについて、簡単に紹介します。

医学基礎教育

物理学、化学、生物学、臨床心理学などの分野を学習し、専門教育を受けるための基盤となる知識や考え方を修得します。また、医師や医学研究者としてのキャリア形成の第一歩として、短期間、診療や研究が行われている医療現場や教室において、教室体験演習を行います。診療や研究などの活動に実際に触れ、医学生としての自覚をもち、医学を学習する動機づけを高めることを目的としています。さらに、英語力を医療現場で活かせる能力を養うため、専門教育課程の中でも医学英語に触れる機会を設置します。

医学概論

医師には、様々な医療スタッフと連携して患者さんと信頼関係を築くことが求められます。本科目では、医師に必須の医療倫理やプロフェッショナルリズムのほか、患者と医師の関係、チーム医療のためのコミュニケーション技法などについて学びます。

基礎医学

医学の基礎となる学問領域で、正常な人体の構造と機能、及び様々な疾患の原因と引き起こされる病態、薬物の作用などについて、個体、組織、細胞レベルから分子構造レベルまで、幅広い視点から学習します。講義、演習、実習を通して、知識、論理的な考え方と研究手法を学びます。

社会医学

個人と集団、健康に影響する要因、政策とのつながりについて学びます。公衆衛生学や法医学などについて理解を深め、地域医療を学ぶ一環として、診療所など地域医療機関を体験する地域保健医療学実習も行われます。

臨床医学

臨床実習を行うために必要不可欠な臨床医学の基本的な重要事項について、主に講義による授業を通して学習します。臨床系科目を系統講義として学ぶほか、症候や病態について、問題基盤型の授業（PBL）及びチーム基盤型（TBL）の授業も行われます。

研究実習（リサーチ・クラークシップ）

教室に15週間所属して、医学研究に参加します。医療人として医学知識と医療技術を駆使するためには、科学的な視点を培う必要があります。この科目では、研究手法の習得にとどまらず、それらを基に未解明の医学的課題に取り組むための論理性を養い、問題解決能力を身に付けることを目的とします。研究体験を通して、医学・医療の進歩を継承し、さらなる発展に貢献するための考え方や心構えを身に付けます。

診療入門

診療に関する基本的な知識・技能・態度について学びます。また、臨床推論や鑑別診断法も学んで臨床実習に備えます。

共用試験

平成17年度から実施されている全国規模の試験です。CBTとOSCEがありますが、両方に合格しなければ臨床実習に参加することができません。CBTは主に医学的な知識の習熟程度を評価するものでコンピュータを用います。OSCEは客観的に臨床実技能力と態度を評価する試験です。医療面接、胸部診察、腹部診察、頭頸部診察、神経診察、基本的手技、救急処置などが評価されます。

臨床実習（クリニカル・クラークシップ）

4年次の共用試験（CBT・OSCE）に合格すると、臨床実習生（医学）としてクリニカル・クラークシップと呼ばれる診療参加型の病棟実習を行う資格が与えられます。チームの一員として診療に参加し、上級医の指導のもとに様々な職種のスタッフと連携して、患者さんとの間に信頼関係を築くことを学びます。また、ケース・プレゼンテーション、診療計画の立案、カルテ記載、侵襲度の高くない医行為、などを行います。

共用試験（臨床実習後）

令和2年度から臨床実習後の学生を対象に実施されている全国共通の試験です。臨床研修開始時に必要とされる臨床能力のうち、外来及び病棟において、成人、小児の健康上の問題に対して、本人や家族等の心理的・社会的背景や医療安全・感染対策に配慮し、頻度の高い、あるいは重要な疾患を想定しながら（臨床推論）定められた時間内に医療面接、身体診察を行い、指導医に症例プレゼンテーションを行う能力が評価されます。

〈医学科カリキュラム全体像〉

	1 学期		2 学期		3 学期	
1 年次	共通教養 医学基礎教育				共通教養 医学基礎教育	
2 年次	基礎医学 基礎医学実習 医学概論		基礎医学 基礎医学実習 医学概論		基礎医学 基礎医学実習	
3 年次	基礎医学 臨床医学 社会医学		基礎医学 臨床医学 社会医学 医学概論		基礎医学 臨床医学 社会医学	
4 年次	研究実習 (リサーチクラークシップ)		基礎医学 臨床医学 診療入門 OSCE・CBT		臨床実習	
5 年次	臨床実習		臨床実習 基礎医学		臨床実習	
6 年次	臨床実習 臨床医学 社会医学	マッチング	臨床実習 社会医学	卒業試験 臨床実習後 OSCE	まとめ	国家試験

(2) 医師免許取得と生涯学習

医師国家試験

臨床実習を終えて、すべての必修科目（201単位）に合格すると医学科卒業が認められます。さらに、医師国家試験に合格すると医師免許が与えられます。国家試験には内科、外科、小児科、産婦人科、精神科など医学部で学ぶ全科目の問題が出題されます。医師免許を取得すると社会的に医師として認められますが、まだ一人で診療することはできません。独立して診療する資格は、卒業後2年間の初期臨床研修を修了することによって得られます。

卒後臨床研修

卒業後は、研修を希望する病院プログラムを自分で選び、マッチング・システムでマッチすればその病院で2年間の初期臨床研修を行うことができます。横浜市立大学は附属病院と市民総合医療センターの2病院をもち、神奈川県や東京都の17中核病院と研修病院群を形成して充実した研修プログラムを提供しています。

このため、全国の大学卒業生が多数応募し、附属2病院におけるマッチ率は、全国でトップクラスとなっています。研修科目としては、内科、外科、救急科、小児科、産婦人科、精神科、麻酔科、地域医療が必修となります。

生涯学習

個個人の専門領域の選択は初期臨床研修を終えた後となります。引き続き、専門医研修を受ける、あるいは大学院博士課程に進むなど、医師あるいは研究者として自らの能力に磨きをかけます。将来、病院に勤める、診療所を開設するなど進路がありますが、教育、研究、行政などの分野に進む医師もいます。どの道を選んでも、医師は、プロフェッショナルとして生涯にわたり学び続け、人を病から救うという使命を負います。

(3) 1年次生が身に付けること

1年次には本学の共通教養教育の理念に基づいて、将来医師となり医療を实践する上で有用となるリベラル・アーツについて広く学んでください。医師は生涯にわたり学習し続けなくてはなりません、その基礎となる部分について十分に習得してもらいたいと考えています。また、他学部や看護学科の学生と共に学ぶことができるので、広いコミュニケーションを通じて多様な価値観や考え方に触れる絶好の機会になると思います。

2年次以降の医学専門コースに進むには、共通教養で医学科生向けの必修科目を履修して所定の単位数を取得する必要があります。この点に関しては他学部の学生とは異なりますので十分に注意してください。

医学科が担当する必修科目について、簡単にご紹介します。総合講義「医療と社会」では、医学・医療における倫理的課題等を医療人だけではなく様々な分野で活躍している方にご紹介頂きます。

実践科目「福祉施設実習」では特別養護老人ホーム、重度心身障害者施設等において実習等を行います。入所されている方とのふれあいを通して福祉の意義を学ぶと共に意思の疎通をはかる方法について体験的に学びます。

このような学習により、学生は幅広い視野で医療を見つめる機会を持つようになると期待されています。なお、共通教養科目「病気を科学する」では、がん、心筋梗塞、脳卒中など頻度の高い疾患の病態、診断、治療法を紹介し、病気を科学的に考える方法等について学んでもらいます。加えて、医学科生には医学基礎教育科目も必修・選択必修となります。

さらに本学では、1年次に新入生研修を実施し、今後、医学を学んでいくことの意義などについて理解を深めてもらいます。

1年次に身に付けたことをしっかりと活かしながら、2年次以降の医学専門課程に進むよう願っています。

2. 看護学科

(1) 教育理念

幅広い教養と豊かな人間性および生命と個人の尊厳を尊ぶ高い倫理観、多様な社会に柔軟に対応する応用力を備え、看護学研究の基礎的能力および学際的な看護の専門性を有し、看護学を基盤に多様な社会で活躍するリーダーを育成します。

(2) 教育目標

- (1) 【幅広い教養と高い倫理観】幅広い教養と豊かな人間性を涵養し、生命の尊厳を基調とする高い倫理観を備え、全人的な人間理解と人権を尊重する人材を育みます。
- (2) 【多様な社会への応用力】地域社会や国際社会の変化や人々の多様な価値観に柔軟に対応できるよう、人々の健康と生活の質向上に貢献できる基礎的能力を育みます。
- (3) 【看護学研究の基礎的能力】研究の基礎的能力を養い、看護学の発展をリードし、人々の健康で幸福な生活を実現します。
- (4) 【学際的な看護の専門性】科学的根拠に基づいた判断能力・課題解決力・実践力を養い、自己教育力を備えた学際的な看護の専門性を育みます。

(3) カリキュラムの構成

看護学は、保健師・助産師・看護師等が活動する専門性の根拠を理論的かつ体系的に追究する実学としての学問領域です。本学科では、4年間で様々な科目を関連付けながら学び、「看護学を基盤に多様な社会で活躍するリーダー」となることを目指します。そのために各学年で次のように段階的に学んでいきます。

- 1年次「看護学の専門性の基盤をつくる」
- 2年次「看護学の科学的根拠を学び考える」
- 3年次「看護学の専門性を学び深化する」
- 4年次「看護学を基盤にキャリアを発展させる」

本学科のカリキュラムは、共通教養科目と専門支持科目ならびに、専門科目により構成されています。

共通教養科目は「問題提起科目群」「技法の修得科目群」「専門との連携科目群」の3科目群から構成され、すべての学生に求められる教養の核を形成することを目指します。人々の健康というグローバルで普遍的な課題においては、看護学のみならず学際的な解決が求められています。そこで看護の専門領域や臨床・地域の場においてデータ・AIを活用できるよう、ADEPT (AI Data Science Education Program for Tomorrow) プログラムの履修を通じ、データを読み解き、活用する基礎的能力を養います。さらに、全学の学生が健康・看護に関する課題を国際的視点から学ぶことができる中期海外留学(看護学)、短期海外留学(看護学)を配置しています。

専門支持科目は、人間の健康と生活の理解を養う看護生命科学と看護社会科学から構成されています。看護生命科学では、健康・疾病・治療に関わる諸問題・課題を理解する基盤ともなる身体の形態・機能などに加え、検査、治療など医療と深く関わる科目と、その理解を支える基礎的科目を配置し、ミクロ・マクロの両視点より教授します。看護社会科学では、人間生活の営みの基盤ともなる発達や対人関係、さらに健康生活を支える仕組みを広く理解する科目を配置しています。

専門科目では、「健康生活」という考え方を基盤としています。地域社会で暮らす人々から高度先端医療を受ける人までを対象とし、健康や生活の質の向上を追求するためのエビデンスとなる知識を入手し、理解するための科目です。「健康生活」を基礎・応用・統合の3分野から構成し、健康生活基礎看護学、健康生活応用看護学Ⅰ・Ⅱ、健康生活統合看護学より構成されています。これらの分野では、講義・演習・実習の順序性をもって配置すると共に、講義では概論・方法論の順序性をもちます。

健康生活基礎看護学は、基礎看護学を配置し、後続する健康生活応用看護学ならびに健康生活統合看護学の基盤ともなる内容を教授します。専門科目の導入かつ基盤として、看護を広い視野で多角的に概観し、学

問と実践の2側面からその本質に迫る視点を養います。また、看護の初学者として看護実践を生活者の視点で捉え、看護の営みを俯瞰し、人々や集団の多様な価値観を認めるプロフェッショナルリズムの基盤をつくります。

健康生活応用看護学Ⅰは、専門基盤看護学・成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学・在宅看護学から構成され、発達に即した看護と発達を横断的に精神面や生活面から捉える科目を、看護学を体系的に学べるような順序性で配置しています。とりわけ、健康生活応用看護学Ⅰでは、各看護学の内容の理解を円滑にする視点から、各看護学の内容に深く影響し関連する特徴的な疾病の病態治療学の科目を配置しています。専門基盤看護学では、後に続く成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学・在宅看護学の各看護学領域の科目について、つながりをもって理解していくために配置しており、健康生活看護学概論、発達看護学概論では、人の健康や生活、発達の各看護学領域に関わる概論的な内容について横断的に学べるようにしています。さらに、多様性看護学演習では、人々の生活の場の多様性や複雑性に対応し続ける力を身に付けるために各看護学領域の実習を統合して学んでいきます。

健康生活応用看護学Ⅱは、対象を個と集団と地域社会との関係で捉えることに加え、地域社会の健康生活と関わる仕組みを構築できるように、地域看護学・公衆衛生看護学を配置しています。健康生活応用看護学Ⅱでは、個人・家族・集団・地域の健康の回復、維持、増進に焦点をあて、他職種と協働する中で看護の役割の理解を深める目的から、地域看護学は各看護学領域に関わる看護職としての基礎を学ぶため前半に、公衆衛生看護学は、各看護学領域を関連づけ応用し保健師としての専門的能力を学ぶため後半に配置しています。

健康生活統合看護学は、専門共通看護学・国際看護学・統合実践看護学・キャリア形成看護学により構成されています。

専門共通看護学は、健康生活応用看護学Ⅰ・Ⅱに横断的に関与し、健康生活応用看護学をより豊かに、かつ円滑に理解できる科目群として、看護プロフェッショナル教育論・看護プロフェッショナル教育論演習・家族看護学・災害看護学・看護倫理学・看護管理学・感染看護学を配置しています。

国際看護学は、国際看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、国際看護学演習Ⅰ・Ⅱより構成されます。国際看護学Ⅰでは看護を目指す初学者が、国際的視野を持ち、看護に対する理解を深めることができるように学びます。国際看護学Ⅱでは国際看護の主要概念、文化や人種を越えた看護の役割・機能に関し理解を深め、国際看護学Ⅲにおいて国際都市横浜ならではの地域特性からの健康課題、国際協力などに関わる内容の理解を深めます。また、国際看護学演習Ⅰではフィリピンでのフィールドワーク、国際看護学演習Ⅱではハワイ看護研修を実施し、地域社会や国際社会の変化や人々の多様な価値観に柔軟に対応でき、協働して人々の健康と生活に貢献できる基礎的能力を身に付けます。

統合実践看護学は、看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで構成されており、看護の統合と実践Ⅰでは、看護実践の向上と関わる課題について探究するための一般的な研究方法論を学びます。そして、看護の統合と実践ⅡとⅢでは、看護実践活動の中から看護の特質を明らかにするために、実践現場の専門職と連携しながら実践し、その課題追究の成果を卒業論文としてまとめます。

キャリア形成看護学は、キャリア形成看護学実習・ベーシックⅠ～Ⅳ、キャリア形成看護学実習・アドバンスⅠ・Ⅱで構成されています。キャリア形成看護学実習・ベーシックⅠ～Ⅳは、看護職としての自己形成・陶冶を目指すために、看護専門職の実践の基盤となる基本的な知識や技術・倫理観等を各学年で積み上げながら学びます。そしてキャリア形成看護学実習・アドバンスⅠ・Ⅱは、学生個々人の目指すキャリアに応じた関心や課題を明確化し、更に発展させていきます。

本カリキュラムでは、免許教育と関わる教育内容も加味しています。看護師国家試験受験資格と関わる内容は、全員が必修科目として履修します。保健師国家試験受験資格と関わる科目は、希望する学生の中から選抜により選択できるように配置しています。

以上のカリキュラム構成により、生命の誕生から安らかな死に至るすべての人々のライフステージで必要とされ、かつ保健医療福祉機関から地域在宅等、国内外におけるあらゆる看護活動の場での看護実践活動を支える看護学の基礎が体系的に網羅されています。各学年での学習内容を積み上げながら、そして関連付けながら学ぶことで、幅広い教養と高い倫理観、多様な社会への応用力、看護学研究の基礎的能力、学際的な看護の専門性を備えた「看護学を基盤に多様な社会で活躍するリーダー」となることを目指します。

卒業に必要な単位数、進級要件、卒業研究等に関しては、学科の教育要項を参照すること。

〈看護学科のカリキュラムの全体像と進度〉

区分	学 科 目 群	学 科 目 群	配当時期
共通教養科目	教養ゼミ 情報関連入門科目 基礎科学講義 語学 総合講義	他学部を含むすべての学生と共に学ぶことができる「共通教養」科目を開講しています。ツールとしての機能を併せ持つ基礎的分野のみならず、人間形成や幅広い価値観の育成などに有益な基礎科目です。 語学では将来国際的な看護活動ができるように、TOEFL500点を目標にした教育を行います。	教養ゼミ 情報リテラシー 心理学入門 倫理学入門 病気を科学する YCUリベラルアーツ入門 Practical English など 1年次 ～ 4年次
専門支持科目	看護生命科学	健康・疾病・治療に関わる諸問題・課題を理解する基盤ともなる人体の形態・機能などに加え、検査や治療など医療と深く関わる科目とその理解を支える基礎的な科目を履修することができます。	看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ 看護形態機能学演習Ⅰ・Ⅱ 臨床病態看護学Ⅰ・Ⅱ 看護生化学 看護栄養学 看護微生物学 看護薬理学 1年次 ～ 2年次
	看護社会科学	人間生活の営みの基盤ともなる発達や対人関係、さらに健康生活を支える基礎的な科目を履修することができます。	人間発達学 対人関係論 公衆衛生学 保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ 保健医療統計学 など 1年次 ～ 4年次
専門科目	健康生活基礎看護学	後続の健康生活応用看護学並びに健康生活統合看護学の基盤となる科目として、また看護実践の基盤となる科目として基礎看護学を配置しています。	基礎看護学 1年次 ～ 2年次
	健康生活応用看護学Ⅰ	専門基盤看護学・成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学・在宅看護学の7領域から構成されています。ここでは、発達に則した看護学と発達を横断的に精神面から捉える看護学を配置しています。概論・方法論・演習・実習で構成され、体系的に学べるよう順序性をもった学修課程にしています。	専門基盤看護学 成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学 在宅看護学 1年次 ～ 3年次
	健康生活応用看護学Ⅱ	在宅看護学・地域看護学で構成されています。ここでは、対象を個と集団との関係で捉えることに加え、地域社会の健康生活と関わる仕組みを包括して捉えるよう教授します。とりわけ、個人・家族・集団・地域の健康の回復、維持、増進に焦点を当て、他職種と協働する中で看護の役割の理解を深めます。	地域看護学 公衆衛生看護学 1、2、 4年次
	健康生活統合看護学	専門性をより発揮させる視点を獲得し、健康生活応用看護学Ⅰ・Ⅱに横断的に関与する科目群で、将来のキャリア開発に必要な科目を配置しています。	専門共通看護学 1年次 ～ 4年次
		国際看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、国際看護学演習Ⅰ・Ⅱより構成されます。国際看護学Ⅰでは、看護を目指す初学者が、国際的視野を持ち、看護に対する理解を深めることができるように教授します。国際看護学Ⅱでは、国際看護の主要概念、文化や人種を越えた看護の役割・機能に関し理解を深め、国際看護学Ⅲにおいて国際都市横浜ならではの地域特性からの健康課題、国際協力などに関わる内容の理解を深めます。また、国際看護学演習Ⅰではフィリピンでのフィールドワーク、国際看護学演習Ⅱではハワイ看護研修を実施し、地域社会や国際社会の変化や人々の多様な価値観に柔軟に対応でき、協働して人々の健康と生活に貢献できる基礎的能力を身につけます。	国際看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 国際看護学演習Ⅰ・Ⅱ 1年次 ～ 4年次
		看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで構成されており、看護の統合と実践Ⅰでは、看護実践の向上と関わる課題について探求するための一般的な研究方法論を学びます。そして、看護の統合と実践ⅡとⅢでは、看護実践活動の中から看護の特質を明らかにするために、実践現場の専門職と連携しながら実践し、その課題追及の成果を卒業論文としてまとめます。	看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 3年次 ～ 4年次
キャリア形成看護学では、キャリア形成看護学実習・ベーシックⅠ～Ⅳおよびキャリア形成看護学実習・アドバンスⅠ・Ⅱより構成され、ベーシックⅠ～Ⅳは、看護職としての自己形成・陶冶を目指すために、看護専門職の実践の基盤となる基本的な知識や技術・倫理観等を各学年で積み上げながら学びます。アドバンスⅠ・Ⅱは、学生個々人の目指すキャリアに応じた関心や課題を明確化し、さらに発展させていきます。	キャリア形成看護学実習・ベーシックⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ キャリア形成看護学実習・アドバンスⅠ・Ⅱ 1年次 ～ 4年次		

Ⅻ医学部における専門教育
／看護学科

横浜市立大学 総合履修ガイド
国際教養学部・国際商学部・理学部・
データサイエンス学部・医学部・国際総合科学部

発行日 令和8年4月1日
編集 横浜市立大学 教育推進課 教務担当
TEL：045-787-2042
〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2
発行 横浜市立大学



伝統と革新の、その先へ

1928 - 2028

横浜市立大学